變化させることなく、また變化させ得なかつたであらう。まだそのことは、小ブルジョア的農民階級のうちに、何物をも變化させなかつたであらう。そしてそれは適當な時に於て農民をブルジョアジーから引きはなし、勞働者に近づけ、更に勞働者と結合させるやうに、著大な進行をなさしめたであらう。

權力が適當な時に於てソヴィエットへ移つてゐたならば、さうなつてゐたであらう。そのことは民衆にとつて、最も容易な、最も有利なことであつたらう。かゝる道は最も苦痛のない道であり從つてまた、最も力をこめてそのために戰はなければならなかつたであらう。然し今や此の闘爭適當な時に權力をソヴィエットへ移すための闘爭は終りを告げてゐる。平和な發展行程は不可能になつた。平和ならざる、正に悲しむべき道がはじまつた。

七月四日のクウデターの意義は、それ以來まさしく客觀的狀勢が拙劣に變化してしまつたことにある。政府の動搖せる態度は終局を告げ、決定的な部分の權力は反革命の掌中に移つた。社會革命黨やメンセヴィキの小ブルジョア政黨と、反革命的立憲王黨との、聯合の基礎の上に於ける政黨の發展は、是等二つの小ブルジョア政黨が反革命的首斬人の實の仲間、助手であることを示すに

いたつた。資本家に對する小ブルジョアの無意識的信賴心は、彼等小ブルジョアを、政黨闘爭の發展行程をとほして、反革命の意識的支柱たらしめたのである。政黨關係の發展範圍は完了した。二月二十七日には、有らゆる階級が相一致して、王政に反對して立つた。然るに七月四日以來は反革命的ブルジョアジーが、王政主義者及び黑手（ツユウォルツエ・フンデルト）組と手に手をとり、小ブルジョア的な社會革命黨並びにメンセヴィキを、部分的に威嚇したのち、自分の方へ引きつけた。そして實際は國家權力をカヴェニヤックの手に、即ち戰線に於て謀反者を射殺し、まだペテルスブルグに於てボリセヴィキの組織を蹂躙する軍閥王黨の手にゆだねた。

すべての權力をソヴィエットへ！　といふ標語ほ、今や一つの狂想、若しくは一つの嘲笑の如くに見られるであらう。此の標語は、客觀的には、民衆を迷はしめ、次の如き幻想をおこさせるものであらう。即ち、（一行略）――恰もソヴィエットの內部に、首斬人の助手をつとめて自分を汚さなかつた諸政黨があるかのやうに、また恰も起つたことを起らないやうにすることが出來得るかのやうに、考へさせるものであらう。

社會革命黨やメンセヴィキがボリセヴィキ狩りを支持したが故に、戰線に於て勞働者を射殺し、

勞働者の武裝を解除したが故に、×××プロレタリアートは社會革命黨及びメンシェヴィキに對する言はゞ「復讐の念」から、彼等を反革命に對抗して支持することを『拒絶』し得るであらう、と信じようとするのは、最も大きな誤謬であらう。かゝる解釋は、先づ第一に、小ブルジョア的道德概念をプロレタリアにあてはめんとすることを意味するであらう。(何故なら事態を利用するためには、プロレタリアートはいつもたゞに動搖せる小ブルジョアのみならず、大ブルジョアジーをも支持するであらうから)第二に――そしてこれが最も重要なことである――それは『道德化すること』によつて、問題の政治的核心を隱蔽せんとする小ブルジョア的試みを意味するであらう。

(一行略)現在に於ける權力の眞の所有者、即ちペテルスブルグへ進軍して來た反動的軍隊にカデット及び王黨に倚つてゐる。軍閥王黨カヴェニヤックを徹底的鬪爭に於て征服したのち、吾々は初めて××を獲得することが出來る。

(一行略)かゝる運動を起すための條件は、その運動がプロレタリアートによつて指導されてゐるといふ事情だけではなく、その運動がまた、革命の裏切りをした社會革命黨及びメンセヴィキの諸黨に反對してゐる、といふ事情もそれである。

政治のうちへ小ブルジョア的道德を移入する者は、好んで次のやうな議論をする。即ち、社會革命黨とメンセヴィキとはカヴェニヤックを支持し、プロレタリアート及び××××を武裝解除することによつて、一つの『過失』を犯したと假定せよ、――然し彼等に誤謬を『訂正する』可能性をあたへなければならない。彼等の『過失』の改善を困難ならしむべきではない。小ブルジョア階級が勞働者の方へ轉向することを容易ならしむべきである、と。かゝる種類の議論は、民衆を新しく欺くことでないまでも、馬鹿げた素樸さであるか、或は單なる愚鈍さであらう。なんとなれば、小ブルジョア大衆の勞働者への轉向は、たゞ、この大衆が社會革命黨及びメンセヴィキに反對してゐるといふことにあるのだからである。社會革命黨及びメンセヴィキの諸黨によつてなされる『過失』の改善は、今やたゞ、是等の諸黨が、ツェレッテリとチェルノフ、ダンとラキトニコフが、首斬人の助手であることを宣言することにのみ存し得るであらう。吾々は飽くまで又無條件に、過失のかゝる『改善』に贊成する。

××の根本問題は政治××の問題であると吾々は言つた。これに附け加ふべきことは、××こそ眞實の權力がどこにあるかといふ問題を事々に吾々に示し、形式的權力と實質的權力との分

離を示すといふことである。即ちこのことに、すべての革命期の主要特性の一つが存してゐるのである。一九一七年三月及び四月には、人々は、實質的權力が、政府の手にあるのか、それともソヴィエットの手にあるのかを知らなかつた。

今や特別に重要なのは、階級意識を持つた勞働者が、××の根本問題、即ち現在の瞬間に、××が誰の手に歸してゐるであらうかといふことを愼重に熟慮することである。××××の實質的現象が何であるかを考へてみよ。空虛な文句を眞にうけてはならぬ、然る後諸君は、正しい答を容易に發見するであらう。

(二行略)今日、特にペテルスブルグへ持ち込まれてゐるのは、士官候補生と反動的コザックである。カメネフ並びに他の人々を獄に投じたのは彼等である。新聞『プラウダ』を禁止したのは彼等である。勞働者と或る部分の兵士との、武裝を解除したのも彼等である。同樣に或る部分の兵士を射殺し、或る部分の軍隊を射殺したのも彼等である。是等の首斬人、彼等こそ眞の政府權力であつて、ツェレッテリやチェルノフのやうな輩は、權力を持たぬ大臣、人形大臣、首斬人を支持してゐる諸政黨の指導者である。これは明らかな事實である。そして此の事實は、ツェレッテリや

チェルノフが、個人的には首斬人を恐らく『是認しない』といふことによつて、變るものではない。また此の事實は、彼等の新聞紙が臆病にそれに對して異議を申し立てることによつて、變るものではない。政治的附屬物のかゝる變更は、何等事態の本質を變へるものではない。

十五萬のペテルスブルグの選擧人の機關を禁止したこと、『リストック・プラウディ』(『プラウダ紙』)を印刷所から持ち出したといふので、勞働者ウォイノフが士官候補生によつて虐殺された(七月六日)こと――これが首斬ではないか？　これはカヴェニヤックの仕事ではないか？　それに關しては、政府もソヴィエットも『罪がある』『譯ではない、と吾々にむかつて云ふ人があらう。

それだからこそ益々政府及びソヴィエットにとつて有害であると、吾々は答へる。何故ならば、そんなことが本統であつたら、政府もソヴィエットもゼロであり、彼等は操人形であり、彼等は何等眞の權力を持たないからである。

民衆は先づ第一に、そして最もよく、眞相を了解しなければならぬ。實際に誰れの手に國家權力があるかを知らなければならぬ。吾々は民衆に全眞相を告げなければならぬ。即ち、政府權力はカヴェニヤックの軍團(ケレンスキー、多數の將軍、士官等)の掌中にあること、彼等が階級として

のブルジョアジーから支持されて居り、カデットを先頭とし、また『ノヴォヤ・ウレミヤ』、『ジヴォエズロヴォ』等々の如きその純反動的新聞によつて働く、有らゆる王黨の仲間であること、を語らなければならぬ。(一行略)然らざれば、反革命に對する鬪爭に關する有らゆる言葉も、うつろな用語であり、『自己欺瞞と民衆欺瞞』である。

此の權力は目下、大臣ツェレッテリ及びチェルノフからは勿論、彼等の政黨からもまた支持されてゐる。刑手たる彼等の役割を民衆に示すことが妥當である。また是等諸政黨が、四月二十一日、五月五日、六月九日、七月四日に於けるその『過失』により、また彼等が攻擊政策、卽ち七月に於けるカヴェニヤック政策を十中九まで豫定した政策に同意したことにより、かゝる『終曲』の不可避であることを民衆に示すことが妥當である。

民衆の間の全煽動は、特に現在の××の、就中七月事件の具體的體驗を注意させるやうに、卽ち軍閥王黨、カデット及び黑手組(シエウオルチエ・フンデルト)を、眞の民衆の敵と呼ふやうに、またかの小ブルジョア諸黨、首斬人の助手の役割をかつても演じ、今も演じてゐる社會革命黨及びメンセヴィキの諸黨の假面を專ら剝ぐやうに、改修されなければならぬ。

民衆の間の全煽動は、軍閥王黨の權力が打破されない間は、社會革命黨やメンセヴィキの諸黨の假面が引き剝がれ、且つ民衆の信用が奪ひ去られぬ間は、農民への土地分配は全く望み得ないものであることが明瞭になるやうに、改修されなければならぬ。そのことは、資本主義發展の『正常な』狀態の下では、非常に永いそして困難な過程であつたかも知れぬ。然し戰爭並びに經濟的崩壞は、事態を激烈に促進する。それは一ケ月を、或はたゞの一週間を、一年間にも等しからしめることの出來る『促進者』である。

おそらく上述のことに對して、二つの異議を申し立てることが出來るかも知れぬ。第一は、現在に於て窮極の鬪爭について語るのは個別的動作を旺んにし、就中反革命を助長するやうなことになりはしないかといふことであり、第二は、反革命の崩壞は權力を再びソヴィエットへ渡すことを意味してゐるといふことである。

第一の異議に對しては、吾々は次の如く答へる。ロシヤの勞働者は充分意識的であつて、彼等にとつて確定的に不利な瞬間に於ける挑發にはのらないこと、卽時の動作が反革命の助成を意味するであらうといふことは、疑ひをいれぬ。また大衆の深底に××が新しく勃興する際にのみ、

窮極の闘争が可能であるといふことも、同様に疑ふ餘地がない。然し、××の勃興並びに氾濫、西ヨーロッパの労働者の助長等について、一般的に語るのでは不充分である。吾々の過去を基礎として、一定の結論を引きださなければならぬ。吾々の教訓を熟考しなければならぬ。そしてまさしく此の教訓こそ、權力を奪ひ取つた反革命に對する、窮極の闘争の標語をあたへるであらう。

第二の異議も同様に、あまりに通俗な觀察を以て、具體的眞理に代へるといふことから結果してゐるものである。(三行略)プロレタリアートの掌中に於ける權力、貧農階級或は半プロレタリアによるプロレタリアートの支持——それが唯一の方策である。そしてその方策が如何なる狀態の下に特別に促進され得るかは、吾々が既に述べたところである。

ソヴィエットは此の新しい××のうちに發生し得るであらう。また發生しなければならないであらう。然しそのソヴィエットは、現在のソヴィエットではない。ブルジョアジーとの協定の機關ではない。それはブルジョアジーに對する×××闘争の機關である。その時に於て吾々はまた、ソヴィエットの形態にしたがつて、全國家の建設を主張するであらう、といふことは正しい。全問題はソヴィエット一般の問題ではなく、現在の反革命と現在のソヴィエットの裏切りとに對する、闘争の問題

である。

抽象的なことを以て具體的のことに代へるのは主要な罪惡、革命に於ける最も危險な罪惡に屬する。現在のソヴィエットは、その内部に於ける社會革命黨とメンセヴィキとのために、墮落し、破産してしまつた。目下このソヴィエットは、屠殺臺にもたらされ、手斧をつきつけられ、悲しく唸つてゐる羊にひとしい。ソヴィエットは、勝利を得或は勝ちほこれる反革命に當面して、今や無力であり、無能である。ソヴィエットへ權力を移せといふ標語は、現在のソヴィエットによる權力獲得の『單なる』訴へとして理解され得る。然しこれを言ひ、そのために叫ぶのは、民衆を欺くことを意味するであらう。欺瞞より危險なことはない。

二月二十七日から四月四日にいたる、ロシアに於ける階級闘争及び政黨闘争の發展範圍は終局を結んでゐる。そして新しい回轉が始まつてゐる。それには古い階級、古い政黨、古いソヴィエットが屬してゐるのではなく、闘争の火のうちに更新され、鍛錬され、訓練され、闘争の道程に於て改造された階級、政黨、ソヴィエットが屬してゐるのである。後方をではなく、前方を眺むべきである。古い階級範疇及び政黨範疇を以て、作戰計畫を立てることは許されぬ。七月事件以後の

新しい彼等を以て作戰計畫を立てなければならぬ。新しい回轉の發端に於て、社會革命黨及びメンセヴィキとの契約のお蔭で勝利を得た、そしてただ×××プロレタリアートによつてのみ征服され得る、勝ちほこつたブルジョア反革命から出發しなければならぬ。此の新しい回轉に於ては、革命が最後の勝利を得る前に、また社會革命黨とメンセヴィキとの徹底的（鬪爭なき）敗北の後に、また新しい××の新しい勃興の前に、勿論なほ多くの形を持つた段階があるであらう。然しそれに關しては、是等の諸段階が個々の輪廓をとりはじめる時に、はじめて語り得るであらう……。

（第十篇）革命の教訓

（一九一七年執筆、同九月『ラポーチ・プチ』に發表）

各個の革命は、人民の巨大な大衆の生活に一の急激な變動がおこることを意味する。時が未だかゝる變動のために熟してゐない限り、眞の革命は起ることができない。個々の人間が其生活條件の各個の荒々しい轉換から多くの事を學び得る樣に、又、此の轉換が彼に多くの事物の體驗と經驗とを强制する樣に、一の革命も亦全民衆に對して最も短い期間內に最も豐富な、最も價値豐かな教訓を與ふるのである。

數百萬數千萬の人間は、一の革命の行程中に於て、普通の平凡な一年間に於けるよりもヨリ多くのことを僅か一週間內に學び得るのである。何となれば、全人民の生活に於ける斯樣な急激な變革は、個々の人民階級の追求してゐる目的の種類、これに關して彼等の發揮する力、彼等の用ふる手段等を特に鮮明に露出するからである。

各個の階級意識ある勞働者、兵卒、農民はロシヤ革命の經驗を根本的に深思する義務を持つてゐる。これを行ふ事は、七月(一九一七年)の終りの今日、特に重要なる任務である。何となれば吾々の革命の第一階段が失敗を以て終つた事が充分明白となつたからである。

一

實際、吾々は勞働者農民大衆が革命を始めた時、何のために努力したのであるかを、今一度、思出してみよう。彼等は革命によつて何を期待したのであるか？　何人も知つてゐるが如く――それは自由と平和とパンと土地であつた。

然るに今日、吾々は何を見てゐるのであるか？

自由の代りに、前代の自恣が復活してゐる。死刑が戰線の兵士に對して再び實施されてゐる。農民は土地を自力で奪つたからとて、裁判に附せられてゐる。勞働者新聞の印刷が破棄せられてゐる。勞働者新聞は前以て裁判の判決を受けることなしに禁止を受けてゐる。ボリセヴィキは何等の告訴を受くることなしに、若くは見えすいた、中傷的な告訴理由を以て逮捕されてゐる。

多分次の樣に抗辯するものがあるだらう。曰く個々の人と個々の告訴理由のみとが訴追されてゐるに過ぎぬのであるから、ボリセヴィキの逮捕は決して自由を侵害するものではない、と。しかしかくの如き反對論は意識的に明白に事情を僞るものであらう。如何にして彼等は、全然、個々

の人間の犯罪を理由として、――よし其告訴が證明し得べきものであり、裁判で所罰され得るものであるにしろ――印刷を破棄し若くは新聞を禁止するといふ事を敢へてし得るのであるか？しかり、政府が法律によりてボリセヴィキの全黨、その全傾向、その見解自身を犯罪と宣言する腹の中は、多分、違つたものであるだらう。しかし今日、全世界は自由ロシアの政府がかくの如き事をなし得なかつたし、又爲さなかつた事を知つてゐる。

ボリセヴィキに向けられた告訴の中傷的性質は、事實によつて最も明白に暴露されてゐる。即ち地主及び資本家の新聞はボリセヴィキが戰爭に反對し、地主に反對し、資本家に反對して鬪爭するといふ故を以て、狂暴な罵言を加へ、どのボリセヴィキに對しても未だ告訴の計畫されてゐなかつた時からして、既に、ボリセヴィキの訴追と逮捕とを公然要求してゐたのである。

國民は平和を欲してゐる。然るに是れに反し、自由ロシアの革命政府は新に侵略戰爭を始めてゐる。この戰爭は前のツァールたるニコラス二世がロシアの資本家をして異民族を掠奪せしむる爲めに英佛資本家と締結したと同じ秘密條約に立脚してゐる。この秘密條約は今日に至るまだ尙ほ發表されない儘である。これと同じく、自由ロシアの政府は、無意味な口實の下に、あらゆる

民族に正當の平和を與へる義務を放擲してゐる。

吾々にはパンがない。飢餓が再び扉の前に立つてゐる。然るに各人は、資本家と富者とが軍隊輸送に際して國家を欺き、物價のセリ上げに依つて前代未聞の利潤を掴み取つてゐるのを見てゐる。(戰爭は今日、一日に五千萬ルーブルを國民に課してゐる。)然るに勞働者の手を以てする生産物の生産及び分配の眞摯な管理については、全く以て何事も爲されてゐない。資本家は日一日と貪慾となり、國民が商品の缺乏のために益々深刻に窮乏の中に沈みつゝある時に當つて、勞働者を街上に投げ出してゐる。

農民の巨大な大多數は、幾多の大會に於て、地主の土地所有を以て不正義であり盜奪であると、聲高く且つ寸分の疑も挾まずに宣言してゐる。然るに自ら革命的であると稱する政府は、數ケ月の間、農民の鼻先をつかんで引き廻し、約束と長々しい引き延しとを以て彼等を欺き續けてゐる。資本家は數ケ月の間、大臣チルェノフが、土地の賣買を禁ずる法律を發布することを妨害した。此の法律が終に發布せらるゝや、資本家はチェルノフに向つて、陋劣な、中傷的な讒謗を始め、今も此讒謗を續けてゐる。政府は、農民が『自力で』土地を沒收したといふ廉を以てこれを法廷に引き

出すといふ程に、地主の利益の擁護のためには既に恥知らずになつてしまつてゐる。

彼等は農民に向つて、憲法制定議會まで待つように說伏を試み、相變はらず農民の鼻先をつかんで引きまはしてゐる。資本家は此議會の召集をできるだけ長く引きのばしてゐる。ボリセヴィキの要求に押されて此召集が九月三十日と確定した今日、資本家は各種の假裝をかなぐり捨てゝ、これは『不可能』な短時日であると叫び立て、憲法制定議會の召集をもつと長く引きのばすことを要求してゐる。……地主と資本家との黨、卽ち『カデツト』の黨又の名『國民の自由』の黨の最も勢力ある黨員、例へばパニナの如きは、憲法制定議會の召集は戰爭の終りまで延期すべきだと全く公然、要求してゐる。

かくの如くして、彼等は、土地の整理は憲法制議定會まで待て、憲法制定議會は戰爭の終りまで待て、といふのだ。旅程はこの道筋で進む！　これは政府のなかで多數を占めてゐる資本家及び地主が農民を巧みに嘲弄するものである。

二

ツァールの倒れた今日、こんなことが自由の國たるロシアに如何にして起り得たのであるか？

不自由の國に於ては、人民はツァール及び一掬みほどの資本家、地主及び何人も選擧したことのない官吏に依つて統治せられてゐるのである。

是れに反し、自由の國に於ては、人民は彼等が彼等のために選擧したものによつてのみ統治せられるのである。選擧に際して、人民は黨を通じて集結する。普通、各人民階級は各々特別の黨に依存する。例へば大地主、資本家、農民、勞働部は各々彼等自身の黨を持つ。自由の國々に於ては、政府は諸黨の公然の鬪爭と其相互の自由な結合とから成立する。

一九一七年二月二十七日にツァーリズムの顚覆したる後、ロシアは約四ケ月間、一の自由の國として統治された。即ち何の妨害も受けずに成立した諸黨の間の公然の鬪爭と吾々の間に於ける自由な結合とがあつた。ロシア革命の發展を了解せんと欲する者は、問題となつてゐる諸黨がいかなる種類のものであつたか、彼等がいかなる階級の利益を代表したか、これらすべての黨がいかなる關係に立つてゐるかを先づ第一に鮮明にせねばならぬ。

三

ツァールの權力の倒壞した後、國家權力は第一次假政府の手に移つた。この權力はブルジョアジー即ち大地主と結合してゐる資本家の代表者から成り立つてゐる。資本家の主黨たるカデット黨はブルジョアジーの支配的政府黨として第一位に立つたのである。

權力が此黨の手に落ちたのは偶然でない。ツァールの軍隊に對する鬪爭が言ふまでもなく資本家に依りて行はれず、自由のためにする血が資本家に依りて流されずして、却つて農民と勞働者、兵卒と水兵に依りて流されたのであるけれども、權力が資本家の黨の手に落ちたのは、此階級が其手中に富、組織、智識の全權力を掻き集めてゐるからである。一九〇九年以後の時代に於て、特に戰爭の期間中に於て、ロシアの資本家と是に結合してゐる大地主とは、その組織方面に於て最大の進歩を遂げたのである。

カデット黨は常に帝政主義的であつた。一九〇五年に於ても、一九〇五年より一九一七年に至る時代に於てもそうであつた。ツァールの暴君政治に對して國民が勝利を占めた後に於て、この黨は

自ら共和主義を奉ずると宣言した。歴史の經驗は、一國民が帝政を破壞した時に、資本家の黨がただ其資本家的特權と其國民に對する完全な支配とを維持し得るために、自ら共和主義者と名乘るものであることを示してゐる。

カデットの黨は言葉に於ては『國民の自由』を代表してゐたが、行動に於ては資本家を擁護してゐる。而してすべての大地主、すべての帝政主義者、すべての黑手組も、忽ちカデットの側に立つに至つた。新聞と選擧とはこれを示してゐる。すべてのブルジョア新聞は、黑手組の新聞をも含んで、革命以後、カデット黨と共同してゐる。公衆の面前に公然立つことを敢へてし得ない所の全ての帝政派新聞は、選擧に際して(例へばペテルスブルグに於ける如く)カデット黨を支持してゐる。

カデットは政府權力を掌握した後に於て、盜賊的侵略戰爭の繼續にあらゆる力を集中してゐる。この戰爭たるや、皇帝ニコラス二世が英佛の資本家と締結した盜賊的條件に基いて始めたものである。この條約は、ロシヤの資本家に向つて、戰爭に勝つた場合にコンスタンチノープル、ガリシア、アルメニヤ等を約束してゐるものである。しかしカデットの政府は空虛な逃口上と約束とに依つて國民を欺瞞しようとしてゐる。即ち彼等は、勞働者農民にとつて重要な、決定的な、全て

の問題の解決を、憲法制定議會まで——しかも後者に向つて其召集期を明示することなしに——引きのばしてゐる。

人民は、その運動の自由を利用しつゝ、自主的に自ら組織し始めた。ロシアの人口の壓倒的多數を形成する勞働者及び農民の主要な組織は、勞働者、兵卒、農民代表者ソヴィエットとなつて現はれてゐる。このソヴィエットは既に二月革命の時に成立した。數週ならずしてロシアの多數の大都市及び多くの地區に於ては、勞働階級及び農民中のあらゆる階級意識ある進步分子がソヴィエットの中に結合したのである。

ソヴィエットは完全に自由に選擧せられたものである。ソヴィエットは人民大衆、勞働者及び農民の眞の組織であつた。ソヴィエットは人民の巨大な多數者の眞の組織であつた。兵卒の服裝をした勞働者及び農民は武裝してゐた。

勿論、ソヴィエットは全國家權力を其手中に握ることが出來たし、又握るべきであつた。憲法制定議會までは、國家內にソヴィエット以外の如何なる權力の存在をも許すべきではなかつた。吾々の革命は此の方法に依つてのみ、眞の一の人民革命となり、眞の一の民主主義革命となる筈であ

つた。

事實上、平和のために努力し、且つ事實上、掠奪戰爭に何等の利益を有しない所の勞働大衆はかくしてのみ、掠奪戰爭を終始させ且つ平和を齎すべき政策を、決定的に、徹底的に行ひ得べきであつた。勞働者及び農民は、かくしてのみ、(一行略)しかしソヴィエットに於て、ただ代表者の少數者のみがソヴィエットの全國家權力掌握を要求する者の側、卽ち革命的勞働者と社會民主黨ボリセヴィキ派との側に立つたに過ぎなかつた。ソヴィエットの代表者中の大多數者は、ソヴィエットの權力掌握に反對する社會民主黨メンセヴィキ派と社會革命黨との側に立つた。ブルジョアジーの政府を除去しソヴィエットの政府を以て之に代ふる事をせずして、この兩黨派は、ブルジョアジーの政府を支持し、これと諒解を遂げ、以て一の聯合政府を作ることをつとめたのであつた。人民の大多數が信任を與へてゐた社會革命黨及びメンセヴィキの兩黨がブルジョアジーと苟合する政策を採つたといふ事が、革命の爆發以來過ぎ去つた五ケ月間に於ける革命の全發展行程の主要內容を形成してゐる。

四

吾々は先づ今一度、社會革命黨及びメンセヴィキのブルジョアジーに對する結合政策が如何にして起つたかを觀察しやう。そして人民の大多數が彼等に信任を與へてゐた事情の說明をさがしてみよう。

五

一方に於てはメンセヴィキと社會革命黨との結合、他方に於ては此兩者とブルジョアジーとの結合は、そのどちらの形態たるを問はず、ロシア革命のあらゆる行程におこつたことである。一九一七年正月の終り、人民が直接に勝利を占めツァールの權力が打破せられた後に於て、資本家の假政府はケレンスキーを『社會主義者』として其中心にとりいれた。しかし實際に於てケレンスキーは決して社會主義者であつたことはなく、ただトルウドヴィキ派に屬してゐたに過ぎぬ。(註)

(註)『トルウドヴィキ』(『勞働の黨』)は一九〇五年のロシア革命黨に成立したもので、議會(チューマ)は彼等自身の相應

に大きい議席を持つてゐた。それは農民及小ブルジョアの利益を代表するもので、思想的には社會革命黨即ち小ブルジョア的社會改良主義者に近かつた。(譯者)

ケレンスキーが初めて社會革命黨に屬したのは、一九一七年三月以來、即ちかゝる黨の黨員になることが危險でも不利益でもなくなつた時からのことである。資本家の臨時政府はペテルスブルグ・ソヴィエットの議長の地位を占むるケレンスキーを彼自身の目的のために利用し、彼を通じてソヴィエットを束縛し、これを從順ならしめようと急いだのである。メンセヴィキと社會革命黨との多數を占むるソヴィエットは、資本家政府が形成されると直ぐに、ブルジョアジーが其約束を守る『限り』、『これを支持する』と宣言して、自ら手傳ひ人の役目を承知してしまつたのである。

ソヴィエットは、自己を以て、臨時政府の行動を探査し統制する團體だと見なした。ソヴィエットの指導者は政府との聯絡を維持する委員會即ち所謂『接觸委員會』を作つた。ソヴィエットの中の社會民主黨及びメンセヴィキの指導者は、この接觸委員會に於て、資本家政府との不斷の協議を續けてゐる。彼等は、精確に言へば無任所大臣又は非公式大臣の役割を演じた。

この狀態の續いたのは三月の全體及び四月の殆んど全體であつた。資本家は妨害と遁辭との政

策のために時間を得ようと力めた。この全期間に於て、資本家政府は革命の新發展のために、いかなる眞面目に受取れる手段をも講じなかつた。政府はその差し當つての直接任務、即ち憲法制定議會の召集についても最も輕微の事よりしなかつた。彼等は此問題について全國民をして決定せしめる事をなさず、また此問題の解決を準備すべき一の中央委員會をも作らなかつた。政府はツァールが英佛の資本家と締結した盜賊的國際的條約を秘密に更新し、すべてを約束することはするが、毫も實行せずに、革命を出來る限り、用意深く見事に溺死させることのみに注意を傾注した。社會革命黨とメンセヴィキとは『接觸委員會』に於て、盛澤山の文句と約束と『朝飯』とに滿腹した道化役者の役を演じたのである。有名な童話の中に出てくる鴉の如く、社會革命黨とメンセヴィキとは、詔らはれて有頂天となり、資本家が自分達はソヴィエットを高く評價し且つソヴィエットと諒解を遂げねば何事も計畫することができない、などゝいふ詔ひ文句を弄するのをいゝ氣持になつて聞耳を立てゝゐるのである。

しかし資本家の政府が革命に對して何事もしない間に、時は事實に於て前進して行つた。だが革命の利益に反し、資本家は此を更新し、——正しく言へばこれを確立し、英佛の帝國主義との

間に、これを補充した、同様に秘密な協約を結んで、『新生命』を吹き込むことに成功した。革命の利益に反し、彼等は此期間に活動的な軍隊の將官及び士官の反革命的團結の基礎をおく時間を發見した。(若くは少くとも其相互の連絡を作つた)革命の利益に反し、彼等は大工業家、工場主を組織化する時間を發見した。これらの者共はプロレタリアートの壓力に押されて勞働者に次々に妥協をなすことを餘儀なくされてゐたが、(二行略)しかるに進歩的な勞働者及び農民がソヴィエットに結合することは停滯することなく前進した。被壓迫階級の最良分子は、政府とペテルスブルグ・ソヴィエットとの協商に拘らず、ケレンスキーの辯に拘らず、『接觸委員會』にも拘らず、(二行略)

六

それは終に四月二十日及び二十一日に爆裂した。運動は自然生長的に燃えあがつた。それは誰れが準備したものでもなかつたが、明白に政府に向けられた性質のものであつた。即ち完全に武裝した一聯隊が大臣を逮捕するためにマリヤ宮の前まで押し寄せたほどであつた。各人は政府のもはや繼續し得ないことを見た。ソヴィエットは、如何なる側からも何等の反對を受くることなし

に、權力を掌握し得る所であつた。(掌握すべきでもあつた。)然るに社會革命黨及びメンセヴィキは是をなす代りに、壞滅しつゝあつた資本家政府を支持し、その苟合政策の泥濘中に沈んでゆき

(二行略)革命は、普通の平和時代に見る能はざるほどの根强さと迅速さとを以て、あらゆる階級の自意識を目ざましめた。最もよい組織を持つて居り且つ階級鬪爭と階級政策との諸事項について最も經驗を積んでゐる所の資本家は、他の者達よりも一層迅速に學んだ。資本家は政府の地位の到底維持し難きを見るや、彼等は既に諸國の資本が一八四八年以後の數十年間に勞働階級を愚昧にし、分裂し、無防禦狀態にする爲めに用ひ來つたと同じ手段を採り始めた。此手段は所謂『聯合政策』であり、即ちブルヂョアジーの代表者と社會主義の裏切者とを結合して共同に內閣を作ることである。

革命的勞働運動と共に所謂自由と民主主義とが既に最も長く存してゐる國々、即ち英佛に於ては、資本家は此手段を屢々用ひて成功を收めてゐる。ブルジョアジーの內閣に入つた『社會主義』指導者は、是等の國々に於て、常に資本家の單なるワラ人形であり、道具方であり、勞働者を欺く道具であることを證明した。ロシアの『民主主義的共和主義的』資本家も今や同一手段を用ひて

ゐる。社會革命黨とメンセヴィキとはコロリと此手にかゝつてしまつた。かくて吾々は五月六日に成立した聯合内閣に於けるチェルノフ、ツェレッテリ一黨を見るのである。

社會革命黨及びメンセヴィキ黨の道化役者は彼等の指導者の時めく大臣振りの後光を拍手喝采し、自慢して恐悦がつた。資本家は大滿足で手を揉みながら喜んだ。何となれば彼等は今や『ソヴィエットの指導者』の人物中に、彼等の民衆に對する鬪爭のための扶助人を得た譯であるからである。資本家は彼等からして『戰線に於て攻勢』をとるといふ約束、即ち殆んど休止せんとしつつあつた帝國主義的盜賊戰爭を新に遣り出すといふ約束を得たのである。資本家は是等の指導者の全く褪色し切つた無氣力狀態を知つた。彼等は、ブルジョアジーが生産の統制のみならず其計畫的な組織、平和政策等、等について與へた約束を實行しなくてもよい事を非常によく知つてゐた。

此事も亦、非常に迅速に天日に曝されるに至つた。五月六日より六月九日又は十八日に至るまでの間に於ける革命の第二期は、資本家の儲けと、社會革命黨やメンセヴィキの跳ねまはる輕佻さに乘じた彼等の投機とを大分に確證した。

ペセホノフとスコベレフ、また民衆までが、資本家から其利潤の百パーセントまでを取り上げ

るとか、其他色々の高走りした空文句で自ら欺いてゐた時、資本家は日一日と自己の地位を確立しつゞけてゐたのである。この全時期を通じて實際上に於て資本家を制御するために、何事も、しかり全然何事も行はれなかつた。社會主義の裏切者の一團から出た大臣は、被壓迫階級の要求を拒否する單なる代辯道具であることを自ら證明した。國家の全行政機關は依然として官僚及びブルジョアジーの手中に留まつた。この機關の一典型的代表者、資本家に對するありとあらゆる手段を骨拔にした一人は、工業大臣次官たる有名なパチンスキーである。しかるに萬事は古くからのまゝである。

革命に對抗して戰ふ爲めに、ブルジョアジーは特別の愛情を以て大臣ツェレッテリを利用してゐる。クロンスタットの革命家が彼等に天降つてきたコムミッサールをこのまゝに承認する程に痲痺せずに、これを拒否する事を敢へてした際、ブルジョアジーはクロンスタットの『平安を作り上げるために』ツェレッテリを派遣したのであつた。ブルジョアジーはこれに關し、其新聞に於て、クロンスタットに對する前代未聞の喧騒な、狂暴な、荒々しい、虚僞、中傷、讒侮を逞くし、『ロシアの崩壞』といふ意見をさへ提出した。彼等は此の、またこれと同じような馬鹿げた事を數千の方

法で、むし返し、そして小ブルジョアジーや俗人共を不安の中に陷れた。ブルジョアジーに最も根本的に成功したものは、愚鈍臆病な俗物の最も典型的な代表者ツェレッテリ、他のすべての者よりも『ヨリ正直』にブルジョアの中傷の鳥もちに引きかゝつてクロンスタットを最も熱心に『破壞し取り靜めた』ツェレッテリを利用し、且つ彼に彼が反動革命的ブルジョアジーの一從僕の役目を演じてゐることを知らしめない事であつた。全運動の結果は、彼が單に革命的クロンスタットの『協定』の實行の道具となつたことに過ぎぬ。此の協定に依ると、クロンスタットのコムミッサールは將來、政府から任命されるものでなく、地方で選んだ者を政府が承認するといふ事になつてゐる。社會主義からブルジョアジーへ脫走した大臣は、かくの如き貧弱な妥協の爲めに其時間を浪費した。

ブルジョア大臣が政府を防衞するために革命的勞働者やソヴィエットの前に公然現はれることの出來なかつた時、スコベレフ、ツェレッテリ、チェルノフ其他の『社會主義』大臣はブルジョアジーの委任の遂行を義務の樣に考へ、內閣の擁護のために躍起となり、資本家に全く忠誠を盡くし、民衆に對しては約束を單調に繰返し、とにかく待つように、いつまでも待つようにと忠告し、以

て最もよく民衆を引きとゞめてゐた。

大臣チェルノフは、偏愛的に、そのブルジョア閣僚との取引に專心した。七月に至るまで、精確に言へば七月三日四日の運動に引續いて起つた新しい政府の危機、內閣よりカデット黨員の脫退に至るまで、大臣チェルノフは引續いて碌々何もしなかつた。土地を賣買することを禁ずるといふことを目的とするに過ぎなかつたが、この有用な、利益のある、民意に適ふた事務について其ブルジョア閣僚に『說明』を續けたことは、彼の仕事のなかの唯一の善かつた事と言つてもいゝ。それも妥協的ではあつたが、この禁止はペテルスブルグの農民代表者全露大會に於て既に農民に最も華やかな形を以て約束されてゐた所である。しかし此約束は單なる約束に留つてゐた。チェルノフは是れを五月にも六月にも解決することができなかつた。七月三日四日、自然發生的な爆發に引續いた革命の波はカデット黨員を內閣から脫退せしめたが、此時に至つてやつとチェルノフは終に土地賣買の禁止の手段を實施する可能性を得たのであつた。しかし是に依つても更に何物も達せられなかつた。何となれば、此手段は孤立的なものに過ぎず、土地獲得のために大地主に對抗する農民の鬪爭條件を眞摯に改善する力を持つてゐない事を自ら證明したからである。

此間に於て社會革命黨のむし立ての黨員、『革命的民主主義者』ケレンスキーは、成功と光彩とを以て、帝國主義的掠奪戰爭を新興する反革命的帝國主義的任務を遂行した。それは、民衆から憎まれてゐたグチコフが彼の當時に於て遂行することのできなかつた任務であつた。ケレンスキーは自分自身の獨得な駄辯に醉拂つた。帝國主義者は彼のまはりに香を焚いた。彼等はケレンスキーを將棋の駒の樣に弄び、彼にお世辭を使ひ、彼を神化した。すべての帝國主義者はケレンスキーの奉仕に感謝した。ケレンスキーが頭と手とを以て資本家に示した忠誠は、革命軍隊をして戰爭の再興に同意する必要を確信せしめようと試みたことに存する。しかるに此戰爭はツァールのニコラス二世が英佛の資本家と結んだ條約を遂行することを目的とし、ロシアの資本家のためにコンスタンチノーブル、レムベルグ、エルツェルム、トラペツント(後二者はアルメニヤの最重要都市)の奪取の實行を目的とするものに外ならぬ。

ロシア革命の第二期——五月六日より六月九日に至る——はこの樣にして過ぎ去つた。反革命的ブルジョアジーの權力は、「社會主義」天臣に保護され援護されて生長し、確立するに至つた。これに依つてブルジョアジーは外敵に對してのみならず、內敵卽ち革命的勞働者に對する攻擊のあら

ゆる準備を完うした。

七

革命的勞働者の黨卽ちボリセヴィキ黨は六月九日のために、ペテルスブルグに於て一つの示威運動を準備してゐた。此示威運動は大衆の絕えず增大する不滿と叛逆とに一つの組織された表現を與ふるためのものであつた。ブルジョアジーとの苟合政策に依つて頭腦混亂し且つブルジョアジーの帝國主義的攻擊政策と結付いてしまつてゐた社會革命黨及びメンセヴィキの指導者達はボリセヴィキの示威運動について恐怖に陷つた。何となれば、彼等はこれに依つて、大衆の間に於ける彼等の勢力の失墜を認めたからであつた。示威運動に反對する、一つの一般的な咆哮が持ちあがつた。そして今度は反革命的なカデットと社會革命黨とメンセヴィキとが同一戰線に立つて握手した。彼等と資本家との苟合の結果として、小ブルジョア大衆を、彼等の指導の下に於て、反革命的ブルジョアジーと同盟せしめようとする政策が明かに現はれ、驚くべき明白さを持つに至つた。この點に六月九日の危機の歷史的意義、その階級的性質が橫つてゐた。

ボリセヴィキに示威運動を中止した。ボリセヴィキは、聯合してゐるカデット、社會革命黨、メンセヴィキに反抗して一の絶望的闘爭に勞働者を誘ひ込むことを決して愉快とするものでなかつた。是れに對して、メンセヴィキは彼等が大衆の間に於ける信任の最後の殘り物まで失ひたくないと思つたからか、六月十八日に一の一般的な示威運動を試むることを餘儀なくせられた。ブルジョアジーは憤怒に燃え立つた。何となれば彼等は小ブルジョア的な民主主義者がプロレタリアートの側に這入つて行くことを正しく認めたからであつた。そこで彼等は戰線に於て攻勢を取る事に依つて民主主義者の行動を痲痺させようと決心した。

實際上、六月十八日は革命的プロレタリアートの標語即ちボリセヴィズムの標語の新しい勝利をペテルスブルグの大衆の間に生み出したのであるが、翌日にはブルジョアジーとボナパルチスト(註)たるケレンスキーとは、六月十八日に故意に行ひはじめた攻勢の開始を公布した。

(註)ボナパルチズムと云ふ言葉はフランスの二人の皇帝から出てゐるのであるが、この言葉は、何れの黨にも屬しない事を標榜して、資本家の黨と勞働者の黨との間の鋭い闘爭を自分の爲に利用しようとする政府を意味してゐる。かくの如き政府は實際に於ては資本家のみに奉仕するものであり、約束と絶望の贈り物

とを以て最も巧妙に勞働者を欺くのである。

攻勢を採る事は、事實上勞働大衆の絶對大多數の意思に反し、資本家の利益に於てのみ盜賊戰爭を更新することを意味してゐる。これ故に、攻勢は必然的に、一方に於ては、排外主義の巨大な生長並に軍事的(從つて國家的)權力のボナパルチストの軍閥への推移を導き出し、他方に於ては大衆の暴力的壓迫、國際主義者の捕縛、宣傳の自由の除去、終には戰爭に反對する者の逮捕と射殺を導き出したのである。

五月六日には社會革命黨とメンセヴィキとはブルジョアジーの凱旋の車に引き添つてゐたに過ぎないが、六月十九日になると、彼等は資本家の奴隷として鐵鎖を以てブルジョアジーに自ら結び付けられてしまつてゐたのである。

八

戰爭の更新の結果、大衆の憤怒は自然に一層增大し、しかも迅速な速度で增大した。七月三日及び四日にはそれが爆發した。ボリセヴィキの自明の努力は、是れに出來る限りの、組織化された

表現を與ふるといふことでなければならなかつた。

ブルジョアジーの奴隷となり、これに堅く縛ばりつけられてゐた所の社會革命黨及ひメンセヴィキは、勿論、諸方に向つて廣く次の如く宣言した。曰くペテルスブルグに對して反動的な軍隊を誘引する、曰く死刑を再興する、曰く勞働者及び革命軍隊の武裝解除をする、曰く逮捕と訴追とを行ふ、曰く非合法的な新聞を禁止する、と。

政府を占有してゐるブルジョアジーが完全に横領することのできなかつた權力、ソヴィエットが掌握しようと欲しなかつた權力、それは今やカデットと黑手組、大地主と資本家との間に自ら無制限の支持を發見してゐる所の、ボナパルチストの軍閥の手に滑り込んだのである。

かうして彼等は一歩々々、後退して行つた。社會革命黨とメンセヴィキとが一度、ブルジョアジーとの協同といふゆがんだ道を歩み始めた後は、彼等は止め度なく滑り轉ばざるを得なかつた。そして彼等は終に深淵の中に滑り込んだ。二月二十八日に彼等はペテルスブルグ・ソヴィエットに於て、ブルジョア政府に對して制限的な支持をすると公言した。五月六日には彼等はブルジョアジーを破滅から救ひ、攻勢に同意することに依つて政府の傭人となり、防衛者となつた。六月九日

には彼等の反革命的ブルジョアジーとの結合は、革命的プロレタリアートに對する劇暴な虚言と中傷との連發となつて現れた。六月十九日には、彼等は盗賊的戰爭の新しい開始に同意した。終に七月三日には、彼等は反動的軍隊を誘引することを承諾した。このことはボナパルチストに權力を決定的に附與する端緒を意味してゐる。かうして彼は一歩より後退したのである。

九

小所有者が『立身出世するために』、本當の物持の地位によぢ登るために、『議會に於ける精力的な紳士』の地位、ブルジョアジーの地位によぢ登るために、彼等が如何に全力をつくして痩せるほどに努力し骨折つたかは、言はずして明かである。資本主義が支配してゐる以上、小所有者にとつての出口は、彼等自身、資本家になるか（しかしそれは高々百人のうちの一人が成功するにすぎない）、若くは零落した小所有者に成り下り、半プロレタリアに沈沒し、終には本來のプロレタリアートになつてしまふより外にない。同樣のことが政治についても見られるのである。小ブルジョア的民主主義者、特にその指導者は、全く資本家の附屬物たるに過ぎぬ。小ブルジョア的民主

主義の指導者は小ブルジョア大衆を多くの約束を以て慰め、大資本家と諒解を遂げることが可能であるといふことを大衆に向つて保證するのである。最もよい場合でも、彼等は極く短い時期の間勞働大衆に對する小さい指導的地位を資本家と妥協し得るに過ぎない。是に反し、あらゆる決定的な、あらゆる重要な問題については、小ブルジョア的民主主義者は常に單にブルジョアジーの無力な附加物、その不要な隷屬物、金融王の手中に於ける從順な道具たるに過ぎない。イギリス及びフランスに於ける階級鬪爭の經驗は、此點に關して、多數の例を示してゐる。

帝國主義戰爭の影響と是れに依りて作られた深刻な危機とは特に異常の迅速さを以て發展した。このロシア革命の經驗、卽ち一九一七年二月より七月に至るまでの經驗は、小ブルジョアジーの動搖的地位に關する、古くからのマルクス主義の眞理を切實に最も明白に立證した。

後記

この論文は七月の終りに書いたものである。八月中に於ける革命の行程は、この論文中に發展させた思想の正しかつたのを確證してゐる。八月終りに於て、コルニロフの叛亂は革命に一の新しい方向轉換を與へた。何となれば、此叛亂は、反革命的將軍と結んでゐるカデットがソヴィエットを撲滅し、帝政を再興しようと努めてゐることを、全民衆に向つて、最も明白に示したからである。革命の此の新しい方向轉換が如何に力强きものであるか、ブルジョアジーと苟合する墮落腐敗の政策を終滅せしめる事が成功するや否や、これらは近い未來が敎訓するであらう。……

一九一七年九月六日

エヌ・レーニン

（第十一篇）

ボナパルト主義の開始

（一九一七年八月十一日「ラボーチ・イ・ソルダット」所載）

マルクス主義者は、次の場合に於ては、最大の、最も致命的な誤謬に陥るであらう。即ちケレンスキー・ネクラソフ・アウゼンチエケ一黨の政府が形成された今日に當つて、もし彼等が行爲に代ふるに言葉を以てし、本質又は眞劍なものに代ふるに欺瞞な假象を以てしたならば。

こんな仕事はメンシェヴイキや社會革命黨だけに委せておかう。彼等はすでにボナパルト主義者ケレンスキーに對し宮廷道化者の役割を演じつつあるのだ。

ケレンスキーは明白にカデット黨の指令の下に彼やネクラソフやチエレシュチエンコやソヴィンコフから成る一の執政々府類似のものを作りあげてゐる。彼は憲法議會のことも七月二十一日の宣言のことも全然忘れて、民衆に對する彼の宣言書の中で階級間の神聖な一致なるものを宣明してゐる。彼は誰も知らない條件の下にコルニロフと協約を結び慘虐な挑發的な訴追政策を續けてゐる。だのに、チエルノフやアウクゼンチエフやチエレテリなどの連中は空文句を連發したり勿體ぶつたりする外には何もしないのだ。これらのことは眞に一の道化芝居でないか。

チエルノフは斯ような瞬間においてミリウコフを裁判手續に附することを要求したり、アウクゼンチエフは狹量な階級的立場は不當だと宣言したり、ツエレテリやダンはソヴィエットの中央委

員會で最も空疎、最も無内容の決議を試みてゐる。これは第一のカデット議會がツァーリズムに對して氣力を失つてしまつたことを思ひ出させる。これらも亦一の道化芝居でないか。

カデット黨は一九〇六年にロシアの人民代表者の最初の集會を賣つた。カデット黨は、强まりきたるツァールの反革命に當面して、この集會をして一の憐れむべき驕舌の場所に墮落せしめた。其れと同じように、メンシェヴイキと社會革命黨とは一九一七年にソヴィエットを賣り、强まりきたるボナパルト主義者の反革命に當面して、ソヴィエットを一の憐むべき驕舌の場所にひきさげてしまつたのだ。

ケレンスキー政府は疑ひもなく、ボナパルト主義へ一歩前進した政府である。

吾々はボナパルト主義の最も重要な、歴史的な表徴を眼前に見てゐる。即ち規律頽廢した兵士(軍隊内の最悪の要素)に基礎をおいてゐる國家權力が、多少とも均衡を保つたまゝで睨み合つてゐるところの、相敵對せる諸階級、諸力の中間に介在してゐることがそれである。

ブルジョアジーとプロレタリアートとの間の階級闘爭は最も尖鋭化してゐる。五月三日四日及び七月十六日乃至十八日には、ロシアは市民戦爭へ間一髪であつた。この社會的經濟的條件はボナ

パルト主義に對する古典的な地盤に外ならないでないか。まだ他の前提條件がある。それはブルジョアジーがソヴィエットへ向つて人殺しと叫び立てゝゐることである。だがブルジョアジーはソヴィエットを狩りつくしてしまふほどの力をまだ持つてゐない。是に反しツエレテリ、チエルノフ一黨に依つて淫賣させられてゐるソヴィエットは既にブルジョアジーに眞劍な反抗ができるだけの力を失つてしまつてゐる。

地主と農民とは、恰も彼等が市民戦爭の前夜に在るが如き關係の下にある。農民は土地と自由とを欲してゐる。あらゆる階級にあらゆる約束を連發しつつ、しかも何一つ約束を實行しないところのボナパルト主義政府のみが、農民を——もしできることだとしたら——繋ぎとめてゐることができるのである。

以上に加ふるに、吾々が冒險的な攻勢論者のひきおこした軍事上の失敗や(六月にロシア軍は戦線で攻勢をとり却てドイツ軍に打破られた、譯者)母校の救濟といふ文句の特に猖獗を極めてゐる時期に生活してゐることを考へてみれば、吾々はボナパルト主義の社會的政治的前提條件の完全な姿を見得るのである。

吾々は空語に依つて欺まされてならない。吾々は、吾々がボナパルト主義の第一歩をやつと見てゐるのだといふことからして混亂に陷つてならない。吾々は愚鈍な俗物どもの嗤ふべき役割を演じないために、正に第一歩を認識することを學ばねばならぬのである。この俗物どもは第一歩では彼等自らそれを手傳ひながら、第二歩ではそれについて苦悶するのである。

今日、誰れにしろ、現政府が從前のすべての政府に比していくらか左翼的だとか、ソヴィエットの好意ある批評によつて其過失を匡正することができるとか、自恣的な逮捕や新聞禁止が單なる個別的現象だとか、それが再び繰り返されないことが望ましいとか、サルドニ（ケレンスキー政府の司法大臣で、革命的指導者の迫害を指導した男、譯者）が清廉の士であるとか、民主共和國たるロシアには公正な裁判が行はれるので誰れも法廷に出て行く義務があるとか、といふような憲法政治的幻影に陷るものがありとすれば、それは素町人的妄想以外のなにものでもないのである。

これらの素町人的な憲法政治的妄想の愚昧なることについては特に辯駁に値しないほどである。

ブルジョア的反革命に對する闘爭は、何が在るか、といふことを見且つ語る冷靜と能力とを要求

する。

ロシアにおけるボナパルト主義は決して偶然でない。否、それは、相應に發展した資本主義と革命的なプロレタリアートを持つてゐるこの小ブルジョア國家内における階級闘爭の發展の自然的結果である。五月三日乃至四日、五月十九日、六月二十二日乃至二十三日、七月一日乃至二日七月十六日乃至十八日の如き歴史的段階は、ボナパルト主義の準備がいかに根ざし深いものであるかを明瞭に示してゐる。民主々義的諸關係はボナパルト主義と相容れるものでない、などと考ふることは大間違ひである。逆に、この民主々義關係の下において、階級間の一定の關係及び其闘爭に際し、ボナパルト主義が成立するのである。（それはフランスの歴史が二回も確證したところである。）

だが吾々がボナパルト主義の不可避を承認したところで、それは吾々がボナパルト主義の破滅の不可避を忘れてよいといふことを意味しない。

もし吾々がロシアにおいては反革命が一時的に勝利を占めるにすぎないと言ふだけに止まるならば、それは單に空虚な言葉だけである。

吾々がボナパルト主義の成立を分析し、怖るゝ所なく眞理に當面し、勞働階級及び民衆に向つてボナパルト主義の開始が一の事實であることを公言するならば、それは吾々が、ボナパルト主義を破壞するために、一の眞劍な、頑强な、廣い政治的規準に依つて行はれ且つ强い階級利益に根ざすところの鬪爭のために其基礎を用意することを意味する。

一九一七年のロシアにおけるボナパルト主義は、一七九九年及び一八四九年におけるフランスのボナパルト主義の開始とは多くの點で異つてゐる。例へば革命の根本任務がロシアにおいて未だ一つとして解決されてゐないことがそれである。民族問題及び農民問題を解決するための鬪爭は漸く赤熱し始めたばかりである。

ケレンスキー及び彼を手中の玩具としてゐる反革命的カデットは、憲法議會を確定した期日に召集することもできないし、其召集を延期することもできない、この兩場合を通じ革命を深めてゆくことなしには。だが帝國主義戰爭の延長によつて引きおこされたカタストロフは、以前にも增した大きい力と速度とを以て迫つてきてゐる。

ロシアのプロレタリアートの前衛は、われ〳〵の六月及び七月の行動が大衆に一の刺戟を施す

ことなしに成立したのであることを理解してゐる。プロレタリアートの黨は、その戰術、その組織上の形態又は諸形態を撰擇する充分の能力を有してゐる。この能力があればこそ、ボナパルト主義者の突然の(外觀的に突然の)迫害を以てしても決して黨を破滅させたり、仕事を妨害されたりすることがないのであり、民衆に向つて口と筆を以て組織的に向つてゆくことができるのだ。

わが黨は、民衆に向つて公然且つ聲高く、完全に眞理を語らねばならぬ。卽ちボナパルト主義が始まつたこと、ケレンスキー・アウクゼンチェフ一黨の政府が單に權力を握つてゐる反革命的なカデット黨及び軍閥の隱れ蓑にほかならないこと、この反革命を完全に解除することなくしては民衆は平和を得る能はず、農民は土地を得る能はず、勞働者は八時間勞働を得る能はず、飢者はパンを得る能はざること、を告げねばならぬ。わが黨は之を語らねばならない。發展過程の一歩々々はわが黨の正しいことを確證するであらう。

ロシアは今や、異常の速度を以て、民衆の大多數者が小ブルジョア諸黨卽ち社會革命黨とメンシエヴィキに信頼を寄せてゐた全時期を振りすてゝゐる。今や大多數の勞働人民がかような信頼をしたことについての慘虐な刑罰が始まつてゐる。

あらゆる徴候は、事件が最も急速な速度を以て發展するであらうことを語つてゐる。勞働人民の大多數が彼等の運命を革命的プロレタリアートに托せざるを得ないに至るであらうことを語つてゐる。革命的プロレタリアートは權力を握るであらう。彼等は社會主義革命を始めるであらう彼等は――あらゆる困難に拘らず、また發展過程において有り得べき多少の退却にも拘らず、あらゆる先進の國々のプロレアリアートを社會主義革命に引き入れ、そして戰爭のみならず資本主義自體をも克服するに至るであらう。

（第十二篇）妥協について

（一九一七年九月一日稿。同九月六日、『ラボーチ・プチ』に發表）

政治上、妥協とは敵黨との諒解といふ名目の下に於て、一定要求を低下すること、即ち要求の一部分を斷念することを意味する。

ボリセヴィキについての俗物共の通俗な觀念、陰口專門の新聞の支持してゐる觀念は、ボリセヴィキといふものは如何なる妥協をも――何人とも、いかなる時と場合とにも――行はないといふことに存してゐる。

かくの如き見解は、×××プロレタリアートの黨たる吾人にとつて頗る阿諛的なるものである。何となれば、それは吾人の敵すらも社會主義と革命とに對する吾々の强固な態度を認めざるを得ないことを證明してゐるからだ。然し吾人は本當のことを話さねばならない。かくの如き觀念は事實と反してゐるのである。エンゲルスは一八七三年にブランキスト共產主義者の宣言書を批評するに際し、彼等が『絕對に妥協せず！』と宣言したことを正面に嘲笑した。一個の鬪爭的な黨にとつては、妥協が屢々實際の形勢の結果として不可避的に强制されるものであつて、あらゆる場合に於て『負債をなしくづしに支拂ふこと』を斷念するのは嗤ふべきことであり、かくの如き文句は單なる空文句に過ぎない、とエンゲルスは考へたのである。眞に革命的な黨の任務は各種

の妥協に對し、不可能な斷念を宣言することに存しない。寧ろあらゆる妥協を通じて――それが避くべからざるものである限り――吾人の原則や、吾人の階級や、吾人の×××任務や、×××準備する吾人の仕事や、××の勝利のために大衆を準備する仕事に對する忠誠を貫き行く事に存してゐる。

一例を擧げよう。第三及び第四議會に參加したことは一の妥協であつた。革命的要求を一時斷念することであつた。しかしそれは絶對に强制せられた妥協であつた。(三行略)黨としてのボリセヴィキの此の見解が完全に正しかつたことは、歴史がこれを示してゐる。

强制せられた妥協でなく、寧ろ自由意志を以てする妥協の問題が、今日、吾人の眼前に現はれてゐる。吾が黨は他の各種政黨と同じく、政治的支配を獲得しようと努力するものである。吾々の目標は×××プロレタリアートの××である。革命のこの半年間は異常の鮮明さ、力、透徹さを以て、プロレタリア××てふ要求が、此の革命の利益のために不可避であることを示してゐる。何となればこの要求を貫かざれば、民衆は民主的平和をも、農民の間に於ける土地分配をも、また完全なる自由(完全な民主的共和國)をも獲得することが出來ないからである。

吾々の革命の半年間の事件の行程、諸階級と諸政黨との鬪爭、並に四月二十日より二十一日まで、六月九日より十日まで、十八日より十九日まで、七月三日より五日まで、八月二十七日より三十一日までの危機の發展は、これを示し、これを證明してゐる。

今やロシア革命は荒々しい、獨創的な轉換期に入つてゐる。即ち吾々は黨として、一つの自由意志を以てする妥協を提出し得るに至つてゐる。勿論、相手は吾々の最大の、直接の階級的仇敵たるブルジョアジーではなく、吾々に最も近い敵、小ブルジョア的民主主義黨の『首魁』たるメンセヴィキ及び社會革命黨である。

單に例外として、又、たゞ極く短い間、繼續するにすぎないと見える特殊狀態の結果として、吾々はこれらの政黨に一つの妥協を提議し得るのである。そして私の信ずるところでは、吾々はこの妥協をやらなければならない。

吾々の側よりする妥協は『すべての權力をソヴィエットへ』といふ、七月以前の要求に復歸することである。即ちソヴィエットに對して責任を負ふ政府を社會革命黨及びメンセヴィキによつて作れ、といふ事である。

今日、たゞ今日、多分數日の間のみ、若くは一、二週間の間のみ、かくの如き政府は全く平和的に作られ且つ固まることができるだらう。この政府は、最大の蓋然性を以て、ロシア××全體の平和的な發展、並に平和と社會主義の勝利のためにする國際的運動の發展の、特に偉大な機會を確證するであらう。革命の平和的發展——歷史上に極めて稀な、極めて價値ある可能性、除外的に稀れな可能性——の名に於てのみ、たゞこの機會の名に於てのみ、ボリシエヴィキは(二十字略)かくの如き妥協をすることができ、又、せねばならぬのである。私は以上の如く信ずる。

妥協は次の點に於て成立すべきである。卽ちボリセヴィキが政府に參加するといふ要求を提出せず(プロレタリアート及び貧農の獨裁のための條件が事實的に實現しない以上、國際主義者にとつて、かゝる參加は不可能である)且つ×××をプロレタリアート及び貧農に移轉せよといふ卽時の要求の提出並にこの要求のためにする×××鬪爭手段を斷念することである。そして社會革命黨及びメンセヴィキにとつて少しも新しくない自明の條件は、完全なる煽動(アヂテーション)の自由と、所定の期日若くはそれよりも早い期日に憲法制定議會を召集すること、の二つであらう。

メンセヴイキと社會民主黨とは政府聯盟として、專ら且つ絕對的に、ソヴィエットに責任を負ひ

且つ地方の權力の全部をソヴィエットに委任する所の政府を作ることに同意すべきである。この點が新しい條件の成立點であるであらう。私は信ずる、ボリセヴイキは事實上の煽動の自由、ソヴィエットの構成(その新選擧)とその活動に於ける新しい民主主義の不可避的の實現、これらのものが自ら革命の平和的な前進的發展とソヴィエット內部に於ける黨の鬪爭の平和な解決とを確保することを確信して、これ以上の條件を提出しなくていゝのである。

多分、これは既に不可能である。そうであるかも知れない。しかし百分の一でも機會があるならば、かくの如き可能性を具體化することは、これを行ふ充分の價値がある。二つの『相了解する』黨、卽ち一方のボリセヴイキと他方の社會革命黨及びメンセヴイキとは、この『妥協』によつて何を得ることができるのであらうか? 若し二つの側が何ものをも得ないとすれば、妥協は不可能と見做されねばならぬ。そしてこれについて言語を弄することは無駄である。この妥協は今日(七月及び八月以後の今日、この二ケ月間は、平和な眠氣のさす二十年間が一時にきたようなものである)非常に困難になつてゐるが、しかしこれを實現すべき一つの小さな機會が存在してゐると信ずる。この機會とは、メンセヴイキと社會革命黨とが、カデットと共に同一政府を作らな

いといふ決議をしたことである。

ボリセヴイキの得るものは、その見解を完全且つ自由に宣傳し、事實上の完全な民主的狀態の下に於てソヴィエット内に勢力を獲得すべき可能性を確實にするといふことに在る。今日『すべての者』が言葉だけではボリセヴイキにこの自由を與へてゐる。しかしこの自由は、ブルジョア政府、若くはブルジョアの參加してゐる政府、即ちソヴィエット政府以外の政府の下に於ては、事實上、不可能である。ソヴィエット政府の下に於ては、かくの如き自由は可能であらう（吾々は決定的にさうだといふのではなく、多分可能だといふのである）この可能性のためには、吾々は今日のこの困難な時代に於て、現在のソヴィエットの多數派と妥協をなすべきである。吾々は事實上に成立しつゝある民主主義に對して、少しも恐れる必要はない。何となれば、生活は吾々に有利に動いて居り、吾々の敵黨たる社會革命黨及びメンセヴィキの内部に於ける發展傾向すら、吾々に有利だからである。

メンセヴイキと社會革命黨とは、民衆中の大多數者に立脚し、ソヴィエット内に於るその多數者を『平和的』に利用することを確保しつゝ、一遍に彼等の聯盟の綱領を實現する完全な機會を獲得す

ることができるであらう。たしかにこの聯盟は、それが聯盟であるといふことによつても、又小ブルジョア民主主義者が常にブルジョアジーとプロレタリアよりも統一が少いといふことによつても、不統一のものであらう。――多分、この聯盟の中から、二つの聲が響くであらう。

一つの聲は次の如く言ふであらう。吾々はボリセヴイキとも革命的プロレタリアーリとも同じ道を持つてゐない。プロレタリアートは果てしなく程度の高いものを要求し、貧農は煽動家に動かされてしまふであらう。平和及び聯合國との決裂の要求も持ち出されるであらう。これは實行の出來ないことである。吾々はより良く、より確實に、ブルジョアジーと共に行ける。吾々はブルジョアジーと分離してはゐない。たゞ極く短い間、單にコルニロフの挿話のためにのみ衝突しただけである。吾々は既に爭つたが、吾々は和睦するであらう！　更にボリセヴイキは絶對的に吾々と『對立』するものでない。何となれば彼等の一揆の企ては、一八七一年のパリ・コムミュンの沒落の二の舞をやるであらうから。

今一つの聲は次の如く言ふであらう。コムミュンを引用することは皮相的であるのみならず、極めて愚なことである、（二行略）今日の如き事情の下に於て、コムミュンすら勝利を占めることが

できるであらう。更にコムミュンはボリセヴイキが彼等の權力を握つた時に國民に與へるであらうほどのものをすべて一度に與ふることができなかつた。卽ち土地を農民に與へ、卽時の平和を結び、眞の生産統制を行ひ、ウクライナ人、フインランド人との高貴な平和を結ぶと言ふが如き等、等。俗な言葉で言へば、ボリセヴイキはコムミュンよりも十倍も多く切札を手に握つてゐる。更にコムミュンは（一行略）あらゆるマクマホンやコルニロフの策動と陰謀とを容易にするものであることを意味してゐる。かくの如き策動は、わが全ブルジョア社會を危くするものである。コムミュンの危險を犯すことは果して理想的のことであらうか？

しかし吾々が權力を握らない場合、事物が五月六日より八月三十一日の間にあつたが如き氣むづかしい狀態にある場合に於て、コムミュンはロシアにおいて避くることのできないものである。×××勞働者と兵卒とは不可避的に（一行略）これを信仰するに至るであらう。これを實現しようとする試みを企てるであらう。何となれば、彼等は次の如く言ひ出すであらう。民衆は窮乏しつゝある。戰爭と飢餓と敗滅とが常に增加しつゝある。コムミュンのみが吾々を救ふであらう。（二行略）今日、一八七一年にあつたようにコムミュンをそんなに容易に征服することは出來るもの

ではない。ロシアのコムミュンは一八七一年にあつたよりも百倍も多くの同盟者を世界に持つだらう。……かくてコムミュンの危險を犯すことは理想的であらうか？ 私はボリセヴイキがその妥協によつて何ものをも與へないといふのではない。戰爭中、あらゆる文明國の文明的大臣は、プロレタリアートと結んだ極く小さい妥協をも非常に高く評價した。然り、非常に、非常に高く評價した。しかも彼等は眞面目な人であり、實際の大臣であつた。しかし、ボリセヴイキはあらゆる壓迫に拘らず、その新聞の弱さにも拘らず、急速に力を增してゐる……吾々はコムミュンの危險を犯すべきであらうか？

大多數は吾々を支持してゐる。貧農が覺醒するまでは猶ほ遠い。それは迅速でない。農民國の大多數者が急進分子に追隨してゆくといふことは信ぜられない。（一行略）——第二の聲は以上の如く主張することであらう。

まだ第三の聲がマルトフやビリドノヴアの支持者の間から響くといふ事も可能であらう、『同志』よ、私の不快とする所は、諸君の兩者がすべてコムミュンとその可能性について論じ、少しも躊躇することなくその敵の側に立つてゐる事である。一つのものは一つの形に於て、他のものは

他の形に於て、他のものは他の形に於て、しかし兩者ともにコムミュンを壓迫したものと同じ側に立つてゐる。私はコムミュンのための煽動はしない。私はボリセヴイキがやつてゐるように、その陣列の中にあつて鬪爭するといふことを前以て約束するといふ事は出來ない。しかし、私の努力にも拘らず、コムミュンが成立すべきものである場合には、私は彼等の敵よりもむしろその防衛者を助けるであらう。

聯盟內部に於ける意見の相違は大きく且つ不可避的である。何となれば、小ブルジョア民主主義者の中には無數の分派が代表せられてゐるからである。それは、大臣にもなれるブルジョアからプロレタリアの地位にまだ達する事の出來ない貧乏人までを含んでゐる。しかし、この意見の相違の各々の機會に於て如何なる結果が生ずるか——それは誰も知つたものはゐない。

* * *

* * *

この文章は九月一日の金曜日に書いたものであるが、偶然の原因から(歷史は、ケレンスキーの下に於てすべてのボリセヴイキはその住居を選擇する自由を持つてゐなかつた、と告ぐるであら

う)その日の中に編輯局に屆けることができなかつた。土曜日と今日の日曜の新聞紙をよんだ後、私は次の如く言ふ。遂に妥協の提案は後れてしまつたと。多分、平和的發展がなほ可能であつたところの數日間はすでにすぎ去つた。然り、すべてを見れば、その既にすぎ去つたことは明白である。ケレンスキーは社會革命黨を出るなり社會革命黨の內部からなり、何れかの道を行くであらう。彼はブルジョアジーの助けを借り、それとの協同により、社會革命黨がなくとも彼の地位を强めて行くであらう。……然り、すべてを見れば、平和的發展の路が偶然的に可能となつてゐた數日はすでに過ぎ去つた。この文章には既に『時機を失した思想』といふ見出しを付けてくれといふ依賴をして編輯局に送る仕事しか殘つてゐない。……しかし時機を失した思想を探求することも興味がないことはないであらう。

（第十三篇）

ロシア革命の一根本問題

（一九一七年九月二十七日『ラボーチ・プチ』所載）

疑ひもなく各種の革命の主要の問題は國家××の問題である。

どの階級が××を握るかといふ事が唯一の決定的なことである。然るにロシアの政府黨の最も重要な新聞『デェロ・ナロダ』(『人民の事項』)は、最近(その一四八號)、次の如く嘆息してゐる。曰く、權力問題が論爭せられる餘り、憲法議會の召集や食糧問題などが忘れられてしまつてゐる、と。これについて、吾人は社會革命黨に向つて、次の如く答へねばならぬ。たんとお嘆きなさい。しかし『大臣の跳ね飛び競爭』(大臣の頻繁な交迭をからかつたもの、譯者)についても、憲法議會の無期限に引延ばされてゐる事についても、また資本家が穀物專賣制の實施や國內のパン供給の確保を目的として計畫せられてゐる諸手段をサボターヂュしてゐることについても、それはみな君たちの黨の動搖や不決斷が正に最大の責を負ふてゐるのだ、と。

權力問題は、決して後廻はしにしたり延期したりする事の出來る問題でない。何となれば、この問題こそ根本問題であつて、××發展過程のすべてを決定するものであり、その對外及び對內政策に關係してゐるからである。吾々の革命がこの半年の間、この問題について常に動搖を極はめこの全期間を單純に『空費』してしまつたことは、蔽ふべからざる事實である。しかも此事實は

社會革命黨及びメンセヴイキ黨の宙ブラリンの政策に根元してゐる。しかし、此の兩黨の政策は結局小ブルジョアジーの階級狀態卽ち資本と勞働との鬪爭裡に常に經濟的に動搖する其性質に依りて決定されてゐるのである。

今や全問題は、小ブルジョア的民主主義者が此の重大な、異常に內容豊富な半年の間に何物かを學び得たか否か、といふことに存してゐる。若し彼等が何物をも學び得かつたとすれば、革命は既に失はれてしまつた譯であり、プロレタリアートの××の勝利のみが之を救ひ得るのである。しかし彼等が何物かを學び得たとすれば、卽刻、一の强固な、動搖することを知らざる國家××の創造に急がねばならない。(二行略)今日に至るまで、ロシアに於ける國家權力はブルジョアジーの手中に存してゐる。ブルジョアジーは個々の妥協をなし(それは翌日となれば直に取り返す積りである)、あらゆる約束を濫發(それは『貴重な聯合』といふ外觀に依つて民衆を欺かんがためである)すること等、等を必要事と見なしてゐる。されば言葉から言へば一の民主的な革命的な民衆政府ではあるが、事實に於ては、民衆に對抗する、反民主的な、反革命的なブルジョア政府である。今日まで引き續いてゐる此矛盾の中に、政府の顯著な動搖不安、社會革命黨やメンセヴイキ

の諸紳士が甚だ悲しむべき(民衆にとつて)熱心ぶりを以て營んでゐる有らゆる『大臣の跳ね飛び競爭』の根元が存してゐる。

私は一九一七年六月の初め、ソヴィエットの全露大會に於て、ソヴィエットが分裂崩壞して不名譽の死を遂ぐるか、若くはソヴィエットが全權力を握るか、何れかにあるのみだ、と言つた。七月及び八月の歷史は此言葉の正しかつたことを遺憾なく立證した。(一行略)——ブルジョアジーの從僕たるボトレソフ、プレハノフ其他の諸紳士は、權力を國民中の極々の少數者の代表者に、ブルジョアジーに、搾取者に與ることが『政府の基礎を廣汎化する』ことを意味するものだと言つて、吾々を欺くかも知れないけれども。

ソヴィエット權力のみが動搖せずに確立することができる。(五行略)

しかし『すべての權力をソヴィエットへ』といふ標語は、大多數の場合ではないが、非常に屢々、全く謬つた意味に解せられてゐる。卽ち是れを以て恰も『ソヴィエットの多數黨に依つて內閣を作る』のだと解するものが有る。この全然謬つた觀念は、吾人をして此點についてなほ精細に論議することを必要たらしむる。

『ソヴィエットの多數黨の內閣』といふことは、舊時よりの政府の機關、――卽ち全然官僚的であつて、社會革命黨やメンセヴイキの綱領にすら揭げられてゐる改良の實行を不可能としてゐる所の機關――を少しも變へずに維持してゐる內閣の內部に於ける人物の轉換を意味するに過ぎない『すべての權力をソヴィエットへ』といふ標語は、古い全國家機關、卽ち官僚的であつて各種の民主主義を妨害してゐる機關の急激な變革、これらの機關の除去、是れに代ふるに民衆に深く根をおろした、新しい、眞に民主主義的なソヴィエットの機關、卽ち民衆、勞働者、兵卒、農民の組織され且つ××××大多數者の機關を以てすることを意味してゐる。この標語は民衆大多數に創意の移ることを意味し、國民主權が代表者の選擧のみならず、國家の行政、改革の實行、國家の全改造にも及ぶことを意味してゐる。

單純なる大臣更迭と『すべての權力をソヴィエットへ』といふ標語との間の此差別を說明し明白にするために、吾人は最近、政府黨卽ち社會革命黨の新聞『チェロ・ナロダ』のなした、價打のある白狀を思ひ出してみよう。この新聞は次の如く書いてゐる。曰く、社會主義大臣が指導力を握つてゐる所の（これは社會革命黨及びメンセヴイキの大臣が政府に入り、カデットと有名な聯合を

した時分に出來た言葉である）內閣に於てすら、全ての行政機關は少しも變更されないままであつたし、この機關は仕事を何等妨げるものではないと。

ちつとも不思議でない。ブルジョア議會的の、また非常にブルジョア立憲的の諸國家に於ける全歷史は、事實上の行政的活動は官吏といふ巨大な隊伍に依つて行はれてゐるのであるから、大臣の交迭なるものが實は意味の甚だ少いものである事を示してゐる。しかし此隊伍は完全に反民主主義的精神を滿喫してゐる。そして大地主とブルジョアジーとに對する無數の糸を以て結ばれてゐる。彼等は種々樣々の關係に於て後者に從屬してゐるのである。この隊伍は絕え間なしにブルジョア的諸關係の大氣の中に包まれて居り、そのなかにのみ呼吸して居り、凋み切つて居り、骨ばかりになつて居り、凍えて居り、この空氣から脫出することができず、杓子定規の型にはまつた千偏一律のままに、何等他のことを考ふることも、感ずることも、況んや行動することも出來ないのである。この隊伍の內部は階級別や『國家的』任務の一定の特權に依つて結合して居る。この隊伍の上級なるものは銀行との連絡や株券の所有に依つて、旣に久しい前から完全に金融資本家に隷屬するに至つてゐる。彼等自身は或程度に於て、金融資本の番人であり、その利益と勞力と

の道案内となつてゐる。

此の國家機關の援助を以て大地主の土地所有の無償沒收、穀物專賣其他の改革を實行しようと考ふることは、最大の幻想のなかに動搖するものである。また最大の自己欺瞞、民衆欺瞞を意味してゐる。この機關は共和主義ブルジョアジーのために、『君主なき君主政治』といふ種類の共和國、例へばフランスの第三共和國の型のものを作り上げる奉仕をなし得るものである。是に反して、資本主義の除去といふ事でないにしろ、少くとも資本の權利、『神聖なる私有財產』の權利を制御し制限する眞面目な第一歩を意味する諸改革は、此の國家機關に依りて絕對に實行せられ得ない。されば吾々は常に次の如き同じ姿をみる。卽ちあらゆる可能な聯合內閣に參加する『社會主義者』は、――彼等の中の二三のものが全く尊敬すべき改革意思を前提として入閣するに拘らず――行動に於ては常にブルジョア政府の單なる無價値の裝飾物若くは人形となり、民衆の憤怒に對する避雷針となり、大衆を欺瞞する道具となるに過ぎない事を證明してゐる。一八四八年のルイ・ブランがそうであつた。イギリス及びフランスに於て、社會主義者が政府に參加する場合に於て、此の種の事例が數ダースおこつてゐる。ブルジョア的秩序が存續し、古いブルジョア的官僚的國

家機關が毫も變改されずに殘る限りに於て、この種の現象は常に起つて居り、なほ一層おこるであらう。

勞働者、兵卒、農民代表者ソヴィエットは、自己のなかに一の新しい、比類のない高級な、比類のない君主的な國家機關の型を體現する點において、特別の高い意義を有してゐる。社會革命黨及びメンセヴイキはソヴィエット（特にペテルスブルグ・ソヴィエット及び全露ソヴィエット中央委員會）をして、『統制』といふ商標の下に於て無力な決議文の作製や諸種の希望の單純な製造のみに從事する所の、單純な饒舌の場所たらしめる爲めに、あらゆる可能事不可能事を敢へてした。然し一陣のいい嵐を吹きつけたコルニロフの反革命軍の『新鮮な疾風』は、ソヴィエットに於けるあらゆる黴を吹き拂つた。（一行略）

あらゆる自信の少い人間は、この歷史的な例から學び得るであらう。『我々は常にブルジョアジーの擁護にのみ役立つてゐる古い機關に代へるべき何等の機關も持つてゐない』と今日まで公言してゐた人々は、これに依つて恥ぢるだらう。それは今や立派なソヴィエットの中に體現してゐる。大衆の創意と自立性とを怖るる勿れ、革命的大衆團體を信賴せよ――諸君は、大衆が共同一致し

勇敢な逆襲を以てコルニロフの暴亂に對抗した際に示したと同じ力、同じ崇高、勞働者農民の同じ不撓性を、國家生活のあらゆる範圍に認識するに至るであらう！

大衆の精力の廣汎な自己犧牲的な促進の代りに、大衆に對する不信、大衆の創意に對する不安大衆の自立性に對する不安、大衆の革命的精力に對する戰慄、――これこそ社會革命黨及びメンセヴイキの首領があらゆる場所で犯した罪の根元である。新しい酒を古い官僚的國家機關の古い皮袋に盛らんとする彼等の不決斷、彼等の動搖、彼等の反覆常なく且つ常に無效果なる計畫、の深い根ざしは此處に横はつてゐる。

吾々が一九一七年のロシア革命に於ける軍隊民主化の歴史、チェルノフ内閣の歴史、パルチンスキーの『支配』の歴史、若くはペセホノフの脱退の歴史等を例にとつて見るならば、上に述べた所が一歩々々、最も明白に確證せられてゐる事を發見する。選擧された兵卒團體に對する完全な信用の缺乏、兵卒に依つて代表を選擧する原則の絶對的實行を怠つたこと、これらの事は、コルニロフ、カレディン、其他の反革命的將官を軍隊の先頭に立たせ得たのである。これは一つの事實である。故意にこれらの事實の前に眼を閉ぢない人は、コルニロフの暴亂の後に於てケレンスキ

ー政府が萬事を舊態のままに留めておき、從つて實際に於てコルニロフの黨與を再置したものであることに盲目でないであらう。アレクセエフの任命、クレムボウスキー、ガラリン、バクラチオン其他のコルニロフ黨與との『和睦』、コルニロフ、カレディン自身に對する叮重な取扱ひ、等のすべての事柄は、最も明白にケレンスキーが事實に於てコルニロフ黨與を再置したものであることを示してゐる。（二行略）

チエルノフ内閣の歴史は如何？　それは、農民の窮乏を眞實に滿足せしむる何等かの眞面目な手段、大衆團體と大衆行動とに對する信任の下にする各種の手段が、全農民の間に最大の情熱を喚起したことを立證したではないか？　しかしチエルノフは殆んど四個月の長きに亘つてカデット及び官僚と絶えず『取引』することを餘儀なくせられた。しかり彼は、カデット官僚が際限のない躊躇や欺瞞の策を弄して終にはチエルノフ自身が何等のことも果し得ずに其地位を去ることを强要せられるまで、『取引』を續けたのである。大地主と資本家とはこの四個月の間、この四個月の『愉快な遊戯』の間、憲法制定議會の召集を引きのばし、剩へ土地委員會に對して多くの壓迫を加へ始めたのである。（四行略）

やつと中途半端な狀態で初められた生産管理に對して資本家の（パルチンチスキーに支持されて）やつた反抗の成功、穀物專賣並にペセホフノの企てたパン及び生活必需品の規則的分配の手、初めに對して商人のやつた反抗の成功、等は精確に前と同樣の姿を呈してゐる。

今日のロシアに於て『新しい改革』を發見したり、何かの『計畫的』な新しい製作の『企て』を見出したりする事は、全くできないのである。『社會主義の實施』に反對し『プロレタリアートの獨裁』に反對する資本家、ポトレソフ、プレハノフの徒は意識的に實際狀態を斯く押しゆがめてゐるのである。しかしロシアの現實は次の如き事情を呈してゐる。即ち戰爭から生じた前代未聞の窮乏と困苦、脅かし來りつつある敗滅と飢餓との怖ろしい危險は、あらゆる無條件的な、延期を許さない改良と改革とが唯一の拔け道であることを自然と示してゐる。單に示してゐるといふだけでは足りない。それは穀物の專賣、生産と分配との統制、紙幣發行の制限、パンと商品との交換の整頓等を最大緊急事たらしめてゐる。

かくの如き種類の手段、此方面の諸手段が避くべからざるものである事は、既にあらゆる人々から認識されてゐる。そして多くの場所に、種々の方面に、既に實施されてゐる。是等の手段は

既に實施され始めてゐる。しかしそれは至る所で地主及び資本家の反對に逢つたし、今も逢つてゐる。この反對たるや、ケレンスキーの政府（その行爲から見て完全にブルジョア的ボナパルチスト的政府である）並にロシア及びこれと『同盟』してゐる金融資本の直接間接の壓力に依つて行はれてゐるのである。

プリレシャエフが『デロナ・ロダ』（一四七號）に揭げた彼の論文のなかで、ペセホノフの脫退、强固であつた物價の壞亂せること、穀物專賣の破壞等を嘆息したのは、極く最近のことである。彼は次の如く書いてゐる。

『わが政府に最も缺乏してゐるものは勇氣と果斷とである。……革命的民主主義者は久しく待つことを許されない。彼等は獨得の創意を以て立ち現はれ、經濟的混沌狀態に對し計畫的に干涉せねばならぬ。……そうなるためにはここに一の强固な爲替相場と一の決定的な國家權力とを缺くことができぬ』

眞理であるものは、眞理である。以上の言葉は立派な言葉である。ただ我が筆者は、强固な爲替相場の問題、勇氣と果斷との問題が決して人物關係の問題ではなく、かくの如き勇氣と果斷と

を果し得る所の階級の問題であることを、考へなかつた。かくの如き勇氣と果斷とを果たし得るところの階級は、ひとりプロレタリアートのみである。（二行略）

斯くの如き獨裁は現實に於て何を意味するのであるが？　それはコルニロフ黨與の反逆を打破し、既に一度始めた軍隊の民主化を再び興し、これを最後まで實行することに外ならぬ。これを實施して二日經てば、軍隊の××××××が獨裁の熱烈な支持となるであらう。この獨裁は農民に土地を與へ、農民の地區委員會に全權力を與へるであらう。何人も理性を失はない以上、農民がかくの如き獨裁を支持すべきことを疑ひ得るものでない。ペセホノフが單に約束しただけのすべてのものは『資本家の反抗は既に打ち破つた』といふ言葉は、ペセホノフがソヴィエット大會に於ける有名な演說中に文字通りに言つた言葉である）獨裁に依つて事實上に現出するであらう。食糧品の供給、統制、其他について既に成立しつつある民主的組織を少しも害することなしに、此獨裁は具體化するであらう。却て獨裁はこれを支持し、これを建設し、このために有らゆる妨害を取り除くことをするであらう。

プロレタリアート及び貧農の××のみが資本家の反抗を打破し實際に崇高な勇氣と果斷とを實

現し、軍隊及び農民の大衆の情熱的な犧牲的な眞に英雄的な支持を確保することができる。（以下六行略）

（第十四篇）

切迫する大破綻

如何にして之と闘ふべきか？

（一九一七年九月、小冊子として發表）

一　飢餓近づけり

ロシアは避くべからざる大破綻（カタストロフ）の前に立つてゐる。運輸は信ずべからざる程に破壊されて居り、益々破壊されつつある。原料品と石炭との輸送は久しからずして止まるだらう。穀物の輸送も止まるであらう。資本家は此前代未聞の大破綻（カタストロフ）が共和國、デモクラシー、ソヴィエット、總括的にはプロレタリアート及び農民の團體の破壊を導き出すことを希望しつつ、科學的に、物に動ぜず、生産をサボターヂし（若くは腐敗させ、停滯させ、齒止めをかけ）てゐる。彼等は是れに依つて帝政への復歸とブルジョアジー及び大地主の單獨支配の復活を促進してゐるのである。

考ふることのできないほどに廣大な大破綻と飢餓とが今や來らんとしつつある。すべての新聞はこのことに就いて幾千度となく報告してゐる。信じ得ない程多數の決議文が諸々の政黨や農民、勞働者、兵卒ソヴィエットに依つて作製された。これら決議文の中には、大破綻が避くべからざること、それが刻々に近づいてゐること、しかし何人もあらゆる手段を以てこれと戰はねばならぬこと、國民の『英雄的努力』に依つてのみ沒落を防ぎ止め得ること、等、等が確言されてゐる。

すべてがこれを言つてゐる。すべてがこれを認識してゐる。すべてがかく結論してゐる。

そして何事も爲されてはゐない。

革命の半年は既に過ぎた。大破綻がなほ刻々近づいてゐる。大衆的失業が現はれつつある。穀物も原料も豐富に存在してゐるに拘らず、今や國内には商品がなく、生活資料が缺乏して居り、勞働力が缺乏して居るが、かくの如き國に於けるかくの如き瞬間には、大衆的失業はどうしても成立する、と人々は考へてゐる。革命後既に半年、この民主的共和國に於て、『革命的民主的』と自慢らしく誇稱してゐる多くの諸組織、諸役人、諸制度のなかに在つて、實際上には此大破綻に對し、此飢餓に對し、何等まじめな企てが、絶對になされてゐない事について、これ以上の證明がいるであらうか？　吾々は益々迅速に破滅に向つて急いでゐる。何となれば、戰爭は何物をも待たない。戰爭によつて生じた國民生活のあらゆる方面の破綻は益々公然的となつてゆくばかりである。

しかし、それにも拘はらず、たゞいくらか注意したり考へて見たりすれば、大破綻と飢餓とを征服する手段は存してゐること、この手段は民衆の力に相應する明白な、單純な、實行可能のも

のであること、この手段が實行されない原因は、その實現が資本家及び地主の小さい群の巨大な利潤を傷けるといふ事のみに、ただそれだけに存してゐる事、を知ることができる。それは事實である。どんな演說、どんな派のどんな新聞演說、どんな集會のどんな決議にでも、鬪爭の主要手段、大破綻と飢餓とを豫防する手段の說かれてゐないものを發見することはできない。それは誓つて言ふことができる。その手段とは、國家の側よりする統制、監督、清算、規準、生産に關する勞働力の計畫的分配、國民の諸力の節約、餘計なる努力の除去、力の結合、等である。統制、監督、清算、――これは大破綻と飢餓と戰ふ第一語である。この事は爭ふべからざるものとして一般的に承認せられてゐる。而して是等のことは、大地主と資本家との單獨支配、その法外な、前代未聞の、狡猾極まる利益を危くするといふ憂慮からして、毫も實行せられてゐないのである。この利益は物價騰貴と軍需品供給とによりて成立してゐるものである。（今や殆んどすべてのものが直接間接に戰爭のために『働いて』ゐる。）この利益については、何人もこれを知つて居り、何人もこれを見て居り、何人もこれを嘆息してゐる。而していかなる眞面目な統制、監督、清算も國家の側から絶對に行はれてゐない。

二　政府の完全なる不活動

各種の統制、監督、清算、すべてこれらのことを規則立つべき政府側の企ては、至る所、系統的に、確實にサボターヂされてゐる。信ずることのできぬほどに單純素朴の人間でなければ、このサボターヂが何所からくるか、どんな手段で行はれてゐるか、を了解しないかの如くに裝ひ、又は事實上に理解せず、お伽話のように是れに惑ふといふことはできない。何となれば、銀行家及び資本家に依つての此のサボターヂ、彼等によつての統制、各種の監督、各種の清算、の不可能化、これらのものは民主的共和國の國家形態と相應するものであるからである。しかり、それは『革命的民主的』共和國の國家形態と相應する。資本家諸君は科學的社會主義のあらゆる信奉者が口にしてゐる一つの眞理を立派に自分のものにしてゐる。しかるにメンセヴィキと社會革命黨は、彼等の友人が大臣や次官になつた後、即刻、この眞理を忘れてしまつてゐる。この眞理とは、帝政的政府形態が共和的民主的政府形態に變更されたからとて、資本主義的搾取の經濟的內容を少しも變更するものでない、といふことを指す。從つて事實はその反對であつて、民主的共和國

に於て、絶對的帝政政治の下に於けると同じく、資本主義的利益の不可侵と神聖とを保護するには、單に其の爲めの鬪爭の形態のみを變へれば足りるのである。

各種の統制、各種の監督、各種の清算に關する共和主義者民主主義者の今日の、最も新しいサボターヂは、資本家が『全心から』統制の『原則』と其必要とを認識してゐるが(それは勿論、精確にメンセヴィキや社會革命黨と同じく)、しかもこの統制を一の『徐々』たる、計畫的な、『國家的に定められた』實施方法の上におかうとする點に存してゐる。しかし事實上、この響きのいい言葉に依つて、統制のサボターヂが隱蔽せられ、それが一の無一物、一の擬制物、一の遊戯に變形して居り、あらゆる實際的な重要手段の躊躇逡巡が正當化され、信ずべからざるほどに複雜な、困難な、官僚的で無生命な諸制度——絶對に資本家に隷屬してゐて、何事もせず、また何事も行ふことのできないころの——が是認せられてゐる。

これを事實上から證明するために、吾人はメンセヴィキ及び社會革命黨の陣列內からの證據を集めてみよう。メンセヴィキ及び社會革命黨は革命の最初の半年間にソヴィエット內に多數を占め、『聯合內閣』に參加したものであり、此故に彼等が資本家に對して峻嚴の態度を採らなかつた事につ

いてロシアの勞働者及び農民に對して責任を有するものであり、これによりて惹き起された統制のサボターヂに對して責任あるものである『革命的民主主義』の最高の、所謂『全能』の(笑つてはいけない!)機關紙、即ち勞働者、農民、兵卒ソヴィエットの全露大會の中央執行委員會の機關紙『イスヴェスチヤ』(一九一七年九月七日の一六四號)は、この同じメンセヴィキ及び社會革命黨が創立して共手中に極つてゐる所の特別機關が統制の問題について發布した一法令を公にしてゐる。この特別機關とは、中央執行委員會の『經濟部』である。この法令を見ると、『經濟生活の整頓』のために政府側で作つた中央機關の絶對的不活動が事實として公けにせられてゐる。

吾々はメンセヴィキ及び社會革命黨が自ら自己の手を以て證明した所の、彼等の不充分な政策に對する、これ以上の能辯な證據を考へ得るだらうか? 既にツァーリズムの時代に於ても、經濟生活を整理する必要が認識せられ、そのために二三の官廳も設けられてゐた。しかし當時、破滅は日一日と增大し、前代未聞の廣大なものとなつた。この破滅から救ふ、眞面目な、決定的な手段を即刻採用することは、革命的共和政府の任務であると認められた。メンセヴィキ及び社會革命黨の共働の下に聯合政府が形成された時、五月六日付の花やかな、全國民にあてた宣言は、國家的

統制と整理とを行ふべき約束と義務とを明言した。ツェレッテリ、チェルノフ、其他のメンセヴィキ及び社會革命黨の首領は、彼等が整理のために責任を負ふのみならず、『全權を以て固められてゐる革命的民主主義の機關』を手中に握り、事實上に整理の事業を行ひ且つ統制することを、確言し誓約したのである。

五月六日以後、既に四個月が過ぎ去つた。この間に於て、ロシアは意味のない帝國主義的『攻勢』のために莫大の兵士を死のなかに送り出した。この間に於て、破滅は迅速な速力で近寄つてきた。この間に於て、吾々は夏期の數個月を利用して、水運と農業、鑛山業の整理等、多くのことをなすことができたのであつた。——而して四個月後の今日、メンセヴィキと社會革命黨とは整理のために作られた統制機關の絶對的不活動を公けに白狀することを餘儀なくせられてゐる。然るに此のメンセヴィキと社會革命黨とはまじめ臭つた政治家面をして次の如く喋舌り立ててゐる。曰く、何人もカデットと聯合を結ぶ代りに、工業及び商業の財布——ルブシンスキー、ブブリコフ、チェレスチェンコ等の一黨の財布と聯合を結ぶことに依つて、事態を救ひ得るのだと。(吾々は此一節を丁度、九月十二日の民主主義者の會議の前夜に書いてゐるのである。)

メンセヴィキ及び社會革命黨の此の驚くべき盲目加減をいかにして説明すべきか、それは非常にむつかしい。吾々は、メンセヴィキ及び社會革命黨を政治的赤ん坊であると見なし、何をなすべきかを知らず、正直に戸惑ひしてゐる、理性のない素朴な人たちだと見なすべきであらうか？　若くは彼等の占めてゐる多數の官職――大臣、次官、州知事、コンミッサール、其他――が、この特別な『政治的』盲目を生み出す特質を持つてゐるのであらうか？

三　統制手段は容易であり、一般に了解され得るものである

統制のための手段方法は何か特別な、複雜なるもの、困難なるもの、未だ經驗されないもの、未だ知られてゐないものでなからうか？　といふ疑問を提起することは、可能である。カデットや商工業の代表者や社會革命黨やメンセヴィキなどの政治家連中は既に半年間、統制の手段方法を發見し、これを學ぶために顏中汗だらけにして努力したのであるが、しかし任務が異常に困難で、そのために常になほ未解決のままに殘されてゐるのだ、といふ風に彼等の躊躇峻巡を説明すべき

であらうか？

こんなことは、すべてを信用し、何事も熟考したことのない、憐れな、壓迫された、文盲の農民や小市民を欺まし、事態をかく見せかけるために試みられるものである。しかし眞實に於ては、ツァーリズムでさへ、『古い制度』でさへ、統制を實施するための根本的な手段、主要の方法を知つてゐた。即ち、それは職業、仕事のの目標、仕事の部門等を標準として、全人口を聯結することにある。しかしツァーリズムは全人口を聯結することを恐怖し、從つて此の誰れにも知られた、最も容易な、絶對に適用のできる統制の手段方法を局限し、人工的に昏睡させてゐたのである。

すべての交戰諸國は戰爭からくる非常な缺乏と困難とに苦しみ、多少とも飢餓と破滅とに惱まされたのである。此故に彼等は既に久しい前から、多くの統制手段に着眼し、これを確立し、應用し、試驗した。その手段は常に人口の聯結から成り立つて居り、種々の團體の設立と代辨とから成り立つて居り、その中には國家の代表者さへも働き、その仕事を監督してゐる。すべて是れ等の事實は遍く知られてゐる。これに關しては、澤山のことが書かれ、語られて居る。これに關して、交戰せる先進國から發布された諸法律は既にロシア語にも反譯されて居り、若くはロシアの

新聞に詳しく論議せられて居る。

吾々の國家が事實上に實際に統制を實行しようと欲するならば、又、吾々の國家の諸制度がその卑怯からして資本家の前で『絶對的不活動』といふ判決を自ら下すことをしなかつたならば、しからば國家はその双手を以て既に知られ且つ應用せられてゐる統制上の諸手段の豐富な貯藏の中から、幾多の統制手段を作り出し得たであらう。これを妨げてゐる唯一の物、即ちメンセヴィキと社會革命黨とが人民を暗がりの中に放置しておく唯一の理由は、とりもなほさず、統制が資本家の氣狂ひじみた利潤を暴露しこれを引下げるからといふ事實に外ならない。

この最も重要な問題を明瞭に説明するために（この問題はロシアを戰爭と飢餓とより救はんと欲する、あらゆる眞の革命政府のプログラムにとつて根本的に同一意義を持つ問題である）、吾々は統制のための最も重要な手段方法を數へ、その個々について論議して見ようと思ふ。

吾々は次のことを見るのである。即ち戯談に革命的民主的と自稱するのでなく、既にその生存の第一週からして統制のための主要の實現を訓令し（命令し決定し）得たであらう所の政府は、統制を禁遏的に骨拔きにする資本家に激しい刑罰を課し得、且つ資本家に對する監視、法令の適當

な發布に關する監視のために人民に訴へることができたであらう。――かくして居れば、既に全ロシアに統制が實現されてゐる筈である。

最も重要な手段として此處に擧ぐべきものは次の如くである。

一、あなゆる銀行を唯一つの銀行に聯結し、その活動について國家の統制を行ふこと、換言すれば銀行を國有化すること。

二、カルテル及びシンヂケート即ち資本家の最も大きな獨占團體を國有化すること、（砂糖、石油、石炭、金屬カルテル等、等）

三、商業の秘密を廢止すること。

四、工業家、營業家、一般的に言へば所有主を强制的にシンヂケート化すること、（即ち幾個かの團體に强制的に聯結すること）

五、人民を强制的に消費組合に聯結すること、換言すれば斯くの如き聯結及びこれに關する統制を制進すること。

これらの各手段が革命的民主的に實施せられたならば、それらのものは如何なる價値を持つで

あらうか、吾人はそれを觀察しよう。

四　銀行の國有化

誰れも知つてゐる如く、銀行は現代の經濟生活の中心である。銀行は國民經濟の全資本主義的組織の最も重要なる神經關節である。『經濟生活の整頓』といふことを談じつゝ、銀行國有の問題を避けんとする者は、絶對的な無學をさらけ出すものであるか、若くは美しい演說口調を以て『單純な人民』を欺き、既に前以て決定された決議にも拘らず約束を少しも履行しようとしないことを意味する。

銀行の活動を整頓し統制することをせずして、穀物の供給及び一般的に生産物の生産と分配を整頓し統制しようとしても、これは空虛な妄想である。それは丁度、偶に儲けた小金をシツカリ握つて、しかも數百萬ルーブルを斷念しようと思ふのと同じことである。現代の農民は商業（穀物商業其他）及び工業と密接に、解き放すことのできぬように結び付いてゐる。それは、農民に接近することなくして、いかなる『革命的民主的なこと』をも爲し得ないほどである。しかし國

家の側よりする此の『接近』は一の特別の困難な複雜な仕事を意味してゐるであらうか？　そういふ風に事情を說明して、俗人共を縮み上らせようとする者がある。これを試みる者は勿論、資本家と其防衛者とである。何となれば、彼等はかくする事によりて利益を占めるからである。

しかし實際上に於て、いかなる『所有者』からも一文も沒收することなしに銀行を國有にするといふ事は、絶對に技術的若くは文化的困難を伴ふものでない。それは單に極く少數の金財布の賤しむべき貪欲からのみ痲痺させられてゐるのである。銀行の國有といふことが屢々私有財産の沒收といふ事と混同せられてゐるが、その混亂の責任は、讀者の欺瞞を事とするブルジョア新聞に存してゐる。銀行が取扱ひ且つ銀行に集中せらるべき所の資本財産は、株券、債券、證券、利札などの名稱を持つ證書――印刷され若くは手で書かれた所の――に依つて保障せられる。銀行が國有になつた時、卽ちあらゆる銀行が一國立銀行に融合せられた時、以上の證書は無効になるものでも變更されるものでもない。貯金帳に十五ルーブルある人は、銀行の國有後でもやはり十五ルーブルの所有權を持つてゐる。千五百萬ルーブルを持つてゐる人は、銀行國有後でも株券、債券、證券、荷物證券などの形に於て元の財産を保有するであらう。

かくて銀行國有の意義はいづくに存してゐるのであるか？

それは個々の銀行に對する眞の統制は（商業の秘密の廢止された後に於てすら）不可能であるかとにある。何となれば、貸借對照表の作製と集成、支店の創設、下級役員の徴集等に採用せらるべき、複雜な、込み入つた、緻密な方法を根本的に行ふことはできないからである。財産關係に極少しの變化も與へず、何人からもまた――吾人は繰り返していふが――一文も奪ふことなしに、あらゆる銀行をたゞ一つの銀行に聯結することばかりが、一の事實上の統制の可能性を與へる。上に擧げた全ての他の方法の應用につきても然りである。

數十億の金が何所から、如何にして、何所へ、何時、流通するかといふことを國家が體驗し得るのは、銀行の國有の場合に於てのみ、實行しうるところである。銀行に對する統制、この資本主義的營利の中心、心軸、主要機構に對する統制のみが全經濟生活、最も重要なる生産物の生産と分配に對する、事實上の、言葉の上のみでない統制を容易にするであらう。これらの『經濟生活の規則化』なるものは、單純な人民をゴマかすための大臣言葉に過ぎずして常に適用されないまゝでゐる。すべての銀行が唯一つの銀行に融合されて、銀行活動が統制された時に於てのみ、

財産と所得とを隱匿せしむることなく、より廣汎で且つ、容易に實現し得る手段を應用し、所得稅を徴收することを可能ならしめる。何となれば、今日行はれてゐる所得稅は多くの場合、一の擬制に過ぎないからである。

銀行の國有はこれを命令するだけで充分であらう。重役と役員とは銀行國有自身を實行するだらう。國家よりする、如何なる特別の機關も、如何なる特別の準備機關も、全く不用である。何となれば、此手段の經濟的可能性は資本主義自身に依りて作られてゐる。即ち資本主義は證券、株券、債券其他にまで發展してゐる。たゞ計算法の統一化が殘つてゐるばかりである。若し革命的民主的政府が、すべての銀行を一個の國家銀行に聯結するといふ、この猶豫すべからざる仕事のために、各都市、各地方及び銀行重役及び役員の會合を召集することを、即刻、電報を以て命令するならば、この改革は數週間のうちに實現せられるであらう。勿論、重役や高級役員は早速、反抗をなし、できるだけこれを引き延ばすために國家を欺くことをするであらう。何となれば是等の紳士は彼等の特別な利潤の多い地位を喪失し、同樣に、特別に儲けの多い狡猾な活動ができなくなるからである。これが根本的な事柄である。

然らざれば銀行の聯結について何等の技術的困難もない。若し國家權力が紙の上でばかり革命的でないならば(卽ち國家權力が腐敗狀態を打破することを怖れないならば)、又、紙の上でばかり民主的でないならば(卽ち人民大衆の利益に於て働き、極く少數の金財布の利益のために働くのでないならば)、重役や監査役や大株主が少しでも事態を引きのばしたり、何等かの重要な書類を隱したりすることに對しては、財產の差押や投獄を刑罰として威嚇すれば、それで足りるのである。更に例へば貧困な役員等を團結せしめ、欺瞞者を發見した場合に賞金を與へるといふ方法もよいであらう。

銀行を國有にしたならば、全國民の受ける利益、農民及び小企業者の受ける利益は大きいものであらう。その利益は主として勞働者のためのものではない。(何となれば勞働者には銀行は大して用がないからである。)それは勞働力の巨大な節約を意味するであらう。若し、國家が銀行役員の現存の數を保存することを認むるならば、それは、銀行の一般化といふ意味に於て、偉大な進歩を意味するであらう。これに依りて、小所有者及び農民に對する信用制度は容易なもの、近付き易いものとなり、莫大な向上をするに至るであらう。

しかし國家は最終的にあらゆる大なる金融的活動に關する監督權を獲得し(その隱蔽せられることを不可能ならしめ)、これを統制し得るに至り、更に進んで經濟生活を整理し、大なる國家的活動のために數十億の金を獲ることができるであらう。資本家諸君に對し、その『親切な骨折』のためにコンミッションを拂ふことも要しなくなる。この故に、たゞ此故にのみ、すべての資本家、すべてのブルジョア教授、全ブルジョアジー及び彼等に奉仕するプレハノフ、ポトレソフ等の一黨は怒りの鼻息荒々しく銀行の國有に反對して鬪爭し、この最も大きな、最も必要な手段に對する百千の口實を製造しつゝあるのである。國家の『防衛』といふ立場から見てさへ、卽ち軍事的立場から見てさへ、この手段は一の巨大な進歩を意味し、國家の『防禦力』を異常に高めるものであるけれども。

多分、この點に關して次のような故障を申立てる人があるかも知れない。曰く、ドイツやアメリカ合衆國の如き、進歩した國々は、銀行の國有といふことを考ふることなくして、何故にあんなに立派に『經濟生活の整頓』を實行し得てゐるのであるか? と。吾人は答へる。それは、これらの國々が一は君主國、他は共和國ではあるが、兩者ともに單に資本主義國家たるのみならず、

また帝國主義國家であるから、然るのである。帝國主義國家たる彼等は、必要となつた諸改革を反動的官僚的方法を以て實行するのである。しかし吾人はこゝでは革命的民主的方法について論じてゐるのである。この『小さい差違』は根本的な意義を有してゐる。こゝに觀察せねばならぬ事は、主として『習俗的のことではない』。

我國に於て（特に社會革命黨及びメンセヴィキの側に於て）、『革命的民主主義』といふ言葉は、恰も『神は感謝せらるべきかな』この言葉は『有難い！』といふほどの意味に慣用せられてゐる、譯者）といふ言葉の如く、一の空虛な文句となつてゐる。後者は神信心をするように教育されてゐない人々に依つても使はれてゐる。『革命的民主主義』といふ言葉は、『眼前』の働き相手又は『協調』してゐる相手方に對して使用する『尊敬すべき君よ』といふ空語にも似てゐる。その實、すべての人は、資本家の新聞が彼等獨特の利益のためにのみ保持せられてゐるものであり、所謂社會主義者側よりする協働が頗る僅少の『尊敬』を拂はれてゐるに過ぎない事を知つてゐる。

若し『革命的民主主義』といふ言葉を一の無意味な飾り文句、因襲的な名稱として使用するでなく、眞にこれを熟慮するのであるならば、民主主義者であるといふ事は、國民中の少數者でなく其大多數者の利益を代表することを意味し、革命的であるといふことは、あらゆる恥づべきもの、あらゆる殘存物を、最大の決斷と無慈悲とを以て克服することを意味してゐる。

アメリカに於てもドイツに於ても、政府や支配階級は、我がメンセヴィキや社會革命黨が要求し（そして賣淫し）てゐるが如き、『革命的民主主義』の要求を唱へない。

ドイツに於ては、四つの非常に大きい、全國的意義を有する銀行があるのみである。アメリカに於てはそれが二つである。これらの銀行の金融王にとつては、私的に、秘密に、反動的に、非革命的に聯合し、民主的でなく官僚的に經營し、國家の官吏に贈賄し（このことはドイツでもアメリカでも同じである）、秘密の活動の可能性を保持するために銀行の私的性質を確保し、數百萬數千萬の『過剩利潤』を國家から引き出し、欺瞞的金融企業を確立することは、より容易であり、より便利であり、より利益の多いことなのである。

アメリカ及びドイツは、勞働者に（及び部分的には農民に）軍事監獄を、銀行家及び資本家には樂園を利用する、といふ違り方で、『經濟生活を整頓』してゐる。その整頓は、勞働者にパン屑をより高く買はせ、資本家には戰爭以前よりもより高い利潤を（秘密に、反動的に、官僚的に）確保

するといふことに存してゐる。

この方法は共和的帝國主義的ロシアに於ても可能である。――それはミリウコフ及びシンガレフに依りて實現せられるのみならず、テレシュチェンコ、ネクラソフ、ベルナツキイ、プロコポヴィチ等の一黨と共にケレンスキーに依りても實現せられる。彼等は、氣狂ひじみた利潤に對する、銀行の反動的官僚的な『不可侵』と其神聖な權利の防衛に力めてゐる。しかし吾々は寧ろ眞理を語らんと欲する。卽ち共和國ロシアに於て、今や經濟生活を反動的官僚的に整理しようと欲する者がある。それはコルニロフ第一號が未だ刈り取られてゐない今日、再びコルニロフ第二號の企てを可能ならしめ、以て『何回となく』ソヴィエットの生存を危からしめるだけのものである。

これは眞理である。たとへ痛ましき眞理であらうとも、この單純な眞理は、國民の啓蒙について、『吾々の』『傳大な』『革命的な』民主主義について甘い嘘を述べるよりは遙かに有効である。

* * *

銀行の國有はまた保險業の國有を非常に容易にするであらう。卽ちあらゆる保險會社を唯一つの保險會社に聯結し、その活動を集中化し、これを國家によりて統制するに至る。革命的民主的

政府がこれに關する法令を發布し、重役や大株主に向つて、少しも延期せず此聯結を完成するように命令するならば、保險會社の役員の會合は速かに且つ多く勞することなくして、此の聯結を完成するであらう。資本家は保險事業のなかに莫大の金を貯藏してゐる。すべての仕事は役員によりて行はれてゐる。この部門の聯結は保險料を低下せしめ、あらゆる被保險者の無數の便宜と負擔の減少とを生じ、多くの力や手段を弄することなしに、其範圍を以前よりも更に擴大するであらう。利益の多い地位を占めてゐる極く少數者の腐敗、墮落、金錢慾の外に、この改革を妨げる者はない。この改革は國民の力の結合に依りて國家の防禦力を高むべきものであり、紙の上でなく、行動の上に、『經濟生活を整頓する』多くの眞摯な可能性を齎らすであらう。

五　トラスト及びカルテルの國有化

資本主義が資本主義以前の古い國民經濟の組織と異つてゐる所以は、資本主義がその種々樣々なる部門の最も密接な聯絡とその相互作用關係とを作り上げた事に存してゐる。これなくしては、社會主義を實現しようとするあらゆる試みは技術的に不可能である。(同時に談ずることも出來な

い。)銀行が生産を支配してゐる現代の資本主義は、國民經濟の種々の部門の相互作用關係を極度に高めてゐる。

銀行及び商工業の大部分は、解き放すことの出來ぬように、相互に結びついてゐる。このことは、一方に於て、商業及び工業のシンヂケート(砂糖、石炭、鐵、石油等)の國家的獨占を形成する手段を講ずることなしに、これらのシンヂケートを國有化することなしに、銀行だけを國有にすることが不可能であることを、意味してゐる。このことは、他方に於て、經濟生活の整頓なるものを眞摯に考ふる以上、それは同時に銀行及びシンヂケートの國有を要求するといふことを意味してゐる。

吾々は例を砂糖シンヂケートにとつてみよう。此シンヂケートはツアーリズムの時代に作られたもので、立派に活動してゐた工場や職場を大規模に資本主義的に聯合してゐたのであつた。それは、言ふまでもなく、完全に最も反動的、最も官僚的性質に浸み込んで居り、資本家に狡猾に高い利益を確保し、役員及び勞働者を絶對的に無權利の、悲慘な、奴隷的な狀態においてゐたものであつた。

國家は既に其當時、貨幣貴族の利益のために生産を統整し整頓してゐたのである。

吾々はこの反動的官僚的整理を革命的民主的整理に變形しなければならない。それは統一的な報告の蒐集、種々の事業團體の統制等に關し、役員、技師、重役、株主の集會を召集する一片の法令を出せばよいのだ。これは單純に考へ得られる事柄であるが——しかも何事も爲されてゐない所である！　實際に於て、この民主的共和國に於ては、砂糖工業に對する反動的官僚的整理がそのまゝに殘つてゐる。すべては古いまゝに殘つてゐる。依然として國民力の浪費、頽廢、停滯、ボブリンスキーやテレシュチェンコの暴富がある。社會革命黨とメンセヴィキとが『聯合』といふ企らみを以て國民の意識を曇らせないならば、官僚主義者にあらずして民主主義者、『砂糖王』にあらずして役員と勞働者とをして、自主的創意に立たしむることは、數日の間に、『一擊を以て』行ひ得る所である。社會革命黨とメンセヴィキとの企らむ『聯合』なるものは、この同じ砂糖王との聯合であり、貨幣貴族との聯合であり、是れに依つて經濟生活の整理といふ問題に關する、政府の『完全なる不活動』が自明の事となるのである。

更に石油の生産について見よう。

石油の生産は既に資本主義の前驅的發展に依り、巨大な程度に於て『會社化』されて居る。數人の石油王が數十億の金を左右し、『事業から』お伽話のような利益を搔き集めてゐる。この事業は、技術的には既に(大國家的規準に依り)組織化して居り、數萬の役員、技師其他によつて行はれてゐる。石油工業の國有はたゞ一回で出來上り得るものであり、革命的民主的國家にとつて無條件に必要である。特に此國家が最大の危機のなかにあり、國民の力を無條件に節約し、燃料の生産を促進しなければならぬ時に當りて、特に然りである。吾々は、この事に關して官僚的統制が少しも役に立たず、何物をも變ずることのできないものを理解してゐる。何となれば、『石油王』はテレシュチェンコ、ケレンスキー、アウクセンチェフ、スコベレフと精確且つ容易に一致協同すること、ツァール時代の大臣に於けるが如くであるからである。石油王等は、延引と約束とにより、ブルジョア新聞に對する直接間接の買收に依り(これが『輿論』と名付けられて居り、ケレンスキーやアウクセンチェフなどの所謂『愼重』な輿論である)、そして官吏(ケレンスキーやアウクセンチェフは舊い、少しも變らない國家機關の官吏をそのまゝに任用してゐる)に對する贈賄に依り、以てケレンスキー一派に對する協同一致を確保してゐる。

吾々は、積極的効果を獲得するために、官僚主義より民主主義へ移つて行かねばならない。實際に革命的に進んでゆかねばならない。このことは石油王及び株主に向つて戰を宣することを意味する。卽ち彼等が石油産業の國有化を引きのばし、その利潤と計算とを隱くし、生産をサボタージし、生産の向上のために何等の手段を講じない場合に於て、彼等の財産の沒收と投獄の刑罰とを以て彼等を威嚇することを意味する。吾々は勞働者及び役員に向つて、彼等が卽刻、協議會と大會とに集合する主動的態度をとることを訴へ、多方面の統制の創造と生産の向上とを條件として、彼等の手に利潤の一部分を與ふべきことを約束せねばならない。吾々がかくの如き革命的民主的手段を一九一七年四月に直に行つてゐたならば、ロシア——殆ど世界中で最も大きい液體燃料物を所有してゐる——は、夏の間に水運を利して、燃料の必要なだけの量を充分に國民に供給することができてゐたであらう。

ブルジョア政府も、また社會革命黨、メンセヴィキ、カデットの聯合政府も、何等のことをも計畫しなかつた。彼等は、改革に關する考へについては、官僚的に振舞つただけである。何人も極く少しの革命的民主的手段すら採ることを敢てしなかつた。吾人はこゝに同じ石油王、同じ停滯、

勞働者と役員との壓迫者に對する同じ憎惡、同じ廢頽、國民の力の同じ浪費を見るだけである。——すべてがツァーリズムの時のまゝである。『共和國』の官房を出入する書類の稱號が變つただけである。

石炭業について見るに、これも同じように技術的文化的に國有化のために準備されて居り、同じように人民の搾取者たる石炭王に依りて管理せられてゐる。吾々は工業家が生產を直接にサボターヂし、直接に荒廢せしめ、停滯せしめてゐる、多數の、公然の事實を見てゐる。メンセヴィキの大臣の機關紙『勞働新聞』さへ此事實を認識してゐる。そして今は？　これにも拘らず、何事も爲されてゐない。『半可通』の勞働者と石炭シンヂケートの泥棒との參加してゐる舊い、反動的官僚的の協議會については言ふまでもないことである。

何等の革命的民主的手段も未だなされてゐない。下からの、役員及勞働者團體によりて行はれる有効な統制の試み、卽ち國土を荒廢せしめ生產を停止させてゐる工業家に對するテロアによりて行はれる有効な統制のいかなる曙光もない。——かうして一體、何が出來る！　吾々は『すべて』、『聯合』を承認してゐる。よしカデットとであらうとも、卽ち商業及び工業の人間とであらうとも、これを承認してゐる。かくの如き聯合は、資本家に權力を任かせ、これを不問に附することを意味し、事物の發展に制動機をかけ、あらゆる困難を勞働者になすり付け、破滅を强め、この方法に依つて新しいコルニロフ黨を用意する可能性を資本家に與ふることを意味してゐる。

六　商業の秘密の廢止

商業の秘密を廢止する事なくしては、生產及び分配の統制は一の空虛な約束に過ぎない。カデットはこの空虛な約束を以て社會革命黨、メンセヴィキ、及び勞働する階級を欺いた。若くは統制は反動的官僚的の方法手段に依りてのみ行はれてゐるに過ぎぬ。このことは偏見のない人間には明かなことである。『プラヴダ』も商業の秘密の廢止を要求したに拘らず、（それは資本に奉仕するケレンスキー政府に依りて禁止された）、吾が共和政府も、『革命的民主主義の政府機關紙』も、一度たりとも實際の統制の此の眞摯な必要を考へたことがない。

各種の統制に關する鍵が正にこゝに存してゐる。人民を掠奪し生產をサボターヂする資本の最も敏感な立場がこゝに在る。この故に社會革命黨とメンセヴィキとは此點に觸れることを怖れたの

である。

小市民から頓着される事なしに、いつも繰返されてゐる資本家の最も普通な議論は、資本主義經濟は、商業の秘密の廢止を絶對に不可能とするものであり、その理由は生産機關の私有制度、個々の經營の市場への從屬、等が決算簿と商營業と、從つて銀行營業に缺くべからざるものであるからであるといふに存してゐる。

何等かの形態でこれらの議論を弄する人々は、自ら欺くものであり、民衆を欺くものである。何となれば、彼等はこれに依りて現代經濟生活に於ける二つの最も根本的な、最も重要な、一般的に知られてゐる事實を無視するからである。第一の事實とは、發展せる資本主義即ち銀行制度、大工場シンヂケート等、等の根本的特質である。第二の事實とは戰爭である。

至る所、獨占資本主義となつた現代の資本主義は、各種の商業秘密の必要を隈なく除去した。今やそれは一の僞善となり、大資本家の金融的欺瞞と無比の利潤との道具となつた。發展したる資本主義經濟は、その技術的性質上、一の社會化したる經濟である。即ち莫大の人間のために働き、その作用によりて直接間接に數知れぬ家族を結合する。これは小手工業者や中農の經濟行爲

とは異つたものである。後者は少しも商業帳簿を作らず、商業の秘密を廢止する譯にゆかないのである。

大經營に於ける活動は多數の人によりて知られてゐる。商業の秘密を擁護する法律は、生産や流通の要素に役立つものでなく、却つて奉仕するものである。それは恰も、人の知る如く、株式企業が最もよく公衆の鼻面をつかんで引きまはすために、報告や貸借對照表によりて特に用意し特に巧みに隱蔽する巧妙な欺僞と同じことである。

商業の秘密は、生産自身が統一化されて居らず分散し分裂してゐる小商品經營、即ち小農と手工業者とに在りては、缺くべからざるものであるが、反對に大資本主義的經營の下にありて、この秘密の保護は、單に文字通りに一掬みほどの人間が全民衆に對して有する特權と利潤との保護である。法律でさへ、株式會社の報告の公布の實行を必要と見なしてゐる。しかし此の既に實行せられてゐる統制はすべての先進國に於ても、ロシアに於ても、同じように反動的官僚的であり、民衆の眼を開かないのみか、株式會社の活動に關する全眞理を知ることを民衆に許さないものである。

眞に革命的民主的に活動せんと欲せば、吾々は直に一の新しい法律――商業の秘密を廢除し、大經營及び富豪より明瞭なる報告を要求し、充分に民主的な一團を形成する市民の各團（例へば千人若くは一萬人より成る選擧人）に各大企業のあらゆる書類を査閲する權利を與ふる法律――を發布せねばならぬ。かくの如き方法は一の法令によりて完全に容易に實現せられるであらう。かくの如き方法のみが諸々の役員團體、諸々の勞働者團體、あらゆる政黨による統制に關し、民衆の創意を展開せしめ得るであらう。かくの如き方法のみ統制を眞摯な民主的なものたらしめるであらう。

さてその次ぎは戰爭である。商業及工業經營の壓倒的多數は今日『自由の市場』のためでなく、國家のために、戰爭のために働いてゐる。この故に余は既に『プラウダ』紙上に、社會主義を實現することが不可能だと論議してゐる連中は二重にも三重にも嘘を吐いてゐる譯であり、其故は社會主義を即刻、直接に今日より實施するといふことが問題となつてゐるのでなく、却て國家的盜奪といふことが問題となつてゐるからである、と書いたのである。

『戰爭のため』の資本主義的生産（即ち直接間接に軍需品を供給するための生産）は、メンセヴィキ

や社會革命黨と一所にカデットの諸紳士に對し信ずべからざる程の利潤を與へてゐる。これらの連中は商業の秘密の廢止に烈しく反抗して居る。彼等は詐欺取財の補助者に外ならない。

ロシアの戰費は一日、五千萬ルーブルを算してゐる。この五千萬ルーブルの中、五百萬ルーブル、或は一千萬ルーブル若くはそれ以上の額が『當然の利得』として資本家及び彼等と何等かの了解を持つてゐる官吏の手に入るのである。特に戰時品供給のために金を取扱ふ大商會や銀行は、官金費消によりて儲かる前代未聞の利得を持つてゐる。何となれば、戰爭の悲慘に面し、數十萬人の死傷に面し、何人もこの民衆に對する詐欺や欺瞞に聲を揚げずに居る。戰時品供給に際しての此の狡猾な利得について、銀行が秘密にしてゐる『保證狀』について、また引き續く物價騰貴に際して何人が富んでゆきつゝあるかといふ事について、『すべてのもの』が知つてゐる。これに關する精確な材料はブルジョア新聞にすら少くない。ブルジョア新聞は大抵、この『不愉快なる事實』と『擽ぐつたき問題』とを取扱つてゐる。すべての人はこれを知つてゐる。――すべての人は默つてゐる。すべての人は我慢してゐる。すべての人は、『統制』と『整頓』とを喋々する政府に向つてまだ信頼してゐる！

革命的民主主義者が、眞に革命的であり民主的であるならば、即刻、商業の秘密を廢止する一法律を發布すべきである。此法律は請負人や商人に精確な報告を強要し、許可なくして彼等の仕事の何れかを廢止することを禁ずべきである。この法律は賍品隱匿と民衆欺瞞とに對する法律であつて、財産の差押を以て威嚇し、下からの、即ち民衆自身の、役員團體、勞働者消費組合其他による監視及び統制を定むべきである。

吾が社會革命黨及びメンセヴィキの徒は、臆病な民主主義者といふ呼稱に充分値してゐる。何となれば彼等は上記の問題について、すべての臆病な民主主義者が言ふ事と常に同じ事を繰り返してゐるからである。即ち彼等は、資本家は『過度に峻嚴な方法』を適用すれば『散り々々』になつてしまふであらう、『吾々』は資本家がなくてはやつてゆけない、吾々を『支持』してゐるイギリス及びフランスの富豪は結局、『氣を腐らして』しまふだらう、等、樣々のことを言つてゐる。

或は、ボリセヴィキが人類の歷史に未だ無かつたもの——ユトピヤを提議してゐる、と想像する人がある。しかし事實上、既に百二十五年前のフランスに於ては、眞に革命的民主主義であつた人々が、眞に戰爭の正當な防禦的性質を確信し、彼等と此確信を正しく分ちたる人民大衆の基礎

に立ち得たことがある。この人々は富者に對する革命的統制を實施し、全世界を震駭せしむる効果を獲得することを理解してゐた。而して過去百二十五年間に於て、資本の發展は、銀行、シンヂケート、鐵道等、等の設立によりて、搾取者及び資本家に對する勞働者及び農民の側よりする眞の民主的統制の可能性を百倍も容易にし、單純化したのである。

根本的に言へば、全統制問題は、何人が何人を統制するかと云ふ點に存してゐる。即ち如何なる階級が統制する階級であり、いかなる階級が統制の下に立つ階級であるかといふことに存してゐる。しかるに今日まで、地主及び資本家が、吾が共和國ロシアに於て、また所謂革命的民主主義者の『全能的機關』に對する參加に於て、統制者として認められて居り、許されて居るのである。（五行略）

七　強制的シンヂケート化

強制的シンヂケート化、即ち例へば工業家を強制的に團體内に結合することは、既に實際的にドイツに於て行はれてゐる。このことは決して新しいものではない。しかるに吾々は、こゝでは、社會革命黨及びメンセヴィキの罪過によつて、共和國ロシアの完全に頽廢してゐるのを見る。即ちこの尊敬し難き兩黨は或はカデットと結び、或はブブリコフ、テレシュチェンコ、ケレンスキーと組合つた舞踏に熱中してゐる。一方に於て強制シンヂケート化は、國家の側よりする資本主義的發展の前進の一つである。それは、到る所に於て、階級闘爭を組織化し、諸種の團體の數を增し、その種類を增し、其意義を大ならしめる。他方に於て強制的團體化は、より徹底的でないにせよ、統制及び國民力の各種の節約に對する必要な準備的仕事たるものである。

例へばドイツの法律は、一地方又は全國の製革工場主に向つて、一團體内に結合する事を強制してゐる。そして國家の一代表者がこの團體の管理に加入してゐる。かくの如き法律は毫末も直

接に財産關係に觸れるものではなく、財産所有者から一文も奪ふものでなく、統制が反動的官僚的形態及び傾向に於て應用せられるか若くは革命的民主的のそれに於て應用せられるや否やを前以て決定してゐるものではない。

吾が國に於て、即刻、同種の法律が實施せられねばならず、又、實施され得るのである。一週間と雖も貴重の時間を失ふてはいけない。吾々はこの法律の實施の具體的形態、この實施の迅速さ、この實施の統制手段を發見することを社會的情勢自身にまかすべきである。國家は、このために何等特別の機關も、特別の調査も、又、かゝる法律の發布のために何等の解説的な補助研究も必要としない。たゞ、資本家の利益を除去する決心が必要なだけである。資本家はかくの如き干渉を受くることに慣れて居らず、各統制と古い型のまゝの管理とに依つて確保せられてゐる過剩利潤を失ふことを欲しないのであるけれども。

何等かの機關も何等かの『統計』も――チェルノフは是れを農民の革命的創意とおきかへようと欲してゐる――かゝる法律の發布のために必要ではない。何となれば、その實施は工場主及び工業家自身に、既存の社會的諸力に、課せられてゐるからである。これを統制するものは、既存の、

社會上の(卽ち政府や官僚でない)諸力であり、無條件的に所謂『下層階級』卽ち被搾取階級、被壓迫階級からの力の統制である。この階級は、英雄的行動、自己犧牲、同志的訓練等について、歷史上、搾取者よりも測り知るべからざる程の高さを以て現れてゐるものである。

吾々は次の事を假定してみよう。卽ち吾々が事實上、一の革命的民主的政府を有し、この政府が各產業部門の、二人以上を使用するすべての工場主と工業家とに向つて卽刻、地區團體又は州團體に團結する義務を課することを決定した、と假定する。この法律の無條件的實施に對する責任は、先づ工場主、重役、監査役、大株主が負ふべきである。(何となれば彼等は近世產業の眞の指導者であり、その事實上の所有者である。)彼等は軍隊の脫走兵の如くに見なさるべきものである。此法律の卽時の實施のための仕事をサボターヂすることに對しては、脫走兵の如くに責任を持たすべきである。彼等は、すべて一律に、彼等の全財產を賭して、相互の責任を遂行せねばならぬ。更に唯一個の團體を形成する責任はすべての役員並に勞働組合を持つたすべての勞働者に課せられる。このカルテル化の目的は、原料の購買、商品の販賣、民衆の手段と力との節約、等のための最も完全な、最も嚴格な、最も精確な報告の作製並にその集成に存してゐる。この節約

は分散してゐる多くの企業を一個のシンヂケートに聯合する事によつて巨大な範圍に達する。それは經濟學や、シンヂケート、カルテル、トラスト等の例が示してゐる。もう一度繰返へして言ふべきことは、この一個のシンヂケートに向つての自己結合は、いかなる場合に於ても財產關係に觸れるものでなく、財產所有者から一文もとるものでないことである。この事實は特筆大書しておかねばならぬ。何となれば、ブルジョア新聞は、社會主義者――全般的に主としてボリセヴィキを指す――は諸君を『收奪』しよう欲するのだ、と書いて盛に中小の營利業者を脅かしてゐる。これは科學的に虛妄な主張である。

また是を敢てしないであらう。吾々はすべての時間をたゞ最も手近な、延期することの出來ない、方法についてのみ論じてゐる。これらの方法は旣に西ヨーロッパに於て應用せられて居り、多少徹底した民主主義者は近づき來れる怖るべき大破綻との鬪爭のために、ロシアに於ても卽刻應用せねばならぬものである。

小所有者及び極端な小所有者を團體のうちに結合することは、重大な技術的文化的困難にぶつ突かるであらう。何となれば、彼等の企業は極端に分裂して居り、技術が原始的であり、所有者

が文盲であつたり無教育であつたりするからである。しかし是等の企業は此法律から除外されても差支へない（既に上記の例に於て說明した如くに。）彼等の聯合の遲れることは姑く問はず、彼等が團體に結合しなくとも大した妨害とはならない。何となれば大多數の小企業者は、生產の總額に對しても、また全體としての國民經濟に對する意義に於ても、既にその任務が消滅してゐる。——そして更に彼等は他の大企業に隷屬してゐる。

大企業のみが決定的意味を有するだけである。カルテルに對する技術的文化的手段及び力はこに存してゐる。たゞこれらの手段及び力を動かすべき革命的權力の强い、決然たる、假藉する所なく峻嚴な創意が缺けてゐるのみである。

一國に教育ある要素、一般的に言へば知識要素の貧弱なれば貧弱なる程、出來得るだけ速かに且つ決定的に、强制聯合を命令し、最大の企業及び大なる企業について其實施を開始することが刻下焦眉の急務である。何となれば、此聯合は精神上の力を節約し、これを全然且つ全部、利用し是を正しく分配すべき可能性を與ふるからである。孤立無援の狀態にあつたロシアの農民は、ツァールの支配の下に於て、この支配によりて作り出されてゐる幾多の難境と鬪爭し、一九〇五年

後にはあらゆる團體を作つて强烈な進步をしたのであるが、吾人はこれによつて大中の工業及び商業の聯結が數ヶ月のうち若くはより速かに實施せられ得ることを了解するのである。

これを實現するための條件は、眞の革命的民主的政府——『より低い身分』卽ち役員及勞働者の支持、參加、熱心の上に基礎をおき、彼等を統制の方へと呼びさます所の——の側よりする强制に外ならない。

八　消費の調節

戰爭はすべての交戰國及び多くの中立國をして消費の調節に着手することを强制した。パン切符が初めて生れ、習慣となり、他種の切符をも生れしむる結果を生じた。ロシアもその例外ではなく、パン切符を施行してゐる。

しかし吾々は、此一例に於て、反動的民主主義の方法と革命的民主主義の方法との間の差違を、恐らく最も明瞭に見ることが出來るのである。卽ち前者（反動的民主主義）は大破綻を征服しようとするが、改革の最小限のみを實行せんとするものであり、後者（革命的民主主義）は、その名を

恥かしめざるためには、自己の第一任務が舊き物、殘存せるものを强烈に芥除し、前進しつゝある運動を考へ及ぶ限り集中的に促進するにあることを認めざるを得ないものである。

資本主義國家に於る消費調節の主要の型ある所のパン切符は、既存のパン量をあらゆる人の手に入り得るように分配することを其の一つの任務とし、且つこれを實現してゐる。(最も善い場合にのみ實現せられてゐるのである。)すべてのものではなく、など最も主要な『國民』生產物の消費の最大限が定められてゐるに過ぎぬ。これが全部である。それ以上を考ふる人はゐない。現存のパン量は全然官僚的に計算され、分配せられてゐる。一つだけの規範が定められ、實行せられ、それで事態を帳消しにしてゐる。奢侈品には毫も手を觸れてゐない。何となれば奢侈品は一般『國民』の手の届かぬほど、『それほど』高價であるからである。この故に、吾々が例外なくすべての交戰國に於て體驗してゐることは、この事がドイツに於てすら何等の故障にも逢はず、最も注意深い、最も適切な、最も嚴格な消費調節の型だとせられてゐるように見えること、かくしてドイツに於てすら富者が消費調節のすべての『規範』を回避してゐることである。『すべてのもの』がこれを知つてゐる。『すべてのもの』が笑ひながら是れを談じてゐる。ドイツに於ける社會主義新

聞も、ブルジョア新聞も、激烈なドイツの軍事的檢閲にも拘らず、富者の『献立(メスー)』や、彼等が白パンが欲しくなればこゝかしこの溫泉場に旅行することの可能なことや(すべての者が金さへあれば、病人だとして旅行することができる)、富者が奢侈品を使つて通俗の品物を使はないでゐる事などについて、記事や報告を屢々公にしてゐる。

資本主義の根抵、賃銀奴隷と富者の經濟的支配との根抵を動搖せしむることを恐怖する反動的資本主義國家、勞働者の、一般的にはすべての勤勞者の自主自立を促進することを恐怖する、反動的資本主義國家、かくの如き國家はパン切符以外の何物をも必要としないのである。かくの如き國家は一瞬間も、また如何なる手段に於ても、その反動的目標から眼を放すものでない。その反動的目標とは、資本主義を確立し、これに如何なる損害をも加へず、一般的には經濟生活の、特には消費の調節については民衆を一定期間だけ賄ふに無條件に必要な方法だけに限らう、とするに在る。しかし彼等は、消費の正しい調節、即ち富者に對する統制、富みたる者、善き地位の者、特權ある者、肥え太りたる者、平時に肥滿し更に戰時に於て肥え太りたる者、等に對するより大なる負擔の賦課については、これを避けてゐる。戰爭が國民に課した問題に對する反動的官僚主

義者の解決方法は、パン切符に限られて居り、營養のために絶對に必要な『通俗』の生産物の嚴密な分配のみに限られてゐる。彼等は毛筋ほども官僚主義と反動とから退いてゐない。卽ち貧者、プロレタリアート、人民大衆の自主的活動を抑へつけ、これらの者の側よりする對富者の統制を許さず、富者をして奢侈品を以て共用途に宛てしめるが如き拔け路を出來る限り作る、といふ目的をそのまゝに行つてゐる。而してあらゆる國々に於て、吾人は繰り返して言ふが、ドイツに於てすら――この點になつてくるとロシアはもはや問題ではない――多くの拔け路が作られてゐる。『普通の民衆』は飢えてゐるが、富者は溫泉場に旅行し、あらゆる『補助規則』を利用して貧弱な國家分配品を補充し、自ら何等統制するところがない。

ツァーリズムに反逆し、自由と平等との名に於て正に革命を戰ひとりたるロシア、忽ちその事實上の政治的制度が一の民主的共和國と變化したロシア、この國に於ては、何人も氣の付く如く、『パン切符』が甚だ容易に富者の手に這つてゆく。この事は國民に特に著しく眼に映り、大衆の特別な不滿、激怒、憤懣を呼びおこしてゐる。パン切符が富者の手に這入る容易さは特に大きい。『袖の下』を用ひ得る者、特に高い値段を拂ふ者、何かの『關係』を持つてゐる者（これを持つてゐるのは富者だけだ）は、すべてのものを、しかも澤山、得ることが出來る。しかし國民は飢えてゐる。消費の調節は、狹い官僚的反動的範圍に於てのみ行はれてゐるに過ぎぬ。政府は少しも此調節を革命的民主的基礎の上に築かうと苦心してはゐない。

『配給所』では『すべての者』が苦しんでゐるが、……しかし富者は召使を立番に遣つてゐる。否、このために特別の召使を雇つてゐる。諸君はかうして『民主主義』を持つてゐるのだ！

革命的民主主義者の政策は、國中が體驗してゐる此の前代未聞の受苦の時期に當り、近づき來れる大破綻を克服するために、單にパン切符ばかりで滿足できるものでない。此政策は第一には全人口を强制的に消費組合に結合することを必要とする。何となれば、かくの如き結合がなくては、消費の嚴格な統制が實行され得ないからである。此政策は第二には富者に對する勞働の强制の實施を必要とする。卽ち彼等はかくの如き團體のなかに於て書記若くはこれと類似した者となつて無報酬に働らくべきである。此政策は第三にはあらゆる現存の消費品を全人口の間に分配することを司るべきである。これは戰爭の負擔を眞に平等に分配するためである。此政策は第四には富者の消費を人口中の貧乏な階級が統制するが如き統制團體を實現すべきである。

この範圍に於ける眞の民主主義の建設、最も貧窮に苦しんでゐる人民階級の間に於ける統制團體のなかに目ざめた眞の革命的精神、これらのものは現存の各種の知識力の緊張と全民衆の眞の革命的エネルギーの發露とによつて、考へ得る限りの最も大きな刺戟である。しかるに今日、共和的ロシア、革命的民主的ロシアの大臣等は、他の帝國主義國家に於ける彼等の大臣と寸分違はず、『國民のための』『一般な任事』、『あらゆる力の緊張』等について、響きのよい言葉を弄してゐるが、しかも民衆は此言葉が僞善にすぎない事を見、感じ、認めてゐる。

同じ場所に足踏(もしぶみ)が行はれてゐるにすぎない。破滅は停滯せずに增大してゆく。大破綻は刻々に近づいてゐる。その故は、吾々の政府がコルニロフやヒンデンブルグに倣ひ、帝國主義者の一般的模型に倣ひ、軍事監獄を作り出すことも出來ず、――革命の傳統、記憶、効果、習慣、制度は國民の間に餘りに生々としてゐる――さりとて事實上に革命的民主的基礎に對する眞摯な手段を講ずることも出來ないでゐるからである。吾々の政府はこれを欲してゐない。それは彼等が、上から下まで、徹底的に、ブルジョアジーに對する隷屬關係、彼等との『聯合』、彼等の事實上の特權を害する憂慮等に呑み込まれ、卷きこまれてしまつてゐるかなである。

九　政府は民主的團體の仕事を妨害しつゝあり

吾々は大破綻と飢餓とを征服すべきで種々の手段方法を說明した。吾々は至る所に於て、一方に於ける民主主義、並に他方に於ける政府及びこれに基礎をおいてゐる社會革命黨及メンセヴィキ、の間に於ける反對關係の調和すべからざることを確實に見た。

この反對關係が現實に成立してゐるものであつて、吾々の叙述のなかにのみ存する譯でないこと、この不調和が一般的意義を有する事實の鬪爭によりて證明せられうること、等を明白にするには、二つの特別な『結果』と、吾々の革命の過去半年の出來事の教訓とを回想して見るだけで充分である。

バルチンスキーの『支配』の出來事――これは一の教訓である。

ペセホノフの『支配』と沒落との出來事――これは他の教訓である。

根本的に見れば、大破綻及び飢餓を克服すべき上記の諸方法は、人民、先づ第一には民主主義者、即ち人口中の大多數者――即ち先づ被壓迫階級たる勞働者と農民、特に貧農との『カルテル

化』をあらゆる方面に於て刺戟(强制といふ點まで)することに存してゐる。而して人民自身は、戰爭の無比の負擔、困難、窮乏と戰ふために、全く原素的に、この方法を採つたのである。

ツァーリズムは、あらゆる方法を以て、人民の自主的な自由な『カルテル化』を妨害してゐた。しかしツァールの帝政の破滅後は、全ロシアに於て、民主的團體が成立し、生成した。大破綻に對する闘爭は、人民の自ら組み立てた民主的團體、例へば供給委員會、食糧品委員會、燃料協議會等によりて行はれてゐたのである。

而して今は如何。此問題に關して、吾々の革命の全半年間に於ける出來事のなかで最も注意をひく事は、自ら共和的、革命的と稱する政府、社會革命黨とメンセヴィキとが『革命的民主主義の全能の機關』といふ名に於て支持してゐる政府――この政府が多くの民主的團體と闘爭し、そしてこれを撲滅したことである！

バルチンスキーは、此闘爭によつて、全ロシアに最も響き渡つた。しかし最も哀れむべき名聲を博し得た。彼等は政府の背後にかくれて仕事をし、人民の前に公然と現れなかつた。(それは正確にカデットの遣り方である。カデットは一般的にかく行動するのであつて、彼は『人民のために』

好んでツェレッテリを舞臺に押し出すが、自分は默つて最も重要な仕事をやつてのけるのである。)其理由は、いかなる眞面目な手段も、全財布の無制限な利潤や我儘な愚行に『損害』を加ふる事なしには行はれないからである。

かくてバルチンスキーは無條件的に全財布の忠實な防禦者であり、召使であつた。そしてバルチンスキーが自主自立の民主的團體の規約に直接に反對を叫ぶ、といふほどまでになつたのである!! (この事實は新聞にも公にされた所である。)

四個月の間に於ける、卽ちツェレッテリ、スコベレフ、チェルノフが『大臣』であつた時代に於けるバルチンスキーの『支配』の全出來事――それは資本家とその賤しき金錢慾との氣に入るための、不斷の憎むべき詐謀、民意に對するサボーターヂ、民主主義者の解消、に外ならなかつた。勿論、新聞紙はバルチンスキーの『英雄的行動』の極く一部分を印刷したにすぎぬ。彼が如何に飢餓退治の闘爭を妨害したかといふことに關する完全な調査は、プロレタリアートが權力を獲得し、バルチンスキーと其同志とのあらゆる行動を國民裁判に附する場合に於ける、眞に民主的なプロレタリアートの政府の仕事に殘されてゐる。

多分、バルチンスキーは一つの例外であつたと抗辯する人があるであらう。彼等はバルチンスキーを取りのけたいことであらう。――しかしバルチンスキーが例外ではなく、却て一の規準であること、彼を取りのけても事情は少しもよくならないこと、は明かである。バルチンスキーは他の名前の人間を以て彼の位置に据へた。しかし資本家の『勢力』は依然たるものであつて、飢餓に對する鬪爭をサボタージする全政策は資本家の氣に入るために少しも變色せられなかつた。何となればケレンスキー一黨は、單に資本家の利益を擁獲するための一のマントに過ぎないからである。

營養大臣であつたペセホノフが其地位から退いたことは、その最もよい證據である。人の知る如く、ペセホノフは非常に穩健な人民主義者（ナロードニキ）である。しかし、彼は營養問題の組織については、民主的團體に立脚し、これと共同して正直に働かうとしてゐた。ペセホノフの仕事と經驗と彼の失脚とは甚だ興味がある。即ち、『國民社會黨』の一員であつた、この溫厚な人民主義者は、ブルジョアジーとのあらゆる妥協を用意してゐたが、しかも彼の仕事を放棄するの已むを得ないことを見たのである。何となれば、ケレンスキーの政府は、資本家と搾取者と大地主との氣に入るため

に、穀物の正定價格を却て高めたのである。

エム・スミスは、新聞『新生活』（九月二日）に、この手段と其意義とについて、次の如く叙述してゐる。

『政府が國家營養委員會に於て、正定價格の値上を採用する數日前、次の如き光景が演ぜられた。右黨の代表者ボロヴィッチは自由商業の利益の頑固な主張者であり、穀物の專賣及び經濟生活の國家的干渉に對する徹底的な敵であるが、彼は自分でも氣に入つたような笑ひ聲をしながら、公然、次の如く宣言したのである。曰く、自分は穀物の正定價格を直に値上げせねばならぬ事を經驗したのである、と。

しかし勞働者及び兵卒代表ソヴィエットは、そんなことはまだ聞いたこともない、と抗辯し、ロシアに於て革命が續いてゐる限り、かくの如き行動は不可能であること、何れにせよ政府は民主主義の關係機關――經濟評議會及び國家營養局と協議することなくして、この手段を採るべきでない、と要求した。農民代表ソヴィエットの代表者も此宣言に同意した。』

從つて――勞働者の代表者と農民の代表者とは、人民の莫大な大多數の名に於て、彼等の意見

を決定的に宣告したわけである。しかしケレンスキーは、資本家の利益のために、彼等の意見に反對して行動した。資本家の代表者なるロロヴィツチは民主主義の名を借りて立派に教授をした。――それは恰も吾々が『レーチ』『銀行通信錄』等のブルジョア新聞が、ケレンスキー政府の何としてゐるかを最もよく教授してゐることを、常に確認し得たし、今も確證しつゝあることを精確に同じである。

この立派な教授は何を證明してゐるのであるか？　それは確かに、資本家が彼等自身の『行進』をなし、實際的に權力を手に握つてゐる、といふことを證明してゐる。ケレンスキーは、資本家の御意のまゝに、其必要な時に、動かされる操り人形にすぎぬ。無數の勞働者及び農民の利益は、極く僅少の全財布の利益の犧牲となつてゐる。

社會革命黨及びメンセヴィキは、人民のこの湧きあがるこの嘲笑に何と答へる積りであるか？彼等は勞働者及び農民に對し、ケレンスキー及び其同志を順々に監獄に入れるといふ檄でも飛ばしたであらうか？

大違ひである！　社會革命黨とメンセヴィキとは、別に痛い所に觸らない決議だけで滿足した。

その協議については吾人の既に論じたところである。彼等はこの決議のなかで、ケレンスキー政府が穀物の正定價格を値上げしたことは『一の墮落せる手段であつて、營養問題と吾國の經濟生活に對する甚だ重大な打擊を意味してゐる』と宣言し、この墮落せる手段を實行することは、法律に對する不當の『侵犯』を意味する、と述べてゐる!!

これが諒解政策の產物である。これがケレンスキーにお世辭を使ひ、彼を『擁獲』しようとする希望から出る政策の產物である。

政府は富者、大地主、資本家の利益のために法令を連發し、以て法律を侵犯してゐる。これらの法令は營養問題の全統制と極端に動搖してゐる財政の回復とを拒んでゐる。――社會革命黨とメンセヴィキとは商業及び工業界との諒解なるものを談じ續け、テレシュスチェンコと協議し、ケレンスキーを擁護し續けてゐる。そして政府を安穩に行動せしめる、紙ばかりの抗議的協議を作つて自ら滿足してゐる！

この點に於て、社會革命黨とメンセヴィキとが民衆及び革命を裏切つてゐる眞相、ボリセヴィキが大衆、特に社會革命黨及びメンセヴィキに從つてゐる大衆に對する眞の指導をすら握るに至つた

眞相が　特別の鮮明さを以て現れてゐるのである。

何となれば、プロレタリアートがボリセヴィキ黨を先頭にして權力を握つた時にのみ、ケレンスキーの一黨の暴戻を打破し、ケレンスキー及び彼の政府がサボターヂしたる營養、配給其他の民主的團體の仕事を新たに組み立てることができる。

上に引用した例が明白に示してゐる如く、ボリセヴィキは、社會革命黨及びメンセヴィキのかの動搖勝ちな、不決斷な、眞に裏切的な政策に反對し――彼等は國家をして穀物の正定價格の値上げと云ふが如き醜行を演ぜしめた――、營養及び配給問題の確立のための代辯者、勞働者及び農民の痛切なる缺乏を醫するための利益の代辯者として、登場してきたのである。

一〇　財政上の破滅

穀物の正定價格値上の問題は、なほ他の一方面を持つてゐる。此値上は新らしい無秩序な紙幣增發の洪水を意味し、物價騰貴の擴大行程に於ける新しき地歩を意味し、財政の破綻の擴大と接近とを意味してゐる。すべての人は、紙幣の增發が最も惡種の强制的公債を意味すること、是れ

は依つて、主として勞働者卽ち人口中の最も貧しい部分の狀態が惡化せられること、このことが財政的缺乏の癌腫であること、を知つてゐる。

而して社會革命黨とメンセヴィキとによりて支持せられてゐる政府は、公々然、この手段を行ふてゐる。

この財政上の缺乏と融通の利かなくなつた財政的破綻とを眞摯に克服するためには、あらゆる方面に於て資本の利益と絶緣し、『下から』の眞に民主的な統制、卽ち勞働者及貧農の資本家に對する統制を組織化する、より外に道はない。――吾々の全論議はこの方法の實行に關するものである。

新しい銀行紙幣の、考ふることも出來ぬほどの量が疾くに防堤を押し破つてゐる。資本家は是に依つて莫大な金儲けをすることが容易になつてゐる。非常に必要な生產の擴大が、是によつて最大の困難に逢つてゐる。何となれば原料、機械其他の價格騰貴が愈々高まり、駈足的に躍進してゐるからである。富者は、手形割引に依つて累積した富を隱してゐる。かような場合、いかにして事態を救ふのであるか？

大所得及び最大所得に對し、高率累進の所得稅を課することは可能である。他の帝國主義政府がこの所得稅制を實施して後、吾々の政府もこれを實施した。しかし、これは本來、一の擬制、一の死文字に過ぎぬ。何となれば、第一に紙幣の價値は益々下落してゐる。第二に商業の秘密が保護せらるれば、保護せられるほど、利潤の隱匿が大きくなつてゐる。

一の眞の、擬制的でない租稅を設定するためには、紙の上ばかりでない本當の統制が必要である。しかし資本家に對する統制は到底不可能である。何となれば、彼等はいつまでも官僚本位であり、官僚制度は百千の糸を以てブルジョアジーと結び付き、混合してゐるからである。この故に、西ヨーロッパの帝國主義國家に於ては、それが君主國であるにしろ、共和國であるにしろ、財政上の改善とは、勞働者にとつて軍事監獄若くは軍事奴隷を意味する所の『勞働强制』といふが如きものの實施に依りてのみ達せられるのである。

反動的官僚的統制——これはフランス、アメリカの如き民主的共和國をも含む一切の帝國主義國家が戰爭の負担をプロレタリアート及び一般勞働大衆に轉嫁する唯一の方法なのである。

吾々の政府の根本的矛盾は、正に、彼等——がブルジョアジーと絶緣するを欲せず、彼等との

『聯合』を破棄しないために——反動的官僚的統制を實施し、しかもこれを『革命的民主的』と呼び、ツァーリズムを漸く打破したる人民と大衆とを一歩毎に誘惑し欺いてゐることに存してゐる。

以上に拘らず、被壓服階級、勞働者農民の大衆が結合したならば、革命的民主的手段は、富者に對する直の統制と所得の隱匿に對する有効の鬪爭とを實施する可能性を有するで至るであらう。

彼等は手形の流通を便宜にし、異常に增大する紙幣の洪水を制限しようと努力してゐる。然し此方法は貧者にとつて何の役割をも演ずるものではない。何となれば、貧者はいつも其日暮しの生活をなし、彼等の『經濟的收支』は各週毎に終り、各週毎にその貧しい、やつと儲けた小金を更に資本家に返上してゐるからである。しかし手形流通は富者にとつては莫大な意義を持つてゐる。この方法は、銀行の國有、商業の秘密の廢止等と結合して、資本家の利潤に對する眞の統制を容易にし、財政組織を眞に『民主化』せしめ得るのである。(又、これに依りて改善し得る。)

これを妨害してゐる動機は、これがブルジョアジーの特權を動搖せしめ且つ彼等との『聯合』を破壞するであらうといふ憂慮に存してゐる。何となれば、眞の革命的手段なく、徹底的な强制が

なければ、資本家は決して統制の前に頭を下げず、その財政を隱し、その貨幣の貯藏を民主主義國家の統制の下におかないからである。

團體内に結合してゐる勞働者及び農民は、彼等が銀行を國有化し、あらゆる富者に對し强制的法律として手形流通を實施し、商業の秘密を廢止し、利潤の隱匿に對して財産差押を實行したならば、一般的に眞實に行はれ得るものとしての統制を形成し得るのである。この統制は富者に對するものであり、國家が自己の發行した貨幣――富者の所有し隱匿せる――を自己の手に回收し得るのである。(三行略)

これが主要點である。これは、わが社會革命黨とメンセヴィキ――革命的民主主義の旗に依りて人民を欺き、實際に於てブルジョアジーの反動的官僚的政策を支持し、いつも『わが後に大洪水あり』といふ原則に從つて行動する所の――の決して欲しいところである。

吾々は、ブルジョア的財産の『神聖』に關する反民主主義的習慣や偏見が吾々自身の中に如何に

深く根を張つてゐるかといふことについて、殆んど全然注意しない。一人の技師又は銀行家が一勞働者の收入、その所得に關する數字、その勞働の生産力等を公にしても、それは合法であり、正當である。何人もこれを以て勞働者の『私的生活』に對する謀殺だと思ふ人も、技師の『密偵若くは密告』だと思ふ人もゐない。賃銀勞働者の勞働と所得とは、ブルジョア社會に於て、ブルジョアが勞働者の『奢侈』やその『愚蒙』を天日に曝らしていつでも眺める權利のある彼等自身の公簿の如きものに當つてゐる。

さて、これと違つた統制があるだらうか？『民主的國家』が體驗生活者、官吏、婢僕の團體に向つて、資本家の收入支出を統制すること、並に資本家の利潤の隱匿に對して戰ふ政府を助くるために是れに關する經驗を公にすることを依頼したとしたならば、どんなことになるであらうか？

ブルジョアジーは『密偵』だ、『密告』だと言つて、狂暴に吼え立てることだらう！『支配者』が婢僕を統制し、資本家が勞働者を統制する時に當つては、勞働するもの、搾取せられてゐるものゝ私的生活が不可侵でないことは、白明のことゝされてゐる。ブルジョアジーはすべての『賃銀

奴隷』に向つて計算書を徴收し、其收支を明るみに引きづり出す權利を持つてゐる。然し被搾取者が搾取者を統制し、其奢侈と支出とを暴露しようと試みたならば――少くとも此奢侈が戰線に於ける貧者の飢餓と死亡とを結果する戰時に於て――ブルジョアジーは此試みを『密偵』、密告と見なし。これを許しておかないであらう！

問題は常に同じである。卽ちブルジョアジーの統治は眞の革命的民主主義と一致しない。二十世紀に於て――資本主義國家に於て――、社會主義への道を怖れる人は、決して革命的民主主義者となり得ない。

一　出道は社會主義あるのみ

社會革革黨やメンセヴィキの無氣味な日和見主義的な思想に依つて自己の見解を決定してゐる讀者は、多分、以上に述べた所に對して、次の如き抗辯をすることが可能である。

曰く、こゝに述べられた殆んど總ての手段は、その根本に於て、民主主義的手段でなく、旣に社會主義的手段である、と。

ブルジョア新聞と社會革命黨やメンセヴィキの新聞に見出される、是等の無意味な抗辯は、スツルーヴェに倣つて作り上げられた反動的な防衛である。彼等は次のように言ふのである。曰く、吾々は未だ社會主義のために成熟してゐない、社會主義を『實施』するのは早すぎる。吾々の革命はブルジョア革命である、――從つて吾々はブルジョアジーの婢僕の役目を果さねばならない。と。（しかし百二十五年前の偉大なブルジョア革命家たちは、地主たると資本家たるとを問はず、すべての搾取者に向つて恐怖政治を適用し、彼等の革命をして大革命たらしめたのであつた。）

以上の如き論議を以てブルジョアジーに奉仕する不幸なマルクス主義者――社會革命黨も今や其列のなかに入つてゐる――は、帝國主義的獨占の何であるかを理解しない。（三行略）すべてのものが帝國主義について語つてゐる。しかし帝國主義は獨占的資本主義以外のものではない。

ロシアに於ても資本主義が獨占主義化してゐることは、石炭、金屬、砂糖等のシンデケートが生々した證據を提供してゐる。

この砂糖シンデケートが、更に獨占的資本主義が、國家的獨占資本主義に成長したことを明白

に示してゐる。

國家とは何であるか？　それは支配階級の組織である。例へばドイツに於ては地主及び資本家が支配階級である。この故に、ドイツのプレハノフ（即ちシャイデマン及びレンシュ）が『軍事的社會主義』と呼んでゐるものは、實際に於ては、國家的軍事的獨占資本主義に外ならない、もつと單純明瞭にいふならば、勞働者にとつての軍事監獄、資本家の利得にとつての軍事的保護に外ならない。（四行略）

最大の資本主義企業が獨占主義化された時、――それは全民衆のために役立つのである。

最大企業が獨占主義化された場合、國家（即ち先づ人民、勞働者、農民が革命的民主主義の條件に依つて武裝的團結をしてゐるもの）は此企業を果して何人の利益のために用ふるであらうか？若し地主及び資本家の利益のために用ひられるとせば、吾々は革命的民主的國家でなく、反動的官僚的國家を持つた譯になる。――しかし是れを革命的民主主義のために用ふるとせば、それは社會主義への一歩の前進を意味する。

何となれば、社會主義は國家的獨占資本主義の最も近い前進に外ならない。他の言葉を以て言

へば、社會主義は全國民の利益のためにする、そしてもはや資本主義的獨占でなくなつた所の、一の國家資本主義的獨占に外ならない。

こゝにはもはや中間の道がない。客觀的發展行程は社會主義に赴くことなくして、獨占から前進することのできないことを示してゐる。（戰爭は獨占の數、任務、意義を數十倍した。）

實際上、革命的民主主義者たらんと欲せば、毫も社會主義へ向つて進むことを怖れる必要がない。

然らざれば、社會主義へ進むことを怖れ、ペセホノフ、ダン、チェルノフ等にならつて、次の如くこれを非難するのである。彼等の言草は、吾々の革命はブルジョア革命である、何人も社會主義を實施することはできない、云々といふに在る。彼等はかくて不可避的にケレンスキー、ミリウコフ、コルニロフの方へ轉がり込み、勞働者農民大衆の『革命的民主的』努力を反動的官僚的に壓迫するのである。（一行略）

この點に、吾々の革命の根本的矛盾が存してゐる。何人も同じ場所に立ち止まつてゐることは出來ない。――歴史上に於て一般的にそうである。――特に戰時中に於て、それが不可能である。

前進するか、後退するか、何れかあるのみである。何人も二十世紀のロシア、革命的方法に依りて共和國と民主主義とを獲得したロシアに於て、社會主義へ一歩を進むることなしに、前へ進んでゆくことはできない。(この一歩は技術と文化との水準によりて決定せられてゐる。即ち大機械工業を農民の農業に『實施』することはできないが、しかし此工業を製糖工場から排除することはできない。)

前進の道を怖れるならば、即ち好んで後退するならば、これに依つて、ケレンスキー等の諸君はミリフコフやプレハノフを狂喜させ、チェレッテリ等の愚劣な參加を得て、徒らに時間を空費するのである。

戰爭は獨占資本主義の國家的獨占資本主義への轉化を異常に促進し、これに依りて人類を社會主義へ向つて異常に接近せしめた。これは實に歷史の辯證法である。

帝國主義戰爭は社會主義××の前夜である。(一行略)——社會主義が經濟的に成熟してゐない以上、いかなる一揆も社會主義を作り出し得るものでない。——それは、國家的獨占資本主義が社會主義の完全な物的準備であり、社會主義への入口であり、歷史の階梯に於てこの國家的獨占

資本主義と社會主義と呼ばれる階段との間には如何なる中間的階段も存在しないからである。

吾が社會革命黨及びメンセヴィキは社會主義の問題を獨斷論的に取扱つてゐる。即ち、空語記はしてゐるが、劣等な理解しかない獨斷論の立場から取扱つてゐる。彼等は、社會主義を以て、何か遠方にあるもの、未知のもの、暗い未來のもの、といふ風に表現してゐる。

しかし吾々は現代資本主義のあらゆる窓を通して社會主義を望見してゐる。社會主義はこの最近代資本主義の基礎に立ちて一歩前進した偉大な手段として、直接に、實際的に自己の姿を現はしてゐる。

一般的勞働强制とは何であるか?

それは最近代の資本主義の基礎に立ちて一歩前進した手段であり、一定の主要計畫に從つて全經濟生活を調節するための手段であり、國民の力を節約し、この力が資本家によりて無意味に浪費せられることを防ぐ手段である。

ドイツに於ては、地主及び資本家が一般的勞働强制を行つてゐる。しかし、それは勞働者にと

つて一の軍事監獄となつてゐる。

しかし此同じ制度をとつて、それが革命的民主的國家に於て如何なる意味を帶ぶるかを考へて見よ。勞働者、農民、兵卒代表ソヴィエットによりて實施され、調節され、指導せられる一般的勞働强制は、なほ未だ社會主義ではないが、しかも既にもはや資本主義ではない。これは社會主義へ向つての偉大な第一歩である。それは完全な民主主義の保存を前提し、しかも大衆に信ずべからざるほどの暴虐を加ふることなくして、もはや資本主義へ後戻りすることを不可能ならしめるのである。

一二　破滅及び戰爭に對する鬪爭

近づき來れる大破綻に對する鬪爭手段の問題は、吾々に向つて、他の極めて重要な一問題を明瞭することを强要するのである。それは外交政策と內治政策との關係に關する問題、換言すれば、侵掠的帝國主義戰爭と革命的プロレタリア的戰爭との關係、犯罪的盜賊的戰爭と正當な民主主義的戰爭との關係についての問題である。

吾々が大破綻との鬪爭方法として上述した全てのものは、既に注意した如く、國家の防禦能力、換言すれば防禦力を高むるものである。これが一つの方面である。他方に於て、侵掠戰爭を正當の戰爭へ轉化するにあらざれば、卽ち資本家が資本主義の利益のために行つてゐる戰爭から、プロレタリアートがあらゆる勞働民衆と被搾取者との利益に於て行ふ戰爭を作り出すにあらざれば何人も上述の手段を實際生活のなかに實現することはできない。

これは事實である。銀行とシンヂケートの國有化、商業の秘密の廢止、資本家に對する勞働者の統制、等は、單に人民の力の莫大な節約を意味するばかりでなく、また可能性、力、手段を結合するばかりでなく、それはまた勞働しつゝある人民大衆の狀態の改善を意味してゐる。何人も知つてゐる如く、現代の戰爭に於て、經濟團體は決定的な意氣を有してゐる。ロシアにはパン、石炭、石油、織が充分ある。――この點に於て、吾々の狀態は他の交戰國の狀態よりもより善いのである。沒落に對する鬪爭、上述の手段のための鬪爭、この鬪爭のためにする大衆の自發的活動の促進、大衆の狀態の改善、銀行及びシンヂケートの國有化の實施等について――ロシアはその革命とその民主主義とを利用しつゝ、國家を經濟的組織化の非常に高級の階段に高めてゆくこと

ができるのである。

若し社會革命黨とメンセヴィキとが、ブルジョアジーと聯合を結んで、あらゆる統制手段を妨害し、生産をサボターヂする代りに、去る四月に權力をソヴィエットへ移すことを實行し、大臣の椅子をねらふ遊戯、カデットと結んで大臣の地位を得ようとする官僚的な試みに彼等の力を集中することなく、資本家に對する勞働者及び農民の統制と資本家に對する共戰爭とを擁護したのであつたならば、――今日、ロシアは最も完全に經濟的改革を實行し、土地は農民の手に渡り、銀行は國有化され、ロシアはその限りに於て（而して此のことは現代生活の最も重要な經濟的基礎である）他のすべての資本主義國家よりもより高い位置を占めてゐたであらう。

國有化された銀行を有つ國家の防禦力、軍事力は、銀行が私人の手にある國家のそれよりもより高い。土地が農民委員會の手中にある農業國の防禦力は、大土地私有制の國の力よりもより高いのである。

人々は屢々一七九二年――九三年のフランス人の英雄的愛國心と驚異すべき軍事上の英雄的勇氣とを說いてゐる。しかし、人々は、この英雄的勇氣を可能ならしめた物質的、歷史・經濟的條件

を忘れてゐる。生き殘つた封建制度に對する眞に革命的な審判、眞に革命的民主的な、高級な生産を伴ふて全土を自由なる農民國家の手に委したること――これらのものは、『驚くべき』迅速さを以てフランスを救ふた所の、物質的經濟的條件であり、その精力、迅速、決斷、犧牲の由つて來るところであつた。かくして彼等は經濟的基礎を改變し更新したのである。（十一行略）

十八世紀末に於けるフランスの物質的經濟的改新は、政治的精神的改新、革命的民主主義と革命的プロレタリアートとの獨裁（民主主義者はプロレタリアートと離れて居らず、プロレタリアートも殆んど民主主義者と融合してゐた）、反動的なあらゆるものに向つて宣言した忌彈なき戰爭、等と結び付いてゐた。全民衆、特に大衆、卽ち被搾取階級は、限りのない革命的情熱に捕へられた。すべてのものは戰爭を正當と信じ、防禦戰爭であると信じてゐた。事實上、戰爭はかくの如き性質を帶びてゐた。革命的フランスは、反動的帝政的ヨーロッパと戰つて自己を防衛した。一七九二――九三年の間ではなく、よほど後になつて、反動がフランスに勝利を占めた後、ナポレオンの反動革命的獨裁がフランス側よりする戰爭を侵掠戰爭に變化させたのである。

而してロシアに於ては？　吾々は、帝國主義者と結んで、資本家の利益に於て、戰爭をやり續

けてゐる。ツァールがイギリス其他の資本家と締結した秘密條約に同意してゐる。これらの條約は、ツァールがロシアの資本家に向つて外國の掠奪、即ちコンスタンチノープル、レムベルヒ、アルメニア等の掠奪を約束したものに外ならぬ。

ロシアが正當な平和を提議せず、帝國主義と絶緣しない限りに於て、戰爭は依然として不正當であり、反動的であり、ロシアの側よりする攻擊的なものである。戰爭の社會的性質は、敵の軍隊は何所にあるかといふ事に依つて決定せられるものでない。(かく考へてゐる社會革命黨及びメンセヴイキはこれに依つて、蒙昧な農民の理性の原始狀態へ成り下つてゐるものである。)戰爭の社會的性質は、戰爭が如何なる政策を追求してゐるか(『戰爭は政策の擴大である』)、如何なる階級が如何なる目的のために戰爭を行ふてゐるか、といふ事に依つて決定せられる。

何人も、秘密條約を有つた侵掠戰爭に大衆を導き入れ、大衆から情熱を要求することができるものでない。革命的ロシアの最も先驅的な階級、即ちプロレタリアートは、益々明瞭に戰爭の犯罪的性質を痛感してゐる。ブルジョアジーは、其反對の大衆があると信ずることが出來なくなつてゐる。戰爭が一の犯罪だといふ認識が生長しつつある。ロシアの二つの主要都會のプロレタリア

ートは今や全然、インタナショナリストとなつた。

戰爭のために大衆が熱狂してゐる、となほ言ふべきであらうか?

一つのものは他のものと不可分に結びついてゐる。內國政策と外交政策とは不可分の關係に在る。大膽果斷に大規模な經濟的改變を企つる所の、民衆の最大の英雄的行動がなければ、國家をして眞に防禦能力あるものたらしめることはできない。

(五行略)戰爭が作り出した言ひつくし難き危機、戰爭が緊張せしめた民衆の物質的道德的力、戰爭が現代の社會組織に加へた打擊、かくの如きものは、今や人類をして、沒落か、若くは其運命を最も××的な階級に托して最も迅速最も急進的に、より高級の生產力に移つてゆく、何れかを選ましめてゐる。

無數の歷史的原因——ロシアの非常に遲れてゐる狀態、特別にひどい戰爭の困難、ツァーリズムの最大の腐敗、一九〇五年の傳統の至る所に强く生々としてゐる事情等——に依つて、ロシアに

於て、他の國々に先ち、革命が爆發した。この革命の作用によつて、ロシアは僅々數ケ月の間に政治的に先進國の仲間に入つたのである。

しかし、それでは餘りに少い。戰爭は依然として殘忍であり、忌彈なき鋭さを以て、沒落するか若くは先進國に經濟的にも追ひ付き是れを追越すか、といふ問題を提出してゐる。

このことは可能である。何となれば、吾々は先進國の無數の完成した經驗、その技術と文化との産物を利用することができるからである。吾々の道德的基礎は、ヨーロッパに於て生長しつゝある戰爭反對の抗議、一般的に生長しつゝある勞働者××の空氣である。吾々を緊張せしめてゐるものは、稀れな例外と見なさるべき、帝國主義戰爭中の革命的民主的自由である。

沒落するか、若くはあらゆる力の緊張を以て前進するか。世界歷史は問題をかく法式化してゐる。

而してプロレタリアートの農民に對する關係は、今日の瞬間に於て、農民をブルジョアジーの感化より解放せよ、といふ古くからの、ボリセヴイキの方式を——事情に應じて變更を加へながら——裏書してゐる。革命を救ふ擔保はたゞ此點のみに存してゐる。

しかし農民は全ての小ブルジョア大衆の最も數の多い代表者である。

わが社會革命黨及びメンセヴイキは反革命的役割を演じた。卽ち彼等は農民をブルジョアジーの感化の下に留め、農民をブルジョアジーとの聯合に導き、プロレタリアートとの聯合に導かなかつた。

革命の經驗は大衆を迅速に成熟せしめたのである。而して反動的な社會革命黨及びメンセヴイキの反動的政策は敗北を被つてゐる。彼等は兩大都市のソヴィエットに於て打擊を受けた。『左翼』的反對派がこの二つの小ブルジョア黨の內部に生じてゐる。一九一七年九月十日にペテルスブルグで開かれた社會革命黨の都市會議に於て、三分の二の多數は、左翼社會革命黨——プロレタリアートとの聯合に傾き、ブルジョアジーとの聯合を破棄しようとする所の——を支持したのである。

社會革命黨とメンセヴイキ黨は、ブルジョアジーが愛用してゐる『ブルジョアジーと民主主義』といふ對照語を繰り返してゐる。しかし此對照語は、根本的に於て、斤と尺との比較のように、極めて無意味のものである。

民主主義的ブルジョアジーなるものは有る。ブルジョア的民主主義なるものは有る。歷史と國民

經濟とに完全に無智である者ばかりが是れを否定することができる。

社會革命黨とメンセヴイキとは、ブルジョアジーとプロレタリアートとの中間に小ブルジョアジーがある、といふ爭ふべからざる事實を隱蔽するために、この不眞理なる對照語を用ふるのである。小ブルジョアジーは、その經濟的階級狀態の結果として、ブルジョアジー及びプロレタリアートの中間を不可避的に彷徨するのである。

社會革命黨とメンセヴイキとは、小ブルジョアジーをブルジョアジーとの聯合の方へ引張つて行つたのである。彼等の全ての『聯合』政策、彼等の全ての聯合內閣、典型的な半カデットたるケレンスキーの全政策、等の核心はこの點に存してゐる。革命の半年後にして、この政策は完全な敗北を受けたのである。

カデットの意地惡い喜びは大である。彼等は、革命は失敗した、革命は戰爭をも沒落をも救ひ得ないだらう、と說いてゐる。

これは一つの嘘である。カデットと社會革命黨とこそ、メンセヴイキと共に敗北したのである。何となれば、この聯盟(ブロック)は、半年の間、ロシアを支配したが、しかも此半年間に沒落を强め、軍事

狀態を混亂させ、困難にしたからである。

ブルジョアジー、社會革命黨、メンセヴイキの聯合の失敗が絕對であれば絕對であるほど、民衆は愈々速かに學ぶであらう。民衆が正しい出口を發見することが速かなれば速かなるほど、貧農とプロレタリアートとの結合は愈々速かとなつてくるのである。

（第十五篇）

ボリセヴィキは權力を維持するであらうか

（一九一七年十月一日）

一

ボリセヴィキを除いて、『リエッチ』から『ノヴァヤ・ジズン』にいたり、カデットのコルニロフ一派から半ボリセヴィキにいたる、一切の流派は、どの點で一致してゐるか？

それは、ボリセヴィキが獨力で全國家權力を奪取しようとは決心しないであらうし、またそれを決心し且つ國家權力を掌握するようなことがあつても、極く短時間の間でもそれを持續し得ることはあるまい、といふ確信に於てである。

ボリセヴィキによる全國家權力掌握の問題は全然現實的の政治問題ではなくて、ある『狂信者』の笑ふべき愚昧のみがそれを現實的な問題と考へ得る、といふ意見を持つてゐる者に對しては、吾々は先づ、最も責任あり、そして最も有力な、雜多の『色合』をとつた政黨及び流派の宣言をさし示すであらう。

しかし先づ、最初に示された問題、即ちボリセヴィキは獨力で全國家權力を掌握しようと決心するであらうか、といふことについて、一三述べよう。すでに私は全露ソヴィエット大會（一九一七

年六月)で、――もつとも大臣ツェレッテリの演說のあひだに私が發した叫びのうちに於てゞあるが――この問題について決定的に然りと答へた。また私は、吾々だけで權力を掌握することは出來ないであらうといふ聲明を、ボリセヴィキが新聞で發表したのもまた口で喋舌つたのも見たことも ない。そして更に私は次のような立場に立つてゐるものである。卽ち政黨、特に最も進步せる階級の政黨にして、權力を獲得すべき機會を利用せずにとりにがすようなことでは、何等存在の資格を持たず、政黨と見られる價値もなく、さらに政治的零になり終せるであらうといふこと、これである。

さて吾々は當面の問題に對する、カデット、社會革命黨及び半ボリセヴィキ(私は寧ろ四分の一ボリセヴィキと言ひたい)の陳述を引用しよう。

九月十六日の『リエッチ』の社說は次のように書いてゐる。

『……アレキサンドラ劇場の廣間には、無秩序と混亂が支配してゐる。社會主義新聞はその光景を反映してゐる。決斷と直截とをもつて秀でてゐるのはただボリセヴィキの立場だけである。そしてそれは會議に於ては少數派の立場であるが、ソヴィエットでは次第にその勢力を增しつゝ

ある流派である。然し彼等の一切の演說口調の熱情、大袈裟な辭句、誇大された自信にもかゝはらず、ボリセヴィキは二三極く少數の狂信者を除いて、單なる法螺吹きである。「全權力」を掌握するといふことは、彼等といへども自發的に試みるようなことはよもやあるまい。人並外れた攪亂者たり破壞者たる彼等は、本質に於て卑怯者であつて、その精神の深底では、自分自身の無智は勿論のこと、彼等の現在の成功が不確實なものであることも充分に心得てゐるのである。「吾々一同のように」彼等もまた、彼等の終局の第一日が、とりもなほさず急激な沒落の第一日であるにちがひないことを充分理解してゐる。その性質に於ては責任感がなく、その方法と戰術に於ては無政府主義者であり、彼等は單に政治思想の一方向として、より良く言ふならば政治思想の一つの迷ひとして考へられるものである。永きにわたつてボリセヴィズムから解放され、ボリセヴィズムを無能力になす最上の手段は、國土の運命をボリセヴィキの指導者の掌中におくことかもしれない。そして彼等がさうした種類の無茶な實驗は許しがたきものであり且つ腐敗したものであるといふ意識を持たないときには、絕望のあまりさうした冒險を決心しないとも限らない。繰り返して言ふが幸なことには、此等の悲しむべき當代の英雄達は、實際に

全國家權力を獲得すべく努力しない。彼等は如何なる事情のもとでも、創造的事業をなす能力はない。故に彼等の一切の果敢と決斷とは政治的舞臺の範圍に限られ、精々集會の美辭麗句に限られてゐる。實際的には彼等の態度に何等の意義もない。勿論、或る點に於ては、彼等といへども、若干の現實的作用をなす。卽ち彼等は、彼等以外の一切の社會主義思想の流派を、彼等の綱領の否定に一致せしめる。』……

カデットはかく考へてゐる。次に掲げるのは、ロシアの最大の、『支配的』政黨、卽ち『社會革命黨』が九月二十一日附を以て彼等の機關紙『デェロ・ナローダ』に、前論文の如く署名のない、卽ち編輯者の社說として發表したところの立場である。

『……若しブルジョアジーが、憲法議會にいたるまで、會議に於て採用された綱領に基いて、民主主義と共働することを欲しないならば、會議に參加せる諸黨派の內部に於いて一つの聯立が形成されねばならぬ。それは聯立主張者の側に於ける大なる犧牲ではあるけれども、これはまた『單獨』政府說の宣傳者も贊成しなければならぬ。然しこの點に於ても一致が得られるかどうか、頗る疑問である。そこで尙ほ殘るのは、第三の、そして最後の組み合せあるのみである。

卽ち、權力は、原則上常に權力の統一說を主張し來つたところの會議中の部分によつて壓られなければならぬ。吾々は明瞭に言ふ、ボリセヴィキが內閣を組織しなければなるまいと。彼等は「妥協政策」の排除によつてすべてを救濟すべきことを約束し且つ國土のすべての窮乏を聯立政策の結果として宣言しつゝ、革命的民主主義に最大のエネルギーを以て聯立に對する憎惡を注ぎこみ來つたのである。

若し彼等が眞に彼等の煽動について總勘定するなら、若し彼等にして大衆を欺かないのであるなら、彼等は義務として、右と左に發行した爲替手形を支拂はねばならぬ。問題は極めて明瞭である。今やボリセヴィキは權力獲得の不可能性に關する、俄造りの理論の背後に隱れようなどといふ徒らな努力をなすことを許されない。民主黨はかくの如き理論を受入れないであらう。同時に聯立の支持者は、彼等に完全な支持を保證しなければならぬ。これが吾々の當面する三つの組み合せであり、三つの可能性であつて、此の他には何物もない。』（圈點は『デェロ・ナローダ』に所載のとほり。）

以上の如く社會革命黨は考へてゐる。そして今や最後に擧げなければならぬのは、『ノヴァヤ・ジ

ズン』の『四分の一ボリセヴィキ』の『立場』（若し吾々が二つの椅子の間に坐らうとする試みを『立場』と呼び得るならば）である。吾々はそれを九月二十三日の『ノヴァヤ・ジズン』の編輯者の社説から引用する。

『若しマノヴァロフとキシュキンとの聯立が再び結ばれるならば、それは民主主義の新しい屈服と、八月十四日の綱領に基く責任ある權力に就いての會議の決議の廢棄以外の何物でもない。……メンセヴィキと社會革命黨との統一聯合内閣員は、恰も聯立内閣の社會主義大臣がその責任を意識しなかつたと同じく、大してその責任を意識しないであらう。……かういふ政府は單に革命の「生きた力」を集め得ないのみならず、またプロレタア前衛の積極的支持すらも何等期待することが出來ないであらう。

それにも拘らず、別の體型の統一内閣、「プロレタリアートと農民の」政府が形成されようものなら、それは現狀からのより惡しき出路であり、實際全く出路ではなくして、單に大破綻であるであらう。かゝる標語はまた、はじめには偶然臆病に、そして後には系統的に「整頓された」「ラボーチ・ブチ」*の記事以外には、何人も之を提案しないだらう。……』（この途方もない虚

説は、九月二十一日の『デェロ・ナローダ』の社説を自ら忘れたところの、責任ある記者によつて『勇敢にも』書かれてゐるのである。【レーニン】

*『ブラウダ』がケレンスキーに壓迫された當時の、ボリセヴィキ黨の中央機關紙。（譯者）

『ボリセヴィキは現在、形式的に「全權力をソヴィエットへ」といふ標語を復活せしめた。此の標語は七月事件の後、ソヴィエットがその中央執行委員會をとほして、積極的な反ボリセヴィキ的政策を斷行したときに發せられた。今や然しながら「ソヴィエットの方向」が整頓されたと考へ得るのみならず、また提案されたソヴィエット大會がボリセヴィキの大多數を生むであらうと考へられる充分な理由がある。かゝる狀態の下に於て、ボリセヴィキによつて再び採用された「全權力をソヴィエットへ」の叫び聲は、プロレタリアート及び「貧農」の獨裁へ直進する「戰術的一歩」である。なるほどソヴィエットといふ言葉は、農民代表者ソヴィエットの意味にも解される。かくてボリセヴィキの標語は、ロシアの全民主主義の壓倒的大多數の上に立つ政府を豫想するものである。然しながら此の場合「全權力をソヴィエットへ」の標語は、その獨自の意味を奪はれてゐる。といふのは、ソヴィエットは、かくしてその構成に於て、會議によつてつくられた準催議會

と殆ど同一であるからである！……』

（『ノヴァヤ・ジズン』の此の最後の主張は、最も厚顏無恥な虛僞であり、民主主義の僞造と贋造とが、民主主義の意味と『殆ど』同一であると宣言するのと同じである。準備議會は、民衆の少數者の意志を、卽ち特にクスコワ、ベルケンハイム、チャイコフスキー一派の意志を、あたかも民衆の大多數の意志であるように云ひなすところの贋造である。これが第一である。第二に、アヴクセンチェフ及びチャイコフスキーによつて贋造された農民ソヴィエットすらも、會議に於て聯立反對者の非常に大きな割合を示し、此の農民ソヴィエットは勞働者及び兵卒代表ソヴィエットと共に、無條件に此の聯立の瓦解をもたらすかも知れないほどである。そして第三には、『全權力をソヴィエットへ』といふことは、農民ソヴィエットの權力が主として農村に廣まり、それによつて農村に於て貧農の支配が保證されてゐるように見えるといふことを意味する。【レーニン】）

『もしも此のことが同一であるとしたら、ボリセヴィキの標語は猶豫なく日程から除去されねばならぬ。然しながらもし「全權力をソヴィエットへ」の標語が、プロレタリアートの獨裁を隱

蔽するにすぎないとしたならば、かゝる權力は單に革命の破滅と崩壞を意味するにすぎない。

ところで國內の他の階級からのみならず、また民主主義の現實に生きてゐる力からも孤立してゐるところのプロレタリアートは、技術的に國家機關を獲得し、それを現在の頗る複雜な狀態に於て運轉することが出來ず、更にまた政治的にも、プロレタリアートの獨裁のみならず、また全革命をも一掃し去る敵對勢力の凡ての壓迫に抵抗することが出來ないなどゝいふことを立證する必要があらうか？

當面の諸要求に相應する唯一の解決法は、民主主義の內部に於ける聯立、卽ち現實には部分的にすぎないところの聯立である。』

吾々は讀者に對して此の長々しい引用をおわびするものであるが、それは絕對に必要であつた。それはボリセヴィキに反對する諸黨派の地位を詳細に說明するために必要であつた。それはまたボリセヴィキのみによる完全なる政權の把握が單に、實際的問題たるのみならず、また現實當面の問題であるといふことを、これらの諸黨派が認めたといふ極めて重大な事實を詳細に示すために必要であつた。

二

さて吾々は、カデットから『ノヴァヤ・ジズン』の先生達に至るまでの『すべて』が、依つて以てボリセヴィキは權力を維持しえないであらうと云ふ事を信じてゐるところの、議論を吟味しよう。

勇敢な『リエッチ』は絶對に何等の議論をも提出してゐない。彼等はたゞボリセヴィキに對して最も選き拔きの、そして最も激怒せる罵詈を浴びせかけるだけである。こゝに吾々が引用した引用文は、就中、『リエッチ』がボリセヴィキを政權獲得に『煽動』して居ると信ずること、從つて、『注意せよ、同志よ、敵が忠告することは、確かに惡いことに相違ないから！』と叫ぶことが、如何に間違つてゐるかを示してゐる。若し吾々が、一般的並に具體性質の眞實の評價をしないで、ブルジョアジーが吾々を權力獲得に『煽動』してゐるといふことを『確信』させられるならば、吾々はブルジョアジーによつて馬鹿にされてゐるのである。といふのは、假令ブルジョアジーが確かに常にボリセヴィキによる權力獲得の結果としての數多の害惡を以て惡意を豫言しようとも、假令彼等が常に『吾々がボリセヴィキに權力を與へ然る後頭を毆りつけるなら、ボリセヴィキを一度に又

永久に失脚させるために最も良いだらう』と、惡意を以て叫ぶとしても、かういふ叫びは、若し諸君がさう言はんと欲するなら、反對の意味に於いてのみ、『煽動』となるであらう。カデットとブルジョアジーとは、權力を獲得すべく決して吾々を「忠告」するものではないし、又決して『忠告』しなかつた。彼等はたゞ一見解決し難い權力問題を以て吾を脅かさうと試みてゐるのである。

否！　吾々は恐怖せるブルジョアジーの叫びによつて脅かされてはならぬ。吾々は未だ曾て吾々の前に、『解決し難き』社會問題を提出した事はないといふことを、記憶せねばならぬ。

『リエーチ』の惡意ある罵詈讒謗に對して人々は次の如く言はねばならぬ。

『吾々は同意の聲を耳にする、
　充ち溢るゝ賞讃のうちにではなくて
　荒々しい憤怒の叫びのうちに！』

ブルジョアジーが吾々をしかくひどく憎むのは、吾人が民衆にブルジョアジーを顚覆する正しい道と手段とを示してゐるといふ最も明白な證據である。

『ヂェロ・ナローダ』は此度に限り珍らしくも、侮辱を以て吾々を尊敬することを是なりと考へな

かつたが、しかしその代りにまた何等の議論をも持ち出さなかつた。それはたゞ間接の方法で、暗示的に次の様な暗示によつて吾々を脅かさうと試みてゐるだけである。『ボリセヴイキは内閣を組織せざるを得ないであらう。』私は充分次のことを認める、即ち、吾々を脅かさうと欲した社會革命黨は自ら徹底的に脅かされた、即ち、恐怖させられた自由主義者の亡靈によつて死なんばかりに恐怖せしめられてゐる。と同時に私は次のことを認める。即ち、社會革命黨にとつては、中央執行委員會の如き特別に高級の又特別に腐敗した機關の中で、又之に類した『連絡』委員會(それはカデットと接觸せんと試み、又野合せんと試みてゐると簡單に稱せられてゐる)に於て一二のボリセヴイキを脅かすことは成功するであらう。といふのは、第一に、すべてのこれらの中央委員會及び「準備議會」等々に於ける雰圍氣は不愉快で息詰る様であり、且つこの雰圍氣の中で暫くでも呼吸することは、すべての人にとり有害であり、第二に、正直さは感染し易く、そして正直に脅かされた俗物共は孤立した革命家を一時俗物にすることすらも出來るからである。

然し、カデットの前に大臣席に就かねばならぬ不幸を持つた、社會革命黨のこの正直な恐怖が、如何に『人間的』立場から理解され得るとしても、自ら脅かされるといふことは、あまりに容易

にプロレタリアートに對する裏切として證明され得るところの、政治的過失である。紳士諸君よ、これが諸君の巧妙な議論なのだ！　吾々が諸君自身の恐怖に脅かされるようなものだと期待する勿れ！

今度は「ノヴァヤ・ジズン」に於てのみこの點にふれた議論を見出すのである。今度はこの新聞はブルジョアジーの代辯人の役割を演じてゐるが、この役割は彼等が嘗てボリセヴイキの擁護者として執つた阿諛的態度よりも、彼等に似合はしいものである。

ブルジョアジーの擁護者は、六の議論を提出した。

一、プロレタリアートは『國内の他の階級から孤立してゐる。』

二、それは『民主主義の現實に生きてゐる力から孤立してゐる。』

三、それは『技術的に國家機關を獲得することができないであらう。』

四、それは『この機關を運用することができないであらう。』

五、『情勢は異常に錯雜してゐる。』

六、プロレタリアートは『プロレタリアートの獨裁のみならず、亦全革命をも一掃し去るよう

な敵對勢力の壓迫に抵抗することが出來ないであらう。』

第一の議論は『ノヴァヤ・ジズン』によつて滑稽なほど無器用に說明されてゐる。吾々は資本主義社會並びに半資本主義社會のうちに、たゞ次の三つの階級を知るのみである。卽ちブルジョアジー、小ブルジョア階級（その主要代表者としては農民階級）、及びプロレタリアート。プルジョアジーに對するプロレタリアートの鬪爭、ブルジョアジーに對する革命が問題となつてゐる場合に、プロレタリアートの他の階級からの孤立を語るのは一體如何なる意味であるか？

『ノヴァヤ・ジズン』は、おそらく、プロレタリアートが農民階級から孤立してゐるとでも言ひたかつたのであらう。といふのは、地主については、勿論こゝで何等議論の餘地があり得なかつたからである。然し『ノヴァヤ・ジズン』は、プロレタリアートが今や農民階級から孤立してゐると言つたそのことを、明確に、充分に語ることが出來なかつた。といふのは、かゝる主張が非常に正しくないことは、餘りに明らかであつたからである。如何なる資本主義國に於ても、またブルジョアジーに對する革命の段階に於ても、プロレタリアートが小ブルジョア階級から孤立せざることと現在のロシアに於けるが如きものを想像するのは困難であらう。之に對する爭ふべからざる證

據を提供するのは、こゝにある、ブリギン議會の階級制度に倣つて構成された、ツェレッテリの有名な『民主』會議によつて得られたところの、ブルジョアジーとの聯立に對する贊否の投票の結果である。吾々はソヴィエットの階級を觀察しよう。

	聯立贊成	聯立反對
勞働者及び兵卒代表ソヴィエット	八三	一九二
農民代表ソヴィエット	一〇二	七〇
合計	一八五	二六二

これによつて、多數が、『ブルジョアジーとの聯立に反對！』といふプロレタリア的標語に贊成であることが明らかである！　カデットさへもソヴィエットに於げるボリセヴイキの勢力の强大を、認むべく餘儀なくされたといふことは、すでに吾々の見たところである。この外に尙ほ、ソヴィエットに於ける昨日の指導者、中央機關に於て確實に多數を制する社會革命黨及びメンセヴィキが召集したところの、會議がある。こゝでソヴィエットに於けるボルセヴイキの事實上の優勢が、依然として餘りに小さく評價されてゐるといふことは明らである。

ボルセヴイキは、プルジョアジーとの聯立の問題に於ても、また地主の土地を直ちに農民委員會へ移すといふ要求に於ても、いまやすでに、勞働者、兵卒及び農民代表ソヴィエットに於ける多數をしめ、民衆の多數をしめ、小ブルジョア階級の多數をしめてゐる。九月廿四日の『ラボー・プチ』第十九號は、社會革命黨機關紙『スナムヤ・トゥルーダ』第廿五號から、九月十八日ペトログラードで開催された農民代表者地方ソヴィエット會議に關する報告を轉載してゐる。此の會議に於て、四つの農民ソヴィエット(コストロマ、モスコー、サマラ及びタウリアの諸縣)の執行委員會は無制限な聯立に贊成し、三つの縣(ウラデミール、リャザン及び黑海の諸縣)と二つの軍隊の執行委員會は、カデットを除外するといふ條件づきの聯立に贊成した。然し聯立反對者は二十三縣の執行委員會と四つの軍隊とであつた。

かくて大多數の農民も聯立に反對である！

『プロレタリアートの孤立』はこんなものなのだ。

更に注目すべきは、聯立贊成を聲明した農業地の三縣、サマラ、タウリア、黑海には、比較的非常に多數の富農及び賃銀勞働者を傭つた大地主が居り、また同樣に、工業地なる四縣（ウラヂ

ミール、リャザン、コストロマ及びモスコー)では、農村ブルジョアジーが、ロシアの他の大部分の縣に於けるよりも優勢であることだ。『富有な』農民の優勢な縣に於ける、より貧しい農民階級の態度について一つの繪畫を得んがために、此の問題に關するより正確な事實を集めるのは興味あることであらう。

更に興味あるのは『民族團』のうちに於ても聯立反對者は、十五票に對する四十票といふ壓倒的多數をしめてゐたことである。ロシアの壓迫された諸民族に對するボナパルト主義者ケレンスキーの、併合主義的な慘酷な暴力政策は、彼等に恐怖をもたらした。この壓迫された諸民族の多くの大衆、卽ち彼等のあひだに於ける小ブルジョア大衆は、ブルジョアジーよりもロシアのプロレタリアートを信賴してゐる。といふのは此處に於ては歷史は、被壓迫民族の壓迫者に對する解放戰を當面の問題たらしめたからである。ブルジョアジーは被壓迫民族の自由の問題を厚顏にも裏切り、そしてプロレタリアートのみが自由の問題について忠實である。

民族問題と農業問題とは現在、ロシアの小ブルジョア大衆の最も緊急な問題である。それは爭ふ餘地のないことである。そしてその二つの問題に於てプロレタリアートは、奇妙にも「孤立して

はゐない。」プロレタリアートは背後に民衆の多數を持つてゐる。プロレタリアートのみが此の二つの問題に於て、それによつてプロレタリアの××××のために、直に人口の大多數の支持を得る。(一行略)といふのは、その時初めて大衆は、政府に於て、曾てツァーリズムの時代にあつたような、地主による農民の、大ロシア人によるウクライナ人の飽くなき壓迫を經驗しないであらうから。そこには共和國に於てツァーリズムの政策を持續せんとする、華美な言葉に覆はれた努力がなく、惡意もなく、不正もなく、陰謀や奸計もなく、詐術も詭計もなくて(それらは全部、ケレンスキーが農民及び被壓迫民族を取扱はんとした方法である)、行動によつて證明された熱烈な同情や、地主に對する即刻にして革命的なる方策や、フィンランド、ウクライナ、白ロシア、マホメット教徒の完全な自由の即時の回復等々があるであらう。

社會革命黨とメンセヴイキとの諸君は、以上のやうなことを全部充分に知りぬいて居り、そしてそれ故に、協力者の半カデット的指導者を、大衆に對する彼等の反動的民主的政策のための道具として使用せんと試みてゐるのである。それ故に彼等は、實際政策の一定の問題に就いて、例へば、すべての地主の土地を直ちに農民に引渡すべきか否か、フィンランド人又はウクライナ人のあれや

これやの要求を滿足さすべきか否か、等々に就いて、大衆と協議し、一般投票又はすべての地方ソヴィエットに於ける、すべての地方團體に於ける單なる投票すらも採用することを、決して決定しないであらう。

さてそれでは平和問題、この現在の全生活の最も主要な問題についてはどうであらうか? プロレタリアートは『他の諸階級から孤立してゐる。』……プロレタリアートは、眞に一切の民族の代表者として、一切の階級に於ける創造的にして正しき有らゆるものゝ代表者として、また小ブルジョア階級の壓倒的多數の代表者として現はれてゐる。(四行略)

然り! プロレタリアートの孤立を叫んでゐる「ノヴァヤ・ジズン」の先生達は、それによつてブルジョアジーからうけてゐる先生達御自身の恐怖を表現してゐるにすぎないのである。ロシアに於ける客觀的情勢は疑ひもなく、今こそプロレタリアートは大多數の小ブルジョア階級から「孤立」してゐないことにある。『聯立』の悲しむべき體驗を經たのちの現在に於てこそ、プロレタリアートは大多數の民衆の同情を得てゐる。ボリセヴイキによる權力の維持のための、かゝる重要なる條件は、かくして明らかに存在してゐるのである。

三

「ノヴァヤ・ジズン」の第二の議論は、『プロレタリアートは民主主義の現實に生きてゐる力から孤立してゐる』といふことである。その意味してゐるところは、全く不可解である。それは多分『ギリシャ語』であらう、丁度さうした場合にフランス人が喋舌る習慣になつてゐるところの。

「ノヴァヤ・ジズン」の執筆者は、おべつか者である。彼等はカデットの大臣に完全に適するであらう。といふのは、そんな大臣達にこそ、絶對に何の意義もなく、そしてそれによつて有らゆる醜惡さがかくされ得れし、またそれがために帝國主義者と帝國主義的社會主義者から賞讃されてゐるところの、氣持よく美しく取りそろへられた辭句を案出する術を期待してよいのだから、『プロレタリアートは民主主義の現實に生きてゐる力から孤立してゐる』と主張する「ノヴァヤ・ジズン」の先生達にむかつて、カデットや、ブレシュコフスカヤや、プレハノフ一派が悦んで贊成するのはたしかである。といふのは、こゝでは間接的に、カデットや、プレハノフや、ケレンスキー及びその一派が、『民主主義の生きた力』であるかの如く宣言されてゐる——實際彼等の主張は、さう

理解されるであらう——からである。

それは間違つてゐる。それは死んだ力である。このことは聯立の歴史が證明した。

ブルジョアジー及びブルジョア知識階級に恐れをなしてゐる『ノヴァヤ・ジズン』の先生達は、本質的には『ウォリヤナローダ』や、『エデンストウォ』等の種類のカデットと何等異るところのない、社會革命黨及びメンセヴイキの右翼を『生きた』ものと見てゐるのである。然し吾々は、搾取者たる大農とではなく大衆と結ばれてゐるものをのみ、また聯立の教訓によつて大農の反對者となつた人々をのみ、生きたものと考へてゐる。小ブルジョア民主主義の『現實の生きた力』は、社會革命黨及びメンセヴイキの左翼によつて代表されてゐる。この左翼が、ことに七月反革命以後強大になつたことは、プロレタリアートが孤立してゐないといふ、最も確實な客觀的徴候の一つである。

その事實をより明瞭に示すものは、九月二十四日にチェルノフが、彼の團體はキシュキン一派との新しい聯立を支持することが出來ないと宣告したことによつて、證明されるところの、最近に於ける社會革命黨の中央派の人々の左への動搖である。これまで社會革命黨——都市及び特に農

村に於て獲得した投票數の結果、支配的地位を占めてゐる政黨である――の壓倒的多數をしめてゐた社會革命黨中央派の、左翼化の傾向は、確かに次のことを證明するものである。卽ち、吾々が上に引用した『デェロ・ナローダ』の、或る情勢の下では純ボリセヴイキの政府へ『完全な支持をあたへること』が、民主主義のために餘儀ない必要であらうといふ言明が、單なる言葉ではないといふこと、これである。

社會革命黨の中央派がキシュキンとの聯立の支持を拒絶したといふこと、または祖國擁護の地盤に立てる地方(カウカサスのショルダニア等)のメンセヴイキの間に、聯立反對者が優勢になつたといふことは、これまでメンセヴイキ及び社會革命黨に服從してゐた一部の大衆が、純ボルセヴイキ政府を支持するであらうといふ客觀的證據である。

今やロシアのプロレタリアートは、正しく民主主義の生きた力から孤立してはゐない。

(以下三八頁削除)

七

第五の議論は、『情勢が異常に錯雜してゐるから』ボリセヴイキは權力を維持しないであらうといふにある。

おゝ、何といふ賢明さであらう！　彼等は多分革命と和解する準備があるのであらう――たゞこの『異常に錯亂した情勢』さへなかつたなら。

然しこういふ革命は存在しないし、又かういふ革命に對する僞りの『憧憬』は、ブルジョア智識階級の反動的嘆息以外の何ものでもない。一つの革命が、外見上あまり錯雜しない情勢のうちにはじまつた時でさへも、革命それ自身はその發展中に常にこの異常に錯雜した情勢をつくり出すものである。といふのは、マルクスの語を借りて云ふなら、眞實の、深刻な、『民衆』××は、舊社會秩序の死滅と新社會秩序の、數十萬の人間の新生活樣式の誕生との信じ難いくらゐに錯雜し且つ苦痛に充ちた過程であるからである。(五行略)

若し異常に錯雜した情勢がなかつたならば、革命もまた起らなかつたであらう。狼を恐るゝ者

は、森に入るべからず。

此の第五の議論には、何等分析し得べきものがないであらう。といふのは、そこには經濟的思想も、政治的思想も、又は一般に何等かの思想もないからである。そこにはたゞ、革命によつて苦悶と恐怖とに陷つた人間の嘆息があるのみである。私はこの嘆息の特色を示すために、たゞ二つの小さな個人的な思ひ出を持つて來よう。

一つは、七月事件の直ぐ前に富裕な技師と交した談話に關してゐるものである。この技師は嘗ては革命家であり、社會民主黨であり、またボリセヴイキ黨員でさへあつた。今や彼は狂暴にして制御出來ない勞働者に仰天し、苦悶せる一個の人間にすぎぬ。「もし彼等が、少くともドイツの勞働者のような勞働者であつたなら！」と彼は言つた（彼はよく外國を知つてゐる教育された人間である。）『勿論私は、一般に、社會革命の不可避性を理解してゐるが、然し、吾國に於て、戰爭がもたらしたところの、勞働者の低い文化的水準に於ては……それは革命ではなくて、一つの破滅である。』（以下一頁削除）

次に第二の思ひ出。私は七月事件ののち、ケレンスキー政府から當時非常な要心深い注意を受けてゐたゝめ、違法的に生活しなければならなかつた。勿論吾々は勞働者によつてかくまはれてゐた。ペテログラードの片隅の勞働者町の狹いプロレタリアの部屋で、吾々は中食を食べてゐる。主婦がパンをはこんで來る。主人は言ふ、『一寸有名なパンを見たまへ。「彼等」は今日ではもう惡いパンを賣らうとは敢てしない。吾々がペトログラードでもまた上等のパンを得られようとは、殆ど思ひがけなかつた。』

私は此の階級的立場から出發した、七月事件の評價に驚かされた。私の思想は、事件の政治的意義に就いて動き、事件の一般的進行中に於けるその役割を考察し、此の歷史のジッグザックの道が如何なる情勢に源を發し、また如何なる道を作るのであらうか、それを變化した情勢に順應させんがためには、吾々は吾々の標語と黨機關とを如何に變更しなければならないかを研究した。私はかつてパンの窮之を經驗しない人間であつたので、その時全くパンのことを考へなかつた。

私は著作によつてパンを得てゐたので、パンは何時もどうにかかうにかして自らあたへられてゐた。根本的に考へれば、階級闘爭はパンのために行はれ、政治的分析によつて初めて吾々は、異常に錯雜した、そして縺れあつた途に達するのである。

然し被壓迫階級の代表者は――たとへよりよき給料を得また非常に教育ある勞働者であつても、感嘆に値する單純性と率直性をもつて、また吾々知識分子が夢にも知らないやうな、驚くほど明晰な考へをもつて、臆せず困難に當るのである。彼にとつて事態は全く明かである。全世界は二つの陣營、即ち『吾々』勤勞者と『彼等』搾取者とに分れてゐる。（以下半頁削除）

八

第六のそして最後の議論は次の如くである。『プロレタリアートは、プロレタリアートの獨裁のみならず、また全革命をも一掃し去るやうな敵對勢力の全壓迫に抵抗することは出來ないであらう。』

紳士諸君、吾々を威嚇しない方がいゝ、諸君が吾々を威嚇することは出來ないだらう。此の敵對勢力、此の壓迫は、吾々がすでにコルニロフ時代に見たところである（ケレンスキー支配もそれとは一寸もちがはないのだ）プロレタリアートと貧農とが如何に大膽にコルニロフ一派を一掃したか、ブルジョアジーの追從者と、非常に良い地位に居り革命に對しては非常に『敵意を持つた』小地主層の若干の代表者とが、如何に哀れな且つ困窮した狀態に陷つてゐるか、かゝる事實はすべての人々が見たところであり、民衆が忘れなかつたところである。九月三十日の『デェロ・ナロードダ』は勞働者に向つて、ケレンスキー支配（即ちコルニロフ支配）及び贋造されたツェレテリの

ブリギン・デューマを憲法議會まで『維持する』ように述べ(一揆を起しつゝある農民からそれを保護するためには、憲法議會の召集と同時に、『軍事的方策』が講ぜられる)、そして此の目的のために『デェロ・ナローダ』は『ノヴァヤ・ジズン』の第六の議論を、絶えず繰りかへし且つそれを越えて、おまけに熱狂しながら『ケレンスキーの政府は如何なる場合にも降參しないであらう』と叫んでゐる。(ケレンスキーの政府はソヴィエト權力に、勞働者及び農民の權力に、卽ち『デェロ・ナローダ』が、ポグロムの英雄及び反ユダヤ人、王黨及びカデットにひけを取らないために、『トロツキー及びレーニンの權力』と呼んでゐる――かういふ手段を社會革命黨は取るのだ!! ――ところの權力に、降參しないであらう。)

然し『ノヴァヤ・ジズン』も『デェロ・ナローダ』も、階級意識ある勞働者を威嚇することは出來ないであらう。『ケレンスキー政府は』――と諸君は言ふ、――『如何なる場合にも降參しないであらう』。そのことはより明瞭に、より簡單に、より赤裸々に言へば、その政府はコルニロフ支配を繰返へすであらうといふことである。そして『デェロ・ナローダ』の先生達は『市民戰爭』を意味する『恐るべき展望』が現はれるであらうといふことを、敢て主張するのである。

否、紳士諸君、諸君は勞働者を欺くことは出來ないだらう! それは市民戰爭ではなくして、コルニロフ一派の極く少數の人々の全くはかない暴動であらう。それとも政府は、あらゆる代價を拂つてヴィボルグに於てコルニロフ一派に對して起つたことの繰返しを煽動せんがために、民衆に『降參すまい』と欲するであらうか? 若し社會革命黨員がそれを欲し、若し社會革命黨員ケレンスキーがそれを欲しても――彼は民衆を狂暴になし得るのみであらう。然しそれによつて、紳士諸君は勞働者と兵卒とを威嚇し得ないであらう。

なんと驚きいつた厚顏であらう。彼等は新しいブリギン・デューマを贋造し、詭計によつて彼等は一群の反動的な協同者及び大農を集め、それに資本家と大地主(所謂有產者分子)をつけ加へ、そして此のコルニロフ一派の結合をもつて民衆の意志、勞働者及び農民の意表を打破しようと思つてゐる。

彼等はこの農民國に於て、農民一揆の波を全土に漲らせるにいたつた。八〇%の農民人口を有する民主共和國に於て、彼等がこれを農民一揆に至らしめたといふことを、一寸でも考へて見よ。……九月三十日には勞働者と農民に向つて厚かましくも『辛抱する』ようにと忠告せねばな

ちぬ、この『デェロ・ナローダ』、このチェルノフの新聞、『社會革命黨』の機關紙は、九月二十九日の社説に於て、次の如く白狀することを餘儀なくされたことを見た。

『主として中部ロシアの農村に於けて尙ほ支配してゐる、農奴制を廢絶するために、今日までに殆ど何事もなされなかつた。』

同じ『デェロ・ナローダ』は九月二十九日の同じ社説に於て、『革命的大臣』の行動には『ストリピンの方法』が『尙ほ明瞭に認められる』と言つてゐる。この言葉は、それをより明瞭に且つ簡單に言ふならば、この新聞がケレンスキー、ニキチン、キシュキン及びその一派をストリピン主義者と稱してゐる、といふことを意味するものである。

『ストリピン主義者』ケレンスキーとその一派は嘗ては農民を一揆に至らしめたが、今や農民に對して『軍事的方策』をとり、憲法議會の召集をもつて民衆を慰めてゐる（とはいへ、ケレンスキーとツェレテリは既に一度民衆を欺いてゐる。即ち、彼等は七月八日、憲法議會は屹度九月十七日に召集されるであらうと堂々と宣言しておきながら 後になつてその言葉を破棄し、メンセヴィキのダンの提案にも拘らず憲法議會を延期し、そしてそれを當時のメンセヴィキの中央執行委員會が

要求した十月末日にではなくて、更に十一月末日に延期したのである）。ストリピン主義者ケレンスキー及びその一派は、近く憲法議會を召集すると言つて民衆を慰めてゐる。あたかも、民衆が同樣の場合に於て既に一度自分達を欺いた者を信じ、また遠隔な農村に於て、軍事的方策に訴へ、以て啓蒙された農民の思ふがまゝの逮捕、選擧の贋造を覆ひかくさうと欲するところの政府による、現實の憲法議會の召集を信ずるかの如くに。

農民を驅つて暴動に至らしめると同時に、厚顏にも農民にむかつて吾々は『辛抱』せねばならぬ、吾々は待たねばならぬ、又『軍事的方策』によつて一揆農民を鎭壓する政府を信賴せねばならぬ、と言ふとは、何といふ鐵面皮だらう！

甚だしく事態を驅つて、六月十九日以後の攻勢に於て、數萬のロシアの兵卒を死たせたこと、戰爭を長びかせたこと、上官達を海中に投げこんだドイツの水兵の一揆の道具になつたこと、更にまた甚だしく事態を驅つて、一切の交戰國にむかつて正しい平和を提議することなしに、絕えず平和に就いて無駄話をすること、更に之に加ふるに、自分等が破滅に陷れてゐる勞働者、農民及び兵卒にむかつて厚顏無恥にも次の如く言ふこと。即ち『諸君は辛抱せねばならぬ』、『ストリ

ピン主義者』ケレンスキーの政府を信頼せよ、いま一ケ月のあひだコルニロフ將軍を信頼せよ、恐らく彼等は一ヶ月の間に、更に數萬の兵卒を屠殺臺に送るであらう。……『諸君等は辛抱せねばならぬ』。

これが厚顏無恥ではないのか？

否、わが社會革命黨及びケレンスキーの黨友諸君よ、諸君は兵卒を迷はすことが出來ないであらう。勞働者と兵卒とはケレンスキー政府を一日たりとも、餘計な一時間たりとも、我慢出來ないであらう。といふのは、彼等は、ソヴィエット政府は卽時あらゆる戰爭せる人々に正しい平和を提議するであらうといふこと、かくして恐らく必ず卽時の休戰と急速な平和とが來るであらうといふことを知つてゐるからである。

吾々の農民軍の兵卒は、軍事的方策をもつて農民一揆を壓迫してゐるケレンスキー政府が、ソヴィエットの意志に反して權力を保持することを、たゞの一日たりとも、餘計な一時間とも最早我慢出來ないであらう。

否、わが社會革命黨、ケレンスキーのその黨友諸君、諸君は最早勞働者と農民とを欺くことが

出來ないであらう。

敵對勢力の壓迫はプロレタリアートの獨裁を一掃するであらうといふ、死の恐怖に曝されてゐる『ノヴァヤ・ジズン』の議論のうちには、然し更に、物を考へることが出來ないほど恐れをなしてゐるような人々のみが認め得ないような、恐るべき論理的政治的矛盾がひそんでゐる。

『敵對勢力の壓迫はプロレタリアートの獨裁を一掃するであらう』、と諸君は云ふ。よろしい。然し勿論、諸君、吾が尊敬する市民諸君は、みな國民經濟學者であり且つ教養ある人々である。諸君はみな、民主主義をブルジョアジーに對立することは無意味であり且つ無智を示すものであること、それはボンドをメートルに對立しようとするのと殆ど同一であることを知つてゐる。といふのは、民主主義的ブルジョアジーもあり、また非民主主義的な(王黨の資格を備へた)小ブルジョア階級層(小ブルジョアジー)もあるからである。

『敵對勢力』、それは一つの文句である。然しその階級的意味はブルジョアジー(その背後には又地主も控へてゐる)である。

ブルジョアジーと地主、プロレタリアート、小ブルジア階級卽ち小有產者(第一には農民)——

これが、ロシア並にあらゆる資本主義國が示してゐるところの、三つの基本的『勢力』である。これが卽ち、久しい以前からあらゆる資本主義にとつて科學的經濟的研究によつてのみならず、またすべての國々の全近世史の政治的經驗によつて、十八世紀以來のすべてのヨーロッパの革命によつて、一九〇五年及び一九一七年の二つのロシア革命の經驗によつて示されてゐるところの、三つの基本的『勢力』である

かくて諸君はプロレタリアを、ブルジョアジーの壓迫はその權力を一掃するであらうといふことを以て、威嚇するのか？　この、そしてこの意味をのみ、諸君の威嚇は持つてゐて、何等他の內容はそれにはないのである。

よろしい。若し、例へば、ブルジョアジーが勞働者及び最貧農民の權力を一掃することが出來るとすれば、『聯立』、卽ち小ブルジョアとブルジョアジーとの同盟又は妥協より外に道はない!!何か他のことは一度も考へられないだらう！

然し『聯立』は半年間試驗されて居り、それは失敗に導いて居り、そして、『ノヴァヤ・ジズン』の吾が尊敬する、然し非論理的な市民たる諸君自らが、聯立を放棄したのである。

そこでどういふ結論になるか？

『ノヴァヤ・ジズン』の紳士諸君、諸君は全く錯亂した、諸君は全く脅かされたのだ、——諸君は五つまでは愚か、三つまでさへ殆ど計算することが出來ず、また極めて愚鈍な考慮でさへ決して最後まで行ふことが出來ないほどに。

全權力をブルジアジーへか——このことを諸君は最早既に久しく辯護しないし、そしてブルジアジー自身もまた、（二行略）

最早それをおくびにも出さうとさへもしない。又は權力を小ブルジョア階級へか、卽ちブルジョアジーとのその聯立か。といふのは、すべての革命の經驗が證明する如く、また、資本主義國に於ては資本の側に立ち又は勞働の側に立つことは出來るが、如何なる場合にも中間に立つことは出來ないことを說明するところの、國民經濟學說がこれを證明する如く、小ブルジョア階級は自ら獨立では權力を執らうと欲しないし又取ることも出來ないからである。かういふ聯立はロシアでは半ケ年の間に何十種の方法で試驗され、そして完全な破滅に陷つた。

（一行略）　それは未だ試驗されて居らず、そして『ノヴィヤ・ジズン』の先生諸君は、諸君がブルジョアジーに對して持つてゐる諸君自身の恐怖を以て、民衆を威嚇することによつて彼等にそれを思ひ止らせようとしてゐる。

第四の方法は存在しない。

かくて、若し『ノヴァヤ・ジズン』がプロレタリアートの獨裁を恐れ、そしてプロレタリア權力がブルジョアジーによつて倒壞されさうだといふ理由のためにそれを斥けるならば、この態度は、資本との妥協政策への秘密の復歸と同意義なのである。（四行略）

『ノヴァヤ・ジズン』はこの矛盾に縛れこんだ。實際今日、聯立の破綻を見てそれを最早公然と辯護こそしないが、それと同時にブルジョアジーに保護されて、プロレタリ

ア及び貧農階級の單獨權力を恐怖するところ、すべての小ブルジョア民主主義者は、この矛盾に縛れこんだ。（三行略）

資本家の反抗力は既に吾々が之を見たし、全民衆が見たところである。といふのは、資本家は他の階級よりも一層自覺してゐて、直ちにソヴィエットの意義を把握したからである。專らソヴィエットを粉碎するために、それを無にするために、その（メンセヴィキ及び社會革命黨の援助を得て）操を賣るために、それをお饒舌の小屋に轉化するために、又農民及び勞働者を數ヶ月間のくだらぬ饒舌と革命遊びとによつて困憊させるために、資本家は直ちにすべての彼等の力を極度に緊張し、彼等はすべての人間能力を盡し、あらん限りの力を盡し、虚僞及び欺瞞の原顏無恥な手段に、軍事的陰謀に訴へた。

吾は資本家に對する如何に未使用の抵抗力が民衆のうちに眠つてゐるかを見るであらう。その時初めて、エンゲルスが『潜在的社會主義』と云つてゐるものが明らかになつてくるであらう。その時初めて、積極的行動により或は消極的反抗により、勞働者階級の權力に對して荒れ狂つてゐる明らさまな或は隱れた敵の一萬人に對してそれまで政治的に眠つてゐたものであり、彼等の貧困の苦しみと彼等の絶望とのうちに生きながらへてゐたものであり、自分等もまた人間であること、自分等もまた生きるための權利を持つてゐること、自分等にもまた近代的集中的國家の全權力が從屬し得るものであること、自分等もまたプロレタリアの民警として充分な責任をもつて國家行政への直接の、密接の、日々の參加に召集されるであらうといふことの信念を失つてゐたところの、新しき戰士の各々一百萬人が現はれる　（三行略）　その時初めて吾

資本家と地主とは、プレハノフ、ブレシュコフスカヤ、ツェレテリ、チェルノフ及びその一派の同情的應援を得て、民主共和國を汚し、富の前に額づいて、民衆が冷酷と無情にとらへられ民衆にとつては既に有らゆることが同一である（といふのは、飢えたる者は共和國と王國とを區別することが出來ず、他人の利益のために死ぬる、凍えた、跛足の、疲れはてた兵卒は、共和國から愛せられることが出來ないからである）ほど、甚だしく民主共和國を汚さんがために、あらゆる手段を盡した。

然し若し最後の一人の手傳男、あらゆる任意の失業者、あらゆる料理女、あらゆる破産した農民――が新聞からではなく、自分自身の眼をもつて、――プロレタリアの權力が富の前に凹つ這ひにならないで、貧困な人々を助けること、この權力が革命的方策の前に尻ごみしないこと、それが怠惰者から餘計な生産物を取り上げてそれを飢えた者に與へること、それが宿無き人々を强制的に富者の住居に宿らしめること、それがすべての貧しい家庭の子供が充分にその供給をうけるまでは、富者に一滴の牛乳をも與へないで、富者をして牛乳代を支拂はしめること、土地は勤勞者の手に、工場及び銀行は勞働者の管理のもとにおかれること、百萬長者の財産の隱匿に對し

ては、卽刻の且つ嚴重な刑罰が課せられることを見る時、貧しい人々が凡てそれらのことを見且つ感ずるであらう時、はじめて、　（八行略）

資本家諸君がボリセヴィキの權力、卽ち、最貧農からの無制限な支持を確實にうけてゐるところのプロレタリアートの權力を『一掃』するであらうといふことを恐れるとは！　何といふ短見、何といふ民衆に對する侮辱的な恐怖、何といふ欺瞞であらう！　かゝる恐怖を告白してゐる人々は、自らはそれを信ぜず、習慣的に、文句として、何等の內容をもそれへ附することなしに『正

義』といふ言葉を口にしてゐるところの、かの『より高い』（資本主義的概念に於てより高い、そして現實に於ては腐敗せる）社會に屬するものである。

こゝに一例がある。

ペシェホノフ君は有名な半カデットである。此のブレシュコフスカヤ及びプレハノフの心の友のように、中庸を得たトゥルドヴィキはゐない。これほどブルジョアジーに從順な大臣はかつてなかつた。これほど『聯立』の、卽ち資本家との妥協の花々しい追從者は、世界に未だ曾てなかつた！

そして此の紳士は『民主』（卽ちブリギン）會議に於けるその演說に於て、愛國社會主義的『イズヴェスチア』の報告と一致して、次の如く白狀しなければならなかつた。

『二つの綱領がある。一つは、個々の團體の要求、階級及び民族の要求を代表するものである。かゝる綱領をボリセヴィキは最も率直に擁護してゐる。然し民主主義の他の部分もまた、決して容易にこの綱領を否定することは出來ぬ。といふのは、それは勤勞大衆の認識であり、以前常に無視され且つ壓迫されてゐた諸民族の要求であるからである。そしてそれ故に、何より第一に、民主主義にとつては、ボリゼヴィキと分離すること、この階級的要求を拒絕することは、中々容